

シラバス

(講義概要)

前期博士課程
(修士課程)
後期博士課程

平成30年度
(2018年度)

大阪市立大学
大学院生活科学研究科

※科目ナンバリングとは

学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。各桁のナンバーは、以下の内容を表しています。

研究科	コース	科 目 分 野			学習段階	対象学年	連番	
1	2	3	4	5	6	7	8	9
H (生活科学研究科)	D (食・健康科学)	A 専門基礎科目 B 専門応用科目 C その他	D 家庭科教諭 E 栄養教諭必須 F 栄養教諭選択 G 臨床栄養士養成 プログラム必須 H その他	I 講義 J 演習 K その他	6 特論 7 実習・演習・実験 8 その他	5 前期博士 課程 6 後期博士 課程		
	E (居住環境学)	PLA 計画 ENV 環境工学・設備 STR 構造・材料 MIS 生産・法規・他 ITS インターンシップ						
	F (総合福祉科学)	SWG 総合福祉科学(大学院)						
	G (臨床心理学)	CPL 臨床心理学(講義) CPS 臨床心理学(演習)						
	H (全コース共通)	HLS 全コース共通 ASM 前期特別研究 ASD 後期特別研究						

平成30年度（2018年度）生活科学専攻開講科目

【前期博士課程（各コース）】

講座	コース	科目ナンバリング	授 業 科 目	担当者	学 他 生 研 の 究 履 科 修 等	ペ ー ジ
食・健康科学講座	食・健康科学コース	HD ADI 6 501	食品機能科学特論	増田	○	1
		HD ADJ 7 501	食品機能科学特論演習	増田	×	2
		HD ADI 6 502	食品微生物学特論	西川	○	3
		HD ADJ 7 502	食品微生物学特論演習	西川	×	4
		HD AFI 6 501	免疫栄養学特論	西川・中台	×	5
		HD AHI 6 506	食品生体防御学特論	中台	×	6
		HD AHJ 7 504	食品生体防御学特論演習	中台	×	7
		HD ADI 6 503	食品衛生科学特論	古澤	○	8
		HD AHJ 7 501	食品衛生科学特論演習	古澤	×	9
		HD AFI 6 502	食品衛生教育科学特論	古澤	×	10
		HD AHI 6 501	食品酵素学特論	伊藤	○	11
		HD AHI 6 502	食品栄養科学特別講義	佐伯 他	○	12
		HD AHJ 7 502	栄養機能科学特論演習	小島	×	13
		HD ADI 6 504	生体エネルギー学特論	市川	○	14
		HD ADJ 7 503	生体エネルギー学特論演習	市川	×	15
		HD ADI 6 505	栄養病理学特論	小島	○	16
		HD BFI 6 501	発達臨床栄養学特論	小島	○	17
		HD BFJ 7 501	発達臨床栄養学特論演習	小島	×	18
		HD BDI 6 501	公衆栄養学特論	由田	×	19
		HD BDJ 7 501	公衆栄養学特論演習	由田	×	20
		HD BDI 6 502	栄養疫学特論	由田	×	21
		HD BHI 6 504	実践栄養学特論	由田 他	×	22
		HD BFI 6 502	発達公衆栄養学特論Ⅰ	由田・福村	○	23
		HD BFI 6 503	発達公衆栄養学特論Ⅱ	由田・福村	○	24
		HD AFI 6 503	栄養医科学特論Ⅰ	羽生	○	25
		HD AHI 6 503	栄養医科学特論Ⅱ	羽生	○	26
		HD AGI 6 503	肝胆膵病学特論Ⅰ	羽生	×	27
		HD BGJ 7 501	N S T 特論演習	羽生・安井	×	28
		HD BHI 6 501	臨床現場における栄養管理特論	安井	○	29
		HD BHJ 7 501	臨床現場における栄養管理特論演習	安井	×	30
		HD BGI 6 501	臨床栄養治療特論Ⅰ	安井	×	31
		HD BGI 6 502	臨床栄養治療特論Ⅱ	安井	×	32
		HD BGJ 7 502	実践栄養治療特論演習	羽生・安井	×	33
		HD ADI 6 506	生体情報学特論	佐伯	×	34
		HD AHJ 7 503	生体情報学特論演習	佐伯	×	35
		HD AHI 6 504	生体機能学特論	金	○	36
		HD AHJ 6 505	生体機能学特論演習	金	×	37
		HD BDI 6 503	栄養教育特論		○	38
		HD BDJ 7 502	栄養教育特論演習		×	39
		HD BEI 6 501	健康栄養教育特論Ⅰ	(春木)	×	40
		HD BEI 6 502	健康栄養教育特論Ⅱ	(春木)	×	41
		HD BFJ 7 502	健康栄養教育特論演習	(春木)	×	42
		HD BHI 6 502	給食経営管理特論	上田	×	43
		HD BFI 6 504	学校栄養・食事指導特論	上田	×	44
		HD BFJ 7 503	学校栄養・食事指導特論演習	上田	×	45
		HD BHI 6 503	応用栄養学特論	福村	×	46
		HD BHJ 7 502	応用栄養学特論演習	福村	×	47
		HD AHI 6 505	身体運動・スポーツ科学特論	渡辺	○	48
		HD AFI 6 504	食文化特論	(南) 他	○	49
		HD ASM 8 501	前期特別研究	各教員	×	50

※担当者（ ）は、非常勤講師

平成30年度（2018年度）生活科学専攻開講科目

講座	コース	科目ナンバリング	授 業 科 目	担当者	学 他 生 研 の 究 履 科 修 等	ペ ー ジ
居住環境学講座	居住環境学コース	HE PLA 6 501	まちづくり学特論	中野	○	51
		HE PLA 7 501	まちづくり学特論演習	中野	×	52
		HE PLA 6 502	住生活学特論	小伊藤	○	53
		HE PLA 7 502	住生活学特論演習	小伊藤	×	54
		HE MIS 6 502	居住システム学特論	瀧澤	○	55
		HE MIS 7 502	居住システム学特論演習	瀧澤	×	56
		HE PLA 6 503	居住文化史特論	福田	○	57
		HE PLA 6 504	住居意匠学特論	(藤田治)	×	58
		HE PLA 6 505	居住空間設計特論Ⅰ*	小池	○	59
		HE PLA 6 506	居住空間設計特論Ⅱ	松下	○	60
		HE PLA 7 503	居住空間設計特論演習*	松下	×	61
		HE PLA 6 507	居住福祉計画学特論	森	○	62
		HE PLA 7 504	居住福祉環境設計特論演習*	森・(竹原)・(松本)	○	63
		HE PLA 6 508	福祉住宅設計学特論*	上田博	×	64
		HE PLA 6 509	住居人類学特論	上田博	○	65
		HE ENV 6 501	人間工学特論	岡田	○	66
		HE ENV 7 501	人間工学特論演習	岡田	○	67
		HE ENV 6 502	福祉機器設計論特論	(相良)	○	68
		HE ENV 6 503	住居安全工学特論	生田	○	69
		HE ENV 6 504	居住環境工学特論*	永村	△	70
		HE ENV 7 502	居住環境システム設計特論演習*	永村	△	71
		HE ENV 7 503	居住環境設備設計特論演習*	ファナム	△	72
		HE STR 6 501	居住環境材料学特論	渡部・岡本・(辻)	○	73
		HE STR 7 501	居住環境材料学特論演習	渡部	×	74
		HE STR 6 503	環境材料感性学特論	酒井	○	75
		HE STR 6 504	居住環境構工法学特論*	渡部	△	76
		HE ITS 8 501	設計インターンシップⅠ*	森・(衛藤) 他	△	77
		HE ITS 8 502	設計インターンシップⅡ*	小池・(高橋) 他	△	78
		HE ITS 8 503	設計インターンシップⅢ*	永村 他	△	79
		HE ITS 8 504	設計インターンシップⅣ	岡田 他	△	80
		HE ITS 8 505	設計インターンシップⅤ	渡部 他	△	81
		HE PLA 6 510	設計プロジェクトマネジメント特論*	森・(竹原)・(衛藤)	△	82
		HE ASM 8 501	前期特別研究	各教員	×	83
		*一級建築士実務経験に関わるインターンシップおよび関連して必要となる科目				

※担当者（ ）は、非常勤講師

平成30年度（2018年度）生活科学専攻開講科目

講座	コース	科目ナンバリング	授 業 科 目	担当者	学 他 生 研 の 究 履 科 修 等	ペ ー ジ
		HF SWG 6 502	社会福祉学特論	岡田	○	85
		HF SWG 6 504	福祉科学研究特論	岡田	×	86
		HF SWG 6 505	福祉政策学特論	所	○	87
		HF SWG 6 506	国際比較研究特論	所	○	88
		HF SWG 6 507	社会開発学特論Ⅰ	堀口	○	89
		HF SWG 6 508	社会開発学特論Ⅱ	堀口	○	90
		HF SWG 6 509	福祉システム学特論	大西	○	91
		HF SWG 6 510	精神保健福祉学特論	大西	○	92
		HF SWG 6 520	教育臨床学特論Ⅰ	中井	×	93
		HF SWG 6 521	教育臨床学特論Ⅱ	中井	×	94
		HF SWG 6 513	居住福祉学特論	野村	○	95
		HF SWG 6 514	地域福祉学特論	野村	○	96
		HF SWG 6 515	家族社会学特論	松木	○	97
		HF SWG 6 516	質的研究法特論	松木	○	98
		HF SWG 6 522	社会政策学特論	垣田	○	99
		HF SWG 6 523	社会保障特論	垣田	○	100
		HF SWG 6 524	先端ケア学特論Ⅰ	鵜川	×	101
		HF SWG 6 525	先端ケア学特論Ⅱ	鵜川	×	102
		HF SWG 6 518	子ども家庭福祉特論	中島	○	103
		HF SWG 6 517	権利擁護実践特論	鵜浦	○	104
		HF SWG 6 519	リハビリテーション特論	(松本)	×	105
		HF SWG 6 501	ソーシャルワーク特論		○	106
		HF ASM 8 501	前期特別研究	各教員	×	107

※担当者（ ）は、非常勤講師

平成30年度（2018年度）生活科学専攻開講科目

講座	コース	科目ナンバリング	授 業 科 目	担当者	学 他 生 研 の 究 履 科 修 等	ペ ー ジ
総合福祉・心理臨床科学講座	臨床心理学コース	HG CPL 6 501	発達障がい支援特論	三船	×	109
		HG CPL 6 503	人格心理学特論	後藤	×	110
		HG CPL 6 504	臨床心理学特論Ⅰ	三船	×	111
		HG CPL 6 505	臨床心理学特論Ⅱ	篠田	×	112
		HG CPS 7 501	臨床心理学事例研究法	館	×	113
		HG CPS 7 502	臨床心理実習Ⅰ	三船・後藤	×	114
		HG CPS 7 503	臨床心理実習Ⅱ	三船・後藤	×	115
		HG CPL 6 506	臨床心理面接特論Ⅰ	長濱	×	116
		HG CPL 6 507	臨床心理面接特論Ⅱ	三船	×	117
		HG CPS 7 504	臨床心理基礎実習Ⅰ	篠田・長濱	×	118
		HG CPS 7 505	臨床心理基礎実習Ⅱ	篠田・長濱	×	119
		HG CPL 6 508	力学的精神療法学特論	館	×	120
		HG CPL 6 509	周産期家族臨床学特論	長濱	×	121
		HG CPL 6 512	高齢者心理学特論	篠田	×	122
		HG CPS 7 508	臨床心理査定演習Ⅰ	篠田	×	123
		HG CPS 7 509	臨床心理査定演習Ⅱ	弘田	×	124
		HG CPL 6 513	障がい者（児）心理学特論	篠田・（鈴木）	×	125
		HG CPL 6 516	スクールカウンセリング特論	篠田・（金岡）	×	126
		HG CPL 6 517	心理療法学特論	弘田	×	127
		HG CPL 6 518	精神医学特論	三船・（平井）	×	128
		HG CPL 6 521	犯罪心理学特論	篠田・（緒方）	×	129
		HG CPL 6 522	産業・労働心理学特論	弘田	×	130
		HG CPL 6 523	健康心理学特論	弘田	×	131
		HG CPS 7 510	心理実践実習	三船・篠田・長濱・後藤	×	132
		HG CPL 6 502	人間関係学特論	三船	×	133
		HG CPL 6 514	カウンセリング特論	三船・（大塚）・（氏原）	×	134
		HG CPL 6 519	心身医学特論	三船・（黒川）	×	135

※担当者（ ）は、非常勤講師

平成30年度（2018年度）生活科学専攻開講科目

【前期博士課程（全コース共通）】

講座	コース	科目ナンバリング	授 業 科 目	担当者	学他 研究 履科 修等	ペ ー ジ
全講座	全コース	HH HLS 6 5 0 1	生活科学論ゼミナール	西川 他	×	137
		HH HLS 6 5 0 2	生活応用統計学特論	永村・佐伯	○	138
		HH HLS 7 5 0 1	国際科学コミュニケーション	ファナム・早見	×	139

【後期博士課程】

コース	科目ナンバリング	授 業 科 目	担当者	学他 研究 履科 修等	ペ ー ジ
食・健康 科学 コース	HD ASD 8 6 0 1	後期特別研究	各教員	×	141
居住 環境学 コース	HE ASD 8 6 0 1	後期特別研究	各教員	×	142
総合福祉 科学 コース	HF ASD 8 6 0 1	後期特別研究	各教員	×	143
臨床 心理学 コース	HG ASD 8 6 0 1	後期特別研究	各教員	×	144

前期博士課程

食・健康科学コース

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】食品機能科学特論
【英語表記】Advanced Food Science
【科目ナンバリング】HDADI6501
【担当教員】増田 俊哉
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

近年、先進国の食品には、従来の栄養機能のみならず、二次、三次と言われる様々な機能が期待されている。このような機能性食品といわれる食品には、機能性を発現する特有な成分が存在するため、その成分を検出、分析し、さらに化学構造のレベルで特定することは、機能性食品の評価から開発に至るまで必要かつ不可欠である。本授業ではポリフェノールなどの食材・食品の機能性成分の精密な分析法を紹介し、その機能についても言及する。また、保蔵や加工の際にみられる成分変化についても触れる。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	食品成分の機器分析概論	
2	質量分析法による食品機能成分分析-1	原理
3	質量分析法による食品機能成分分析-2	ハードイオン化
4	質量分析法による食品機能成分分析-3	ソフトイオン化
5	質量分析法による食品機能成分分析-4	質量分離法のシンポ
6	UV-VIS法による食品機能成分分析	
7	IR法による食品機能成分分析-1	原理
8	IR法による食品機能成分分析-2	官能基の分析
9	^1H -& ^{13}C -NMR分光法による食品機能成分分析-1	原理
10	^1H -& ^{13}C -NMR分光法による食品機能成分分析-2	化学シフト
11	^1H -& ^{13}C -NMR分光法による食品機能成分分析-3	カップリング解析
12	^2D -NMR分光法による食品機能成分分析-1	原理と方法の紹介
13	^2D -NMR分光法による食品機能成分分析-2	解析の方法
14	食品機能成分の構造変化とその解析-1	クロマト分析
15	食品機能成分の構造変化とその解析-2	成分間反応の解析

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

課題レポートの内容と授業への参加状況で評価する。

【教材】

ビギナーズ有機構造解析（化学同人）をテキストとして利用する。その他参考書やデータ集は講義中に紹介する。

【受講生へのコメント】

食品を、物質化学（有機化学、分析化学）的な面から考察するきっかけにしてください。

【開講年度・学期】2018 年度・通年
【科目名】食品機能科学特論演習
【英語表記】Workshop in Advanced Food Science
【科目ナンバリング】HDADJ7501
【担当教員】増田 俊哉
【授業形態】演習
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

食品機能化学特論の内容に関係し、最近の食品機能及びその成分に関する動向を調査する。
また、機能成分分析データの解析能力も養成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	反応機構演習-1	電子論とMO法
2	反応機構演習-2	基本反応
3	反応機構演習-3	縮合反応
4	反応機構演習-4	総合問題
5	スペクトル解析演習-1	MS分子イオンピーク
6	スペクトル解析演習-2	MSフラグメント
7	スペクトル解析演習-3	NMR化学シフト
8	スペクトル解析演習-4	NMRカップリング
9	HPLC操作演習-1	クロマトの原理
10	HPLC操作演習-2	HPLC検出法
11	HPLC操作演習-3	カラムの選択
12	HPLC操作演習-4	LC-MS
13	学術論文輪読-1	J. Agric. Food Chem.
14	学術論文輪読-2	Food Chemistry
15	学術論文輪読-3	その他の食品ジャーナル

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

発表、解析結果などを総合的に評価する。

【教材】

特になし。データ解析演習は資料配布。紹介文献がある場合は、受講者にあらかじめ配布。

【受講生へのコメント】

学術論文をそのまま読むのではなく、目的の意義、研究デザイン、考察の論理などを深く読み取り、批評できる実力を付けてください。また、実際の研究に使えるデータ解析力を付けてください。

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】食品微生物学特論
【英語表記】Advanced Food Microbiology
【科目ナンバリング】HDADI6502
【担当教員】西川 禎一
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

現在、食品の安全性に対する市民の危機意識は高く、より高次の対応が求められている。当講義では、食品の衛生管理について、特に微生物による汚染・変質・食中毒の予防を中心に知識を授け、最新情報を収集し論議する。食品の衛生管理者として実務上の施策を設定できる基礎的能力を養う。また、微生物の有効利用による健康増進の可能性についても論じる。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	食品微生物学の基礎知識・1	衛生指標菌とHACCP
2	食品微生物学の基礎知識・2	感染型細菌性食中毒
3	食品微生物学の基礎知識・3	毒素型細菌性食中毒
4	食品微生物学の基礎知識・4	ウイルス性食中毒
5	食品微生物学の基礎知識・5	寄生虫による食中毒
6	HACCPプラン作成シミュレーション・1	危害分析
7	HACCPプラン作成シミュレーション・2	フロー図作成
8	HACCPプラン作成シミュレーション・3	重要管理点と管理基準の設定
9	発酵食品の歴史、種類、製造方法	
10	発酵食品の効用と機序	
11	プロバイオティクスの効用	
12	プロバイオティクスの作用機序	
13	自由課題のプレゼンテーション・1	病原微生物の疫学と病原機構
14	自由課題のプレゼンテーション・2	食品製造における微生物の制御と利用
15	自由課題のプレゼンテーション・3	常在細菌と疾患の関連

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート、セミナーの発表内容と考察を評価する。

【教材】

プリント配布

「よくわかる食品有害微生物問題集」 幸書房

【受講生へのコメント】

腸管出血性大腸菌、ノロウイルス、鳥インフルエンザ、E型肝炎ウイルスなど食の安全に関わる新たな問題が列挙の暇なく出現しています。基礎を学び、最新情報を収集して共に検討することで知識の更新と応用力の向上を図りましょう。

【開講年度・学期】2018年度・通年
【科目名】食品微生物学特論演習
【英語表記】Exercise in Advanced Food Microbiology
【科目ナンバリング】HDADJ7502
【担当教員】西川 禎一
【授業形態】演習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

食品微生物学の最新研究論文を検討し、研究評価能力を高めると同時に各自の研究に応用する発想を促す。また、プレゼンテーション技術の向上を図る。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	腸管病原性大腸菌演習・1	疫学情報
2	腸管病原性大腸菌演習・2	病原機構
3	腸管毒素原性大腸菌演習・1	疫学情報
4	腸管毒素原性大腸菌演習・2	病原機構
5	腸管出血性大腸菌演習・1	疫学情報
6	腸管出血性大腸菌演習・2	病原機構
7	腸管侵入性大腸菌・赤痢菌・腸チフス菌演習・1	疫学情報
8	腸管侵入性大腸菌・赤痢菌・腸チフス菌演習・2	病原機構
9	腸管凝集接着性大腸菌演習・1	疫学情報
10	腸管凝集接着性大腸菌演習・2	病原機構
11	腸管分散接着性大腸菌演習・1	疫学情報
12	腸管分散接着性大腸菌演習・2	病原機構
13	その他の下痢原性細菌	集団発生などの疫学トピックス
14	プロバイオティクス演習・1	病原微生物との競合
15	プロバイオティクス演習・2	宿主生体防御機能への効果

【授業内容・授業計画】

微生物の有効利用による健康増進（特に生体防御機能の賦活）や抗加齢の可能性、食媒介感染症原因菌の病原機構とその検出方法について受講者自らが最新の情報を論ずることを課す。毎回、2名の口演者による論文紹介のプレゼンテーションと発表内容に対する質疑応答を中心に授業を進める。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

セミナーの発表内容と質疑応答を評価。

【教材】

細菌学、食品微生物学、老化、生体防御などに関連した国際的な学術誌に掲載の論文を適宜選択

【受講生へのコメント】

演習は大学院における研究者教育の核となるものです。他者の論文を、あたかも自らの研究データのようにバックグラウンドも含めて理解し、自分の研究を発表するつもりで紹介すれば、プレゼンテーションのスキルアップにもつながります。

【開講年度・学期】 2019年度・後期（隔年開講 2018年度休講）
【科目名】 免疫栄養学特論
【英語表記】 Advanced Immunonutrition
【科目ナンバリング】 HDAFI6501
【担当教員】 西川 禎一・中台 枝里子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食品とその栄養が人の免疫機能に及ぼす影響に関する基礎知識を先ず修得する。次に、食品を介した感染症やアレルギーなどの生物学的危害について学ぶとともに、人の健康増進（特に生体防御能の発達と維持および賦活）における食品の役割を、プロバイオティクスなどの有用微生物や栄養成分を中心に考察する。また、食物アレルギーを題材として発生病機や予防方法に関する最新情報を受講者各人が収集し解説する。このような作業を通じて、収集した知識を整理し平易に解説する口演能力の涵養を図る。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	生体防御学の基礎知識・1	自然免疫と生体バリアー
2	生体防御学の基礎知識・2	液性免疫
3	生体防御学の基礎知識・3	細胞性免疫
4	生体防御学の基礎知識・4	免疫寛容
5	生体防御学の基礎知識・5	自己免疫疾患
6	栄養と免疫・1	栄養不良による免疫力の低下
7	栄養と免疫・2	栄養素による免疫力の調節
8	栄養と免疫・3	免疫賦活効果を有する食品成分
9	栄養と免疫・4	免疫力のホルミシス効果
10	栄養と免疫・5	疾病が免疫力に及ぼす影響
11	過敏症の機序	
12	過敏症の予防	
13	自由課題のプレゼンテーション・1	周術期管理・腫瘍免疫
14	自由課題のプレゼンテーション・2	感染症対策
15	自由課題のプレゼンテーション・3	過敏症対策

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

セミナーの発表内容とプレゼンテーションのスキルを評価する。

【教材】

プリント配布
 「食物アレルギーの手びき」 南江堂
 「食品と生体防御」 講談社
 「シンプル免疫学」 南江堂
 「食品とからだ」 朝倉書店

【受講生へのコメント】

学部学生時代に学んだ免疫学を復習した後、食物アレルギーについて受講者各自が文献情報を整理し、食物アレルギーやアトピーについて児童にも理解可能な説明をすることができると管理栄養士を目指してください。

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】食品生体防御学特論
【英語表記】Advanced Food Immunology
【科目ナンバリング】HDAHI6506
【担当教員】中台 枝里子
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成29年度以降入学対象）

【科目の主題】

現代社会ではアレルギーや自己免疫による疾病に悩む人々が数多く見られ、食と生体防御機構の関係性やそのメカニズムを理解することの重要性が増している。本講義では、生体防御機構の基本的知識について復習し、種々の疾患における生体防御機構の働き、あるいは人のライフスタイルや食品成分が生体防御に及ぼす影響について論じる。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 食品生体防御学の基礎知識、概論
2. 感染に対する生体防御
3. 癌における生体防御
4. 自己免疫疾患
5. アレルギー疾患
6. 栄養と生体防御
7. 食生活と疾患（癌）
8. 食生活と疾患（自己免疫疾患）
9. 食生活と疾患（アレルギー疾患）
10. プロバイオティクス
11. 現代社会における課題（テーマ探索）
12. 現代社会における課題（調査）
13. 現代社会における課題（まとめ）
14. 現代社会における課題（発表）
15. 総括

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

レポート、セミナーの発表内容と考察を評価する。

【教材】

「シンプル免疫学」南江堂
適宜プリント配布

【受講生へのコメント】

アレルギーや自己免疫疾患、癌など食と密接に関わる様々な疾患の基礎や現代社会において浮かび上がる課題など、皆さんが理解しておくべきことがたくさんあります。まずは基礎を復習し、最新情報を収集して共に検討することで知識の更新と応用力の向上を図りましょう。

【開講年度・学期】2018年度・通年
【科目名】食品生体防御学特論演習
【英語表記】Exercise in Advanced Food Immunology
【科目ナンバリング】HDAHJ7504
【担当教員】中台 枝里子
【授業形態】演習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成29年度以降入学者対象）

【科目の主題】

食品生体防御学の最新研究論文や基礎となる技術に関する重要な研究論文を検討し、研究評価能力を高めると同時に各自の研究に応用する発想を促す。また、プレゼンテーション技術の向上を図る。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

1. 分子生物学の基礎
2. 細胞生物学の基礎
3. 遺伝学の基礎
4. 免疫学の基礎（自然免疫）
5. 免疫学の基礎（獲得免疫）
6. 病原微生物
7. 食品などに用いられる有益な微生物
8. モデル生物を用いた研究
9. 老化のメカニズムに関する研究
10. 食関連行動に関する研究
11. 味覚に関する研究
12. 新しい遺伝子解析手法など
13. ゲノム編集など
14. バイオインフォマティクス
15. 総括

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

発表内容と質疑応答を評価。

【教材】

生体防御、老化、微生物学などに関連した国際的な学術誌に掲載の論文を適宜選択

【受講生へのコメント】

演習は大学院における研究者教育の核となるものです。他者の論文を、あたかも自らの研究データのようにバックグラウンドも含めて理解し、自分の研究を発表するつもりで紹介すれば、プレゼンテーションのスキルアップにもつながります。

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】食品衛生科学特論
【英語表記】Advanced Food Hygiene Science
【科目ナンバリング】HDADI6503
【担当教員】古澤 直人
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

多種多様な食料の国際的貿易が盛んになり続けている現代において、食品の安全性確保の観点から、各種化学物質の残留および汚染問題をグローバルに取り上げ、その対策法等を各論的に、さらに総括的に考察する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	各種化学物質とは1	化学物質の法的分類
2	各種化学物質とは1	薬理作用別分類
3	化学物質残留による公衆衛生への影響1	残留問題
4	化学物質残留による公衆衛生への影響2	生産段階における残留と規制
5	化学物質残留による公衆衛生への影響3	残留防止策
6	化学物質残留による公衆衛生への影響4	薬剤耐性菌について
7	残留基準ならびに安全性評価1	残留基準設定
8	残留基準ならびに安全性評価2	CodexおよびFDAのMRLの設定について
9	残留基準ならびに安全性評価3	安全性評価
10	残留ならびに汚染の実態1	国産食品の残留モニタリング検査
11	残留ならびに汚染の実態2	輸入食品の検査
12	残留ならびに汚染の実態3	代謝物の残留について
13	残留ならびに汚染の実態4	各国の残留モニタリング検査結果
14	残留問題の国際的動向1	リスク分析法
15	残留問題の国際的動向2	規制および分析法のハーモニゼーション

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

本講義に臨む姿勢、講義中の試問への対応および課題レポート

【教材】

適宜資料配布

【受講生へのコメント】

食の安全に対する己の考えを強く抱いて本講義に望んで下さい。

【開講年度・学期】2018年度・通年
【科目名】食品衛生科学特論演習
【英語表記】Exercise in Advanced Food Hygiene Science
【科目ナンバリング】HDAHJ7501
【担当教員】古澤 直人
【授業形態】演習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

食品の安全性確保の基盤となる研究の論文から得られた知見の把握とプレゼンテーション法の習得。つまり、広義の食品安全に関する国際科学研究論文ならびに国際基準機関発行冊子（原本）の読解とそれらの内容についての議論、さらにHOW TO国際誌への投稿と国際会議でのプレゼンテーション。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	科学論文の読解と議論1	Codex委員会について（原本）
2	科学論文の読解と議論2	Codexガイドライン（原本）
3	科学論文の読解と議論3	Codex規格（原本）
4	科学論文の読解と議論4	残留分析の適格性評価（原本）
5	科学論文の読解と議論5	動物用医薬品の残留分析法について
6	科学論文の読解と議論6	食品添加物の定量分析法について
7	科学論文の読解と議論7	環境汚染物質の分析法について
8	研究英語のプレゼンテーション1	科学英語論文の種類
9	研究英語のプレゼンテーション2	科学英語論文の基礎
10	研究英語のプレゼンテーション3	プレゼンから論文英文へ
11	研究英語のプレゼンテーション4	英語論文の書き方
12	研究英語のプレゼンテーション5	雑誌への投稿
13	研究英語のプレゼンテーション6	レフェリーの指摘・質問に対する応対
14	研究英語のプレゼンテーション7	プレゼンの準備
15	研究英語のプレゼンテーション8	電子メール、コミュニケーション

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題のプレゼンテーション

【教材】

適宜資料配布

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】2018年度・前期（隔年開講 2019年度休講）
【科目名】 食品衛生教育科学特論
【英語表記】 Teaching Food Hygiene Science
【科目ナンバリング】 HDAFI6502
【担当教員】 古澤 直人
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食品衛生学的「食育」法の習得。児童・生徒の健康のために、健全な食べ物の供給をはかり、食べ物を安全に摂取するために、これまで制定された法律、行政制度、食品安全の規格、基準、リスク分析手法などを学ぶ。次いで、児童の食生活を取り巻く環境において、食品に含まれる微生物、化学物質の安全性などについて、食品衛生学的観点から専門知識を習得すると同時に、食に関わる高度の専門的職業人や教育者として習得した知識を実践し、また知識を広めることができる応用的な力を養う。さらに、児童・生徒に対する食品衛生教育の進め方について学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	健全な食品の供給体制1	法的規制
2	健全な食品の供給体制2	食品安全の規格
3	健全な食品の供給体制3	安全基準
4	健全な食品の供給体制4	リスク分析について
5	健全な食品の供給体制5	リスク分析の実際
6	食生活と食品衛生1	残留化学物質の薬剤耐性菌について
7	食生活と食品衛生2	飼料添加物の残留
8	食生活と食品衛生3	動物用医薬品の残留
9	食生活と食品衛生4	食品添加物
10	食生活と食品衛生5	環境ホルモン、ダイオキシン
11	食品衛生教育と児童1	家庭で落とせる残留化学物質のポイント
12	食品衛生教育と児童2	家庭で減らせる食品添加物のポイント
13	食品衛生教育と児童3	家庭でできる食中毒防止のポイント
14	食品安全委員会1	「キッズボックス」について
15	食品安全委員会2	食品安全モニターについて

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題提出レポート

【教材】

資料配布

【受講生へのコメント】

一教育者の姿勢で本講義に臨んで下さい。

【開講年度・学期】2018年度・前期集中
【科目名】食品酵素学特論
【英語表記】Advanced Food Enzymology
【科目ナンバリング】HDAHI6501
【担当教員】伊藤 和央（理学研究科 生物分子機能学）
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

食品に求められる最も重要な要素の1つは安全性である。その生産や加工の上で必要な化学反応を進行させる触媒として、タンパク質を本体とする酵素は生体にとって最も安全な触媒といえる。人類は古より経験的に様々な形態でこれを食品に利用してきた。また、近年の目覚ましい生化学の発展とともに積極的に酵素の機能を利用できるようになり、特に食品関連分野への利用はこれからますます発展していくことが期待される。このため、酵素の基礎的な性質を理解することが重要となる。また、複雑な成分から成る食品には酵素の特異性が重要であるとともにその利用には様々な条件が要求されることを理解する必要がある。本講義では、酵素の性質とその食品分野への有用性の理解をめざす。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

まず、生体触媒としての酵素の基本的な性質を概説する。そして、その特異的な機能を利用した様々な食品の生産や加工について例を挙げて説明する。また、酵素機能の利用形態についても概説する。特に、糖質やタンパク質などの主要食品成分に関連する酵素の生化学的機能を、これら酵素の給源や生産などをまじえて概説する。また、食品以外の分野における酵素の利用についても紹介する。

1. 酵素の基礎
2. 酵素の研究と応用の歴史
3. 食品への酵素の利用
4. 糖質関連用酵素
5. タンパク質、アミノ酸関連用酵素
6. 油脂加工用酵素
7. 核酸加工用酵素
8. 食品の酵素加工による機能性食品
9. その他の食品関連用酵素
10. 産業用酵素の利用形態
11. 繊維加工における酵素の利用
12. 製紙用酵素およびその他の工業用酵素
13. 生体分析用酵素
14. 医薬用酵素
15. ライフサイエンスにおける酵素の利用

【事前・事後学習の内容】

毎回の講義で指示する

【評価方法】

授業への参加を総合的に評価

【教材】

特にテキストは指定しないが酵素関連の専門書を参考にすることを薦める。

【受講生へのコメント】

食品と酵素のかかわりを理解し、食品分野への酵素機能の利用を期待する。

【開講年度・学期】2019年度・通年集中（隔年開講 2018年度休講）
【科目名】食品栄養科学特別講義
【英語表記】Special Lectures on Food and Nutrition
【科目ナンバリング】HDAHI6502
【担当教員】佐伯 茂・酒井 寿郎（非常勤講師）・内田 浩二（非常勤講師）
池田 郁男（非常勤講師）・岡村 智教（非常勤講師）
小野 栄夫（非常勤講師）
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

この講義では、学外より講師を招き、食健康科学分野における幅広い話題の提供を受ける。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

植物性食素材をはじめとする多くの食品には抗発ガンプロモーターや種々の薬理作用を有する成分が含まれている。本講義では、生理機能物質の化学や構造一括性相関、さらには作用機構について解説するとともに機能性食品成分に関連する国内外の最新の動向について論述する。また、食品因子が腸管におよぼす機能について、食物と健康に関わる課題を提起する。

- | | | | | |
|----|------|----|----|------|
| 1. | 佐伯茂 | 教授 | 1回 | 集中講義 |
| 2. | 酒井寿郎 | 講師 | 3回 | 集中講義 |
| 3. | 内田浩二 | 講師 | 3回 | 集中講義 |
| 4. | 池田郁男 | 講師 | 3回 | 集中講義 |
| 5. | 岡村智教 | 講師 | 3回 | 集中講義 |
| 6. | 小野栄夫 | 講師 | 3回 | 集中講義 |

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

【教材】

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】2018 年度・通年
【科目名】 栄養機能科学特論演習
【英語表記】 Exercise in the Science of Nutritional Functions
【科目ナンバリング】 HDAHJ7502
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

栄養機能科学分野の研究の現状と問題点を把握し、それらに対処する研究方法を習得させることを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】 各回、時間割の記載に関わらず4講義時間（2コマ）の演習を行う。

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	文献検索 1	Web of Science、PubMedなどの使用方法
2	文献検索 2	研究テーマに関連する文献の検索
3	論文紹介 1	論文紹介のためのレジュメの書き方
4	論文紹介 2	論文紹介のためのスライド作製法
5	論文紹介 3	各自が選択した論文紹介
6	論文紹介 4	発表に関してディスカッション
7	生体機能調節因子の検索 1	評価系について- <i>in vitro</i> 実験系
8	生体機能調節因子の検索 2	論文紹介
9	生体機能調節因子の検索 3	評価系について- <i>in vivo</i> 実験系
10	生体機能調節因子の検索 4	論文紹介
11	研究課題 1	研究結果についてレジュメ作製
12	研究課題 2	研究結果についてスライド作製
13	研究課題 3	研究結果について発表
14	プレゼンテーション法 1	学会等での発表 準備編
15	プレゼンテーション法 2	学会等での発表 実践編

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

プレゼンテーションの方法および内容、質疑応答を評価。

【教材】

随時プリントを配付する。

【受講生へのコメント】

特になし。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 生体エネルギー学特論
【英語表記】 Bioenergetics
【科目ナンバリング】 HDADI6504
【担当教員】 市川 直樹
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

生体のエネルギー産生、利用にかかる仕組みを生化学、分子生物学の視点から理解することを目的とするのが生体エネルギー学（バイオエナジェティクス）です。この講義では、エネルギー産生に必要な栄養素を中心に、その消化、吸収、利用のしくみを学びます。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる。

【授業内容・授業計画】

1. この授業で学ぶこと
2. 栄養素のもつ3つの役割
3. 栄養物質の燃焼-ヒトは1日に3度の食事をする
4. エネルギー代謝-細胞は燃焼エネルギーでATPを合成する
5. 水は最も重要な体の構成成分である
6. 糖質の消化吸収と代謝
7. 脂質の生理機能
8. 脂質の消化吸収と代謝
9. コレステロールの代謝と胆汁酸の排出
10. エタノールの代謝
11. タンパク質の消化吸収と代謝
12. ビタミンの代謝
13. 無機栄養物質としてのミネラル
14. 運動と栄養
15. まとめ-この授業で学んだことと食生活について考える

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

試験を行う。

【教材】

参考書。田川邦夫 著「からだの働きからみる代謝の栄養学」（丸善）。

【受講生へのコメント】

1. この授業の理解には、ある程度の理科の知識（大学卒業程度の化学と生物）が必要です。ご承知置き下さい。2. 授業中に居眠り、内職などをされる方は、受講をお断りいたしております。大学院ですので、大人の対応をお願いいたします。

【開講年度・学期】2018年度・通年
【科目名】 生体エネルギー学特論演習
【英語表記】 Exercise in Bioenergetics
【科目ナンバリング】 HDADJ7503
【担当教員】 市川 直樹
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

研究を進める上で関連する情報を効率よく収集できることは大変重要である。また、自身の研究を他の研究者に知ってもらうことも大切である。そのような研究に関する情報の集め方と発信方法をこの授業では学ぶ。

生命科学分野の研究を進める上で必要な基本情報および文献をインターネットを用いて検索する。受講者の研究に関連した最新の文献を発表形式で講読し、自身の研究遂行に役立てる方法を学ぶ。また、研究発表（学会発表および論文発表）に必要な各種の技法（図表の作成方法、効果的なプレゼンテーションの方法など）についての指導を行う。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる。

【授業内容・授業計画】

1. 実験を計画する時に調べなければならないこと-生命科学分野のデータベース
2. 興味のある遺伝子やタンパク質のことを調べてみよう
3. 自分のテーマに関連する文献を探す-PubMedとCitation Indexを中心に
4. 論文の構成-学術論文には定まった形式がある
5. 論文を読んでみよう
6. 専門用語の調べ方
7. みんなの前で読んだ論文を発表しよう（その1）
8. 読んだ論文を発表しよう（その2）
9. 学会発表をしよう-発表の構成を考える
10. わかりやすい発表とわかりにくい発表
11. パワーポイントによるプレゼンテーション
12. ポスター発表の注意点
13. 修士論文の書き方
14. 論文に用いる図の作成方法
15. 英語論文の書き方と投稿

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題発表

【教材】

特に定めない。

【受講生へのコメント】

特にない。

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 栄養病理学特論
【英語表記】 Advanced Nutritional Pathology
【科目ナンバリング】 HDADI6505
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

疾病による形態と機能の変化を組織病理学的に観察することによって、疾病の本態を把握し、疾病に対する基礎知識を習得する。特に動脈硬化と肝疾患について焦点を当て、病態と栄養の関係を明らかにする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	細胞、組織、臓器の構造	細胞、組織、臓器の構造
2	細胞の順応と適応	細胞の順応と適応
3	炎症と修復	炎症と修復
4	動脈硬化 1	動脈、心臓の構造と機能
5	動脈硬化 2	動脈硬化の分離と病理
6	動脈硬化 3	動脈硬化の発症と進展のメカニズム
7	動脈硬化 4	急性冠動脈症候群（狭心症、心筋梗塞）
8	動脈硬化 5	冠動脈インターベンション
9	動脈硬化 6	動脈硬化のリスクファクター
10	動脈硬化 7	動脈硬化の予防（食事療法）
11	肝疾患 1	肝臓の構造と機能
12	肝疾患 2	肝疾患の病理
13	肝疾患 3	肝疾患の発症と進展のメカニズム
14	肝疾患 4	肝疾患の治療
15	肝疾患 5	肝疾患の予防（食事療法）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中における姿勢・態度およびレポート

【教材】

随時プリントを配付する。

【受講生へのコメント】

身体の中で臓器（組織）が疾病によってどのように変化していくかを実際の病理組織像を用いて紹介します。本講義は病態栄養学、臨床栄養学の基礎にもなります。

【開講年度・学期】2018年度・後期（隔年開講 2019年度休講）
【科目名】 発達臨床栄養学特論
【英語表記】 Advanced Developmental Clinical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBF16501
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

小児期の発達過程において重要とされる食の問題について、食生活に何を求めるか、食生活の最近の傾向や小児期に多く認められる疾病とその問題点をあげ、特に若年層にみられる疾病についての成り立ちと症状および臨床栄養指導について述べる。さらに、これからの健康づくりの重要性について総合的に学習する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	子どもの生活習慣病 1	胎内から始まる食の問題
2	子どもの生活習慣病 2	DOHaDについて
3	子どもの生活習慣病 3	子供の成長と栄養
4	子どもの生活習慣病 4	子どもにとっての食事とは
5	子どもの生活習慣病 5	生活習慣病とは
6	子どもの生活習慣病 6	肥満の症状と成因
7	子どもの生活習慣病 7	肥満対策、臨床栄養指導
8	子どもの生活習慣病 8	痩せの症状と成因
9	子どもの生活習慣病 9	痩せ対策、臨床栄養指導
10	子どもに認められる症状 10	食物アレルギーの症状と成因
11	子どもに認められる症状 11	食物アレルギー対策、臨床栄養指導
12	子どもに認められる症状 12	貧血の症状と成因
13	子どもに認められる症状 13	貧血対策、臨床栄養指導
14	子どもに認められる症状 14	う蝕、う歯の症状と成因
15	子どもに認められる症状 15	う蝕、う歯対策、臨床栄養指導

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中における姿勢・態度

【教材】

随時プリントを配付する。

【受講生へのコメント】

食育の重要性がクローズアップされている現在、栄養教諭がその中心を担わなくてはなりません。本講義はその基礎になる臨床栄養学の分野を提供します。

【開講年度・学期】2018年度・通年（隔年開講 2019年度休講）
【科目名】 発達臨床栄養学特論演習
【英語表記】 Exercise in the Developmental Clinical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBFJ7501
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

発達臨床栄養学特論で学習する内容をさらに充実させるために、小児期に多く認められる疾患について、臨床栄養指導の模擬実習を各自行う。同時に、臨床栄養指導を行うのに必要なプランニングから指導後のフォローアップまでの実施計画を作成させるなど、小児期の健康づくりの重要性を体得させる。また、小児期に多く認められる偏食（野菜嫌い）をなくすための献立作成、調理実習や模擬授業で用いる媒体を作成する。このような作業を通じて、収集した知識を整理・教育する能力を養成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	ガイダンス	発達臨床栄養学特論演習の説明、班分け
2	臨床栄養指導実施計画 1	計画書の企画
3	臨床栄養指導実施計画 2	計画書の作成
4	臨床栄養指導実施計画 3	計画書の作成および修正
5	臨床栄養指導実施計画 4	媒体作成の企画
6	臨床栄養指導実施計画 5	媒体の作成
7	調理実習 1	献立作成の企画
8	調理実習 2	献立作成
9	調理実習 3	栄養価計算
10	調理実習 4	調理実習
11	調理実習 5	各班の献立、料理について発表、討論
12	模擬授業 1	模擬授業のための資料作成
13	模擬授業 2	スライド作成
14	模擬授業 3	模擬授業（発表会）
15	模擬授業 4	討論会

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中における姿勢・態度および発表内容

【教材】

随時プリントを配付する。

【受講生へのコメント】

臨床栄養指導において最も重要である「相手に理解され、納得させることができるような」プレゼンテーションの方法についても学習します。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 公衆栄養学特論
【英語表記】 Public Health Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBD16501
【担当教員】 由田 克士
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

国や地域あるいは職域集団における、生活習慣病予防、健康の保持・増進、生活の質の向上を目指すことを目的とした、公衆栄養学的取り組みに必要な知識や考え方を習得する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	公衆栄養学の基礎的事項の整理①	公衆栄養学の定義
2	公衆栄養学の基礎的事項の整理②	公衆栄養学の目的と使命
3	国や地域における健康・栄養の現状①	国レベルでの健康・栄養の現状
4	国や地域における健康・栄養の現状②	都道府県レベルでの健康・栄養の現状
5	国や地域における健康・栄養の現状③	市区町村レベルでの健康・栄養の現状
6	国や地域における公衆栄養施策①	国レベルでの公衆栄養施策
7	国や地域における公衆栄養施策②	都道府県レベルでの公衆栄養施策
8	国や地域における公衆栄養施策③	市区町村レベルでの公衆栄養施策
9	国や地域における公衆栄養施策④	公衆栄養施策の計画・実施・評価
10	国や地域における公衆栄養施策⑤	公衆栄養施策の実際
11	職域における公衆栄養施策とその評価の実際①	産業保健、産業栄養
12	職域における公衆栄養施策とその評価の実際②	トータルヘルスプロモーションプラン
13	職域における公衆栄養施策とその評価の実際③	産業（職域）栄養活動の実際
14	これからの公衆栄養施策のあり方①	マネジメントサイクルに基づく展開
15	これからの公衆栄養施策のあり方②	公衆栄養施策の見える化

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

本講義に臨む姿勢、講義中の試問への対応および課題レポート

【テキスト及び参考書】

資料を配付する

（参考書）由田克士、押野榮司編「カレント公衆栄養学」（建帛社）
 （参考書）国民健康・栄養の現状（第一出版）
 （参考書）国民衛生の動向（厚生統計協会）

【受講生へのコメント】

国や地域における健康・栄養の現状やそれに応じた公衆栄養施策等の展開に関する報道や情報については、常に関心を持つようにしてほしい。

【開講年度・学期】 2018 年度・通年
【科目名】 公衆栄養学特論演習
【英語表記】 Exercise in Public Health Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBDJ7501
【担当教員】 由田 克士
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

国や地域あるいは職域集団における、生活習慣病予防、健康の保持・増進、生活の質の向上を目指すことを目的とした、公衆栄養学的取り組みに必要な手技や手法を理解し身につけることを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	公衆栄養施策の事例収集と検討①	先行事例の収集と検討
2	公衆栄養施策の事例検討と整理②	事例の検討と整理
3	公衆栄養施策の事例に関するプレゼンテーション	プレゼンテーション
4	公衆栄養アセスメント演習①	アセスメント項目と内容の検討
5	公衆栄養アセスメント演習②	具体的な対応と評価
6	公衆栄養マネジメント演習①	マネジメント内容の検討
7	公衆栄養マネジメント演習②	具体的な対応と評価
8	栄養・食事調査演習①	食物摂取頻度調査法
9	栄養・食事調査演習②	秤量記録法、目安量記録法
10	栄養・食事調査演習③	国民健康・栄養調査方式
11	栄養・食事調査演習④	24時間思い出し法
12	データの取りまとめ・整理演習①	データ収集、データ管理
13	データの取りまとめ・整理演習②	統計解析、報告書の作成
14	特定課題によるプレゼンテーション演習①	公的調査データの活用
15	特定課題によるプレゼンテーション演習②	健康・栄養施策の評価

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

本講義に臨む姿勢、試問への対応、プレゼンテーションおよび課題レポート

【教材】

資料を配付する

（参考書）食事調査マニュアル（日本栄養改善学会、南山堂）

（参考書）医療系のためのやさしい統計学入門（中村好一編 診断と治療社）

【受講生へのコメント】

公衆栄養学的な物事の見方や考え方は、栄養・食生活の状況を客観的に広くとらえようとするところから、ヒトを対象としたさまざまな関連分野での応用が可能である。

【開講年度・学期】 2019 年度・後期（隔年開講 2018 年度休講）
【科目名】 栄養疫学特論
【英語表記】 Nutritional Epidemiology
【科目ナンバリング】 HDBDI6502
【担当教員】 由田 克士
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

人間集団を対象とした栄養疫学研究の計画・実施・評価のために必要な知識や技術について理解を深める。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	疫学とは	人間集団における健康状態の頻度測定
2	栄養疫学の目的	栄養疫学の役割と必要性
3	疾病頻度の測定	曝露と疾病、疫学指標、相対危険と寄与危険
4	既存のデータ	疫学と統計、主な既存データ
5	疫学研究方法①	既述疫学、生態学的研究、横断研究
6	疫学研究方法②	コホート研究、症例対照研究、介入研究
7	栄養・食事調査法とその特徴①	秤量記録法、目安量記録法
8	栄養・食事調査法とその特徴②	24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法
9	偏りと交絡	偶然誤差、系統誤差、バイアス、交絡因子とその制御、標準化
10	因果関係	疫学研究方法と因果関係
11	スクリーニング	予後、重症度、致命率、倫理
12	臨床疫学	臨床現場での疫学応用
13	疫学に必要な統計①	標本抽出と標本サイズ、推定と検定
14	疫学に必要な統計②	推定の実際、多変量解析
15	疫学と倫理	疫学研究の倫理指針

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

本講義に臨む姿勢、講義中の試問への対応および課題レポート

【教材】

資料を配付する

（参考書）基礎から学ぶやさしい疫学（中村好一、医学書院）

（参考書）食事調査マニュアル（日本栄養改善学会、南山堂）

【受講生へのコメント】

本講義内容は、人間集団を対象とした、さまざまな実践栄養学研究に活用できる。

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 実践栄養学特論
【英語表記】 Introduction of Human Nutrition Science
【科目ナンバリング】 HDBHI6504
【担当教員】 由田 克士・羽生 大記・上田 由喜子・安井 洋子・福村 智恵
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

管理栄養士養成課程におけるヒトを対象とした専門科目には、ライフステージ栄養学（応用栄養学）、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養学、臨床栄養学・栄養医科学などがあり、個々に詳細な内容が取り扱われている。しかし、実際にヒトを対象とした実践栄養学を研究するためには、さまざまな限界を考慮しつつ、各科目で学んだ内容を有機的に組み合わせて、対応する能力が求められる。そこで、本科目では、教科間の繋がりを重視しながら、現代的な課題やそれに対応する研究手法（研究デザイン・統計解析・研究倫理など）を系統的に整理し理解を深める。

【授業の到達目標】

大学院レベルで実践栄養学を研究するために必要な知識・スキルの向上と定着。

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	実践栄養学の概要	
2	実践栄養学研究のための研究手法 1	研究デザイン
3	実践栄養学研究のための研究手法 2	統計解析
4	実践栄養学研究のための研究手法 3	研究倫理
5	ライフステージ栄養学の特徴・視点	
6	ライフステージ栄養学の研究	
7	栄養教育・給食経営管理の特徴・視点	
8	栄養教育・給食経営管理の研究	
9	臨床栄養学の特徴・視点	
10	臨床栄養学の研究	
11	栄養医科学の特徴・視点	
12	栄養医科学の研究	
13	公衆栄養学の特徴・視点	
14	公衆栄養学の研究	
15	総括（実践栄養学を深化させるために）	

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

課題レポートの内容と授業への参加状況で評価する。

【教材】

初めての栄養学研究論文 人に聞けない要点とコツ（第一出版）をテキストとして利用する。その他の参考書や資料は講義中に紹介する。

【受講生へのコメント】

これまでの学習や実務の中で体得した知識・経験を系統的に整理し、実践栄養学研究に結びつけられるよう、積極的に対応してください。

【開講年度・学期】 2019 年度・前期（隔年開講 2018 年度休講）
【科目名】 発達公衆栄養学特論Ⅰ
【英語表記】 Child development and Public Health NutritionⅠ
【科目ナンバリング】 HDBFI6502
【担当教員】 由田 克士・福村 智恵
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

児童・生徒を対象とする適切な公衆栄養に関連する支援・指導を実施するため、子ども期の発育・発達の特徴について学習する。また、児童・生徒をはじめ子ども期における健康維持・増進における栄養と食生活の重要性も習得する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	子どもの発達と健康・栄養	望ましい子どもの発達と健康・栄養
2	子どもにおける成長のモニタリング①	成長曲線とは
3	子どもにおける成長のモニタリング②	身体の働きから見た成長曲線
4	子どもにおける成長のモニタリング③	疾病と成長曲線
5	子どもにおける成長のモニタリング④	心の病気と成長曲線
6	子どもにおける成長のモニタリング⑤	低出生体重児の成長
7	子どもにおける成長のモニタリング⑥	乳幼児健診のチェックポイント
8	子どもにおける成長のモニタリング⑦	成長曲線の活用
9	子どもの体格と健康・栄養の関連①	健康状態と栄養・食事摂取状況
10	子どもの体格と健康・栄養の関連②	体格指数
11	子どもの体格と健康・栄養の関連③	関連研究からのエビデンス
12	子どもに関連した統計調査の概要①	乳幼児身体発育調査
13	子どもに関連した統計調査の概要②	学校保健統計調査
14	子どもに関連した統計調査の概要③	国民健康・栄養調査
15	子ども期に対応した公衆栄養施策	健やか親子21、関連地方計画等

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

本講義に臨む姿勢、講義中の試問への対応および課題レポート

【教材】

藤枝憲二 監修 加藤則子 編 「現場で役立つラクラク成長曲線」（診断と治療社）
 その他プリント等を配布

【受講生へのコメント】

栄養教諭専修免許に対応する科目です。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 発達公衆栄養学特論Ⅱ
【英語表記】 Child development and Public Health Nutrition Ⅱ
【科目ナンバリング】 HDBFI6503
【担当教員】 由田 克士・福村 智恵
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

学校教育等における児童・生徒の栄養改善、健康づくり等を適切に実施するための公衆栄養学的アプローチの概要を学ぶ。また、栄養教諭等に求められる、適切な学校給食の実施に欠かせない、学校給食実施基準等の理解と実践的な理論・技術の習得を目指す。

【授業の到達目標】

基本的な考え方を十分理解し、実践に際して応用可能なスキルを定着する。

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	幼児・児童・生徒の望ましい発達と栄養	発達、栄養、健康
2	公衆栄養学の視点から見た関連施策	学校給食法、学校給食摂取基準、栄養教諭
3	日本人の食事摂取基準（2015年版）①	身体状況の把握、モニタリング
4	日本人の食事摂取基準（2015年版）②	推定エネルギー必要量
5	日本人の食事摂取基準（2015年版）③	望ましい栄養素摂取と指標
6	日本人の食事摂取基準（2015年版）④	食事摂取基準の活用
7	学校給食摂取基準とその活用①	学校給食摂取基準の概要
8	学校給食摂取基準とその活用②	給与エネルギー量の設定
9	学校給食摂取基準とその活用③	給与栄養量の設定
10	学校給食摂取基準とその活用④	具体的な食事計画、実施、モニタリング
11	学校給食摂取基準に基づく給食の実施と食育①	事例の収集
12	学校給食摂取基準に基づく給食の実施と食育②	事例の検討
13	児童福祉施設における食事の提供ガイド①	児童福祉施設における食事の提供ガイドの概要
14	児童福祉施設における食事の提供ガイド②	児童福祉施設における食事の提供ガイドの活用
15	幼児・児童・生徒の望ましい発達と栄養教諭・管理栄養士の役割	総括、まとめ

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

本講義に臨む姿勢、講義中の試問への対応および課題レポート

【教材】

学校給食摂取基準（文部科学省）
 児童福祉施設における食事の提供ガイド（厚生労働省）
 厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準（2015 年版）（第一出版）

【受講生へのコメント】

栄養教諭専修免許に対応する科目です。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 栄養医科学特論 I
【英語表記】 Advanced Nutritional Medicine I
【科目ナンバリング】 HDAFI6503
【担当教員】 羽生 大記
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

患者に対する栄養学的治療を実践する際に必要な栄養学的評価法、食事栄養療法による介入、その成果の評価法を学ぶ。入院中の患者を実際にみて理解を深め、栄養教育の場に生かす。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

毎週15週間にわたって附属病院における肝胆膵内科を中心としたNutrition Support Team (NST) のカンファレンスに参加し、実際の臨床現場における栄養評価法、栄養処方の立案法を習得する。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

適宜プリントなどを配布

【受講生へのコメント】

附属病院の肝胆膵内科NSTに参加し、実際のNSTを経験しながら、主に肝胆膵疾患に対する栄養ケアプランの立案、評価、修正の過程を学びます。
栄養教諭専修免許に対応する科目です。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修届を出す前に羽生まで相談してください。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】 栄養医科学特論Ⅱ
【英語表記】 Advanced Nutritional Medicine Ⅱ
【科目ナンバリング】 HDAHI6503
【担当教員】 羽生 大記
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

患者に対する栄養学的治療を実践する際に必要な栄養学的評価法、食事栄養療法による介入、その成果の評価法を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

毎週15週間にわたって附属病院における消化器内科を中心としたNutrition Support Team (NST) のカンファレンスに参加し、実際の臨床現場における栄養評価法、栄養処方立案法を習得する。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

適宜プリントなどを配布

【受講生へのコメント】

附属病院の消化器内科NSTに参加し、実際のNSTを経験しながら、主に消化器疾患に対する栄養ケアプランの立案、評価、修正の過程を学びます。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修届を出す前に羽生まで相談してください。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期
【科目名】 肝胆膵病学特論 I
【英語表記】 Advanced Hepato-Biliary-Pancreatology I
【科目ナンバリング】 HDAGI6503
【担当教員】 羽生 大記
【授業形態】 講義、演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

管理栄養士として接することの多い、肝胆膵病に関して附属病院で実際の症例に接することで肝胆膵疾患に対する経験と学識を深める。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

週 1 回、計15週（15回）附属病院において、肝胆膵病態内科病棟回診に参加し、実際の肝胆膵症例に多く接し、造詣を深める。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

ケースプレゼンテーションを評価

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

附属病院における肝胆膵病態内科病棟の回診に参加し、実際に肝胆膵疾患の患者様に接することで、肝胆膵疾患に対する理解を深めます。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修受験届を出す前に羽生まで相談してください。

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 NST特論演習
【英語表記】 Exercise in Nutritional Support Team
【科目ナンバリング】 HDBGJ7501
【担当教員】 羽生 大記・安井 洋子
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学者対象）

【科目の主題】

高次機能病院において行われているNSTカンファレンスに参加し、我が国の臨床現場において管理栄養士に求められている知識、スキルを学び、重症低栄養患者に関する最新の栄養治療法を習得する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

当科関連の高次機能病院におけるNSTカンファレンスに参加し、実際の症例を対象に栄養評価法、栄養治療方を学ぶ。(15回)

1	適切な栄養投与経路選択・管理Ⅰ
2	適切な栄養投与経路選択・管理Ⅱ
3	質の高い栄養管理の提供Ⅰ
4	質の高い栄養管理の提供Ⅱ
5	栄養障害の早期発見と栄養療法の早期介入Ⅰ
6	栄養障害の早期発見と栄養療法の早期介入Ⅱ
7	栄養療法による合併症の予防Ⅰ
8	栄養療法による合併症の予防Ⅱ
9	栄養管理のリスクマネジメントⅠ
10	栄養管理のリスクマネジメントⅡ
11	医療安全管理の確立およびリスクの回避Ⅰ
12	医療安全管理の確立およびリスクの回避Ⅱ
13	適正な栄養管理と診療報酬
14	在院日数の短縮と経費
15	在宅栄養管理と地域連携

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

ケースプレゼンテーションを評価

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

高次機能病院におけるNSTカンファレンスに参加し、低栄養患者の栄養状態を正確に評価し、疾患特異的、手術法に特徴的な栄養評価、栄養治療法を学びます。
 栄養教諭専修免許に対応する科目です。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修受験届を出す前に羽生・安井まで相談してください。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】臨床現場における栄養管理特論
【英語表記】Advanced Nutrition Management in the Clinical Field
【科目ナンバリング】HDBHI6501
【担当教員】安井 洋子
【授業形態】講義・演習
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

臨床現場における管理栄養士業務は、知識を深めることが必要とされる。適切な栄養管理を行うためのノウハウを深め、能力を養成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. ガイダンス
2. 管理栄養士とは
3. 給食管理（臨床）
4. 衛生管理（臨床）
5. 疾病と食事療法：応用編（栄養素・献立・調理）
6. 疾病と食事療法（投薬・サプリメント）
7. 疾病と食事療法（時間・栄養）
8. アセスメント（基礎）
9. アセスメント（応用 1）
10. アセスメント（応用 2）
11. 運動療法
12. 行動療法
13. 医療機器
14. 手技
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性、レポート提出により評価する

【教材】

適宜プリントなどを配布する。

参考：管理栄養士必携：公益社団法人 日本栄養士会編 第一出版
ベーシックデータ：女子栄養大学出版

【受講生へのコメント】

臨床現場で必要とされる管理栄養士の業務を習得します。

【開講年度・学期】2018 年度・通年
【科目名】臨床現場における栄養管理特論演習
【英語表記】Exercise of Advanced Nutrition Management in the Clinical Field
【科目ナンバリング】HDBHJ7501
【担当教員】安井 洋子
【授業形態】講義・演習
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

疾病の改善および健康維持を目的とする対象者への介入は、対象者の背景を正確に把握し、正確に情報を伝え、いかに行動変容へと導くかが手腕とされる。そのためには、客観的に診る眼、企画立案する能力、そして行動力が必要とされる。演習を行うことで、その手技を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. ガイダンス
2. アセスメント（初回①）
3. 栄養評価（初回①）
4. 指導媒体作成（初回①）
5. アセスメント（初回②）
6. 栄養評価（初回②）
7. 指導媒体作成（初回②）
8. アセスメント（初回③）
9. 栄養評価（初回③）
10. 指導媒体作成（初回③）
11. 評価表作成
12. 測定・演習
13. スライド作成
14. プレゼン
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性、レポート提出により評価する

【教材】

適宜プリント、教材などを配布する。

ベーシックデータ：女子栄養大学出版

【受講生へのコメント】

臨床栄養学等で学んだことを実践するため、積極性が必要とされます。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】臨床栄養治療特論Ⅰ
【英語表記】Advanced nutritional treatmentⅠ
【科目ナンバリング】HDBG16501
【担当教員】安井 洋子
【授業形態】講義・演習
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成 29 年度以降入学者対象）

【科目の主題】

未病の高齢者を対象とした、健康教室にて実際に介入するための管理栄養士としての必要とされる手技、介入方法等を学びます。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

アベノハルカスMedCity21をフィールドとし、担当医と連携をとりながら健康教室を開催しています。未病の高齢者を対象に管理栄養士として介入し、健康維持へ導く方法について学びます。

1. ガイダンス
2. (症例1) アセスメント (基礎)
3. (症例1) 栄養評価 (基礎)
4. (症例1) 測定・演習 (基礎)
5. (症例1) 指導媒体作成 (基礎)
6. (症例2) アセスメント (応用 1)
7. (症例2) 栄養評価 (応用 1)
8. (症例2) 測定・演習 (応用 1)
9. (症例2) 指導媒体作成 (応用 1)
10. (症例3) アセスメント (応用 2)
11. (症例3) 栄養評価 (応用 2)
12. (症例3) 測定・演習 (応用 2)
13. (症例3) 指導媒体作成 (応用 2)
14. 栄養ケアプロセス
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性およびレポート提出により評価

【教材】

適宜プリントなど配布

ベーシックデータ：女子栄養大学出版

【受講生へのコメント】

教室の開講曜日（木曜日11時～）が決まっているため、他教科との時間調整が必要となります。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】 臨床栄養治療特論Ⅱ
【英語表記】 Advanced nutritional treatmentⅡ
【科目ナンバリング】HDBG16502
【担当教員】 安井 洋子
【授業形態】 講義・演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学者対象）

【科目の主題】

未病の高齢者を対象とした、健康教室にて実際に介入していきます。管理栄養士としての必要とされる手技、介入方法等について実践を通して学びます。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

アベノハルカスMedCity21をフィールドとし、担当医と連携をとりながら健康教室を開催しています。健康維持へ導く方法について実際に参加者を受持ち、栄養指導を行います。

1. ガイダンス
2. スライド①作成
3. レジメ①作成
4. スライド①講評
5. 講義①
6. スライド②作成
7. レジメ②作成
8. スライド②講評
9. 講義②
10. アセスメント
11. 栄養評価
12. 測定・演習
13. 指導媒体作成
14. ディスカッション
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性とプレゼンテーションの方法等により評価。

【教材】

適宜プリントなど配布

ベーシックデータ：女子栄養大学出版

【受講生へのコメント】

教室の開講曜日（木曜日11時～）が決まっているため、他教科との時間調整が必要となります。

【開講年度・学期】2018 年度・通年集中
【科目名】 実践栄養治療特論演習
【英語表記】 Exercise in advanced practice of nutritional treatment
【科目ナンバリング】 HDBGJ7502
【担当教員】 羽生 大記・安井 洋子
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学者対象）

【科目の主題】

地域の栄養ケア、栄養教育活動、啓発の場に参加し、管理栄養士として栄養教育を通じた社会貢献のあり方を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

実際の地域の健康教室に参加し、幼少児、青年、壮年、高齢者など地域在住の健常者に対する健康作りのイベントに参加し、栄養教育面からの健康作りに貢献する方法を習得する。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

地域の健康教室、地域の病院主催の糖尿病啓発イベント、区主催のキッズ対象の食・栄養教室など、年間を通じた様々な地域コミュニティの健康作りイベントに参加し、管理栄養士としての知識とスキルを活かした社会貢献法を体験します。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 生体情報学特論
【英語表記】 Molecular and Biochemical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDADI6506
【担当教員】 佐伯 茂
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

動脈硬化症、高脂質血症、肥満症、糖尿病などの生活習慣病の発症には遺伝因子が関与するが、食習慣の改善により発症を遅らせる、あるいは進行を遅らせることができる。有効な食習慣を構築するには疾病発症に関わる分子機構を理解する必要がある。そこで本講義では、生活習慣病の発症に関わる分子機構について学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

本講義では、まず動脈硬化症の発症に関わる脂質・コレステロール代謝の分子生物学的な代謝調節機構について学び、続いて糖尿病、動脈硬化症、肥満症の発症に関わる分子生物学的な代謝調節機構な代謝機構について学ぶ。

回	テ ー マ	概 要
1	コレステロール代謝1	コレステロール代謝の概略
2	コレステロール代謝2	コレステロール代謝の転写調節
3	コレステロール代謝3	核内受容体によるコレステロール代謝調節
4	コレステロール代謝4	コレステロール代謝と生活習慣病
5	脂質代謝1	脂質代謝の概略
6	脂質代謝2	核内受容体による脂質代謝調節
7	脂質代謝3	ホルモンによる脂質代謝
8	脂質代謝4	脂質代謝と生活習慣病
9	肥満症1	肥満症の概略
10	肥満症2	脂肪細胞の肥大
11	肥満症3	アディポサイトカイン
12	肥満症4	白色脂肪と褐色脂肪
13	糖尿病1	糖尿病の概略
14	糖尿病2	インスリン分泌の制御
15	総括	総合討論

【事前・事後学習の内容】 毎回の授業で指示する

【評価方法】 レポート

【教材】 マッキー生化学（第3版）、化学同人； 分子細胞生物学（第5版）、東京化学同人

【受講生へのコメント】

講義では、受講者自らが原著・文献を調べ、積極的に講義に参加することが要求される。また、他の大学や研究機関に所属する研究者をお呼びし、授業の一環として特別講義を開催する年度もある。

【開講年度・学期】 2018 年度・通年
【科目名】 生体情報学特論演習
【英語表記】 Exercise in Molecular and Biochemical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDAHJ7503
【担当教員】 佐伯 茂
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

生体栄養情報学の最新情報・実験方法などを習得し、実際の研究に適用する際の問題点を整理する方法論を把握する。更に、研究成果を発表する方法を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テ ー マ	概 要
1	情報収集1	原著の英語論文より最新情報を収集1
2	情報収集2	原著の英語論文より最新情報を収集2
3	情報収集3	原著の英語論文より最新情報を収集3
4	情報収集4	原著の英語論文より最新情報を収集4
5	プレゼンテーション資料作成	パワーポイント等によるプレゼンテーション資料作成1
6	プレゼンテーション資料作成	パワーポイント等によるプレゼンテーション資料作成2
7	プレゼンテーション資料作成	パワーポイント等によるプレゼンテーション資料作成3
8	プレゼンテーション資料作成	パワーポイント等によるプレゼンテーション資料作成4
9	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの実施1
10	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの実施2
11	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの実施3
12	プレゼンテーション4	プレゼンテーションの実施4
13	プレゼンテーション5	プレゼンテーションの実施5
14	プレゼンテーション6	プレゼンテーションの実施6
15	総括	総合討論

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題発表

【教材】

英語の原著論文、理科系の作文技術（中公新書）、理科系のための英文作法（中公新書）、科学英語論文のすべて（丸善株式会社）、英語口頭発表のすべて（丸善株式会社）、生物統計学入門（培風館）、医学への統計学（朝倉書店）

【受講生へのコメント】

積極的に発言することを切望します。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 生体機能学特論
【英語表記】 Molecular Cell Biology
【科目ナンバリング】HDAHI6504
【担当教員】 金 東浩
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

生体の細胞は、恒常性（ホメオスタシス）を維持するために様々な機能性タンパク質を産生する。機能性タンパク質の異常は、遺伝要因と環境要因により惹起され、生体恒常性の破綻と疾病の原因となる。本講義は、細胞内で産生される酵素、受容体、生体応答分子等の機能性タンパク質の役割を理解し、生体恒常性の分子機構を分子細胞生物学的に理解することを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる。

【授業内容・授業計画】

生体を構成する細胞の構造と機能、遺伝子の発現と調節について講義し、酵素、受容体、生体応答分子等の産生と機能について講義する。次に、生体恒常性の分子機構に関する研究の関連文献を解説する。

1. 生体機能学を学ぶための基礎知識
2. 細胞の構造
3. 細胞の機能
4. 遺伝子の発現I（セントラルドグマ）
5. 遺伝子の発現II（転写）
6. 遺伝子の発現調節I（翻訳）
7. 遺伝子の発現調節II（複製）
8. 酵素I（脂質代謝における酵素）
9. 酵素II（糖質代謝における酵素）
10. 受容体I（脂質代謝における受容体）
11. 受容体II（糖代謝における受容体）
12. 生体応答分子I（細胞内シグナル伝達）
13. 生体応答分子II（生体応答分子に関連する最近の知見）
14. 生体恒常性の分子機構I（生体恒常性に関連する最近の知見）
15. 生体恒常性の分子機構II（本講義の総括）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

レポート

【開講年度・学期】2018 年度・通年
【科目名】 生体機能学特論演習
【英語表記】 Exercise in Molecular Cell Biology
【科目ナンバリング】 ADAHJ6505
【担当教員】 金 東浩
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 30 年度以降入学者対象）

【科目の主題】

生体の細胞は、恒常性（ホメオスタシス）を維持するために様々な機能性タンパク質を産生する。機能性タンパク質の異常は、遺伝要因と環境要因により惹起され、生体恒常性の破綻と疾病の原因となる。生体機能学特論では、細胞内で産生される酵素、受容体、生体応答分子等の機能性タンパク質の役割について学びます。本演習は、生体機能学を理解するための基本となります。

【授業の到達目標】

演習を行い、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる。

【授業内容・授業計画】

生体機能学を理解するために、分子生物学、細胞生物学、実験動物学、栄養生命情報学について演習し、各種関連文献を読み討論を行います。

1. 生体機能学演習を学ぶための基礎知識
2. 分子生物学演習I（DNA）
3. 分子生物学演習II（RNA）
4. 分子生物学演習II（蛋白質）
5. 細胞生物学演習I（細胞培養の基礎）
6. 細胞生物学演習II（細胞培養の応用）
7. 細胞生物学演習III（細胞培養実験に関連する最近の知見）
8. 実験動物学演習I（動物実験の基礎）
9. 実験動物学演習II（動物実験の応用）
10. 実験動物学演習III（動物実験に関連する最近の知見）
11. 栄養生命情報学I（バイオインフォマティクス）
12. 栄養生命情報学II（バイオインフォマティクスの体験）
13. 学術論文輪読I（学術論文の読み方、まとめ方）
14. 学術論文輪読II（学術論文の書き方）
15. その他の生体機能学に関連する最新情報の紹介

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

演習の態度、発表内容、質疑応答内容について評価を行う。

【教材】

プリント、随時テキスト、関連文献を用いる。

【受講生へのコメント】

本演習は生体機能学特論を理解するための基本となります。演習に積極的な参加し、他者の研究や意見に対する自分の意見を述べるように努力しましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期
【科目名】 栄養教育特論（平成 30 年度以降入学者対象）
 ／栄養教育学特論（平成 29 年度以前入学者対象）
【英語表記】 Advanced Nutrition Education
【科目ナンバリング】 HDBD16503
【担当教員】
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

栄養教育を一連のマネジメントサイクルに則ってすすめる過程において、行動科学理論、健康教育論が適用される。わが国の栄養教育の現状を再確認し、栄養教育の国際動向を知り、栄養教育の課題解決と方法論を検討するために、先進的な栄養教育プログラムの立案、実施、評価、フィードバックについて学修する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に基礎知識・スキルを定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	国民の食生活課題を抽出・再確認する	食事摂取不規則化 など
2	現在の食環境はどのようなものであるかー検討・評価	豊かな食品 / 利便性/ 既製食品
3	わが国における健康栄養教育の現状と課題ー 1	核家族化 / コンビニ・外食店
4	わが国における健康栄養教育の現状と課題ー 2	両親共働き/孤食/わが家の食卓
5	わが国における健康栄養教育の動向ー I	リサーチ・ディスカッション①
6	わが国における健康栄養教育の動向ー II	リサーチ・ディスカッション②
7	行動科学理論に基づく先進的な健康栄養教育を検討する	食行動・食生活解析 & 行動科学・栄養教育の運用法
8	行動科学理論に基づく先進的な健康栄養教育に向けたプログラムの検討	健康栄養教育/プログラム
9	Life Skill Program の実際ー I	Life Skill とは
10	Life Skill Program の実際ー II	Life Skill と 栄養教育
11	栄養教育プランニングについて	対象集団の把握・課題抽出
12	栄養教育マネジメントについて	課題解決の検討
13	栄養教育プログラムの評価	プログラム立案
14	栄養教育フィードバックについて	プログラム実施・評価
15	これからの健康栄養教育プラン	行動科学理論の活用について

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題別レポートにより評価する

【教材】 プリント教材を用いる

実践 ヘルスプロモーション
 ヘルスプロモーションの評価
 エッセンシャル栄養教育論

神馬征峰 訳
 鳩野洋子他 訳 医学書院
 春木 敏 編著 医歯薬出版

【受講生へのコメント】

栄養教育の現状を知るために国内外を問わず、逐次情報を得ることは欠かせません。社会・経済・個人の営みを把握分析し、人々の食生活について近未来の予測ができるよう情報収集に努めましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・通年
【科目名】 栄養教育特論演習（平成 30 年度以降入学者対象）
 ／栄養教育学特論演習（平成 29 年度以前入学者対象）
【英語表記】 Exercises for Advanced Nutrition Education
【科目ナンバリング】 HDBDJ7502
【担当教員】
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

健康的な食行動の形成と生活習慣化を図るにあたり、行動科学理論に基づく栄養教育法を用いる。また、スクールヘルスプロモーションに寄与する栄養教育の実践活動に向け、カウンセリング論を摘要しつつ、研究課題に応じた演習へと発展する。

【講義の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識・スキルとして定着させる

【講義内容・授業計画】 各回、時間割の記載に関わらず 4 講義時間（2 コマ）の演習を行う

1. 対象者の健康栄養課題を抽出し、研究計画を立案する (5回)
2. 研究の進捗状況にて、必要なプレゼンテーション、ディスカッションをする (15回)
3. 行動科学理論に基づく先進的な健康栄養教育プログラムの検討と演習 (10回)

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	ライフステージ別に食行動・食生活課題を把握	食の現状把握 課題抽出
2	対象者の現状把握にもとづき、調査内容検討	調査票検討作成・完成
3	被調査者の食生活課題抽出のプレ調査実施・	プレ調査・データ処理
4	グループメンバーで調査紙再検討・完成・調査	データ解析・課題整理
5	集計・データ解析（統計処理）	解決に向けデータを精査
6	対象者の健康栄養課題を抽出・検討	データ・実態把握
7	課題解決に基づく栄養教育計画（案）①	課題解決・優先度検討
8	課題解決に基づく栄養教育（案）②	課題解決に繋ぐ栄養教育の検討
9	被調査者の食生活課題抽出ープレ調査実施・	実践可能な栄養教育の検討
10	被調査者に求められる現状理解・意向・食生活スキルの検討	個々人に寄り添う栄養教育
11	クライアント自身が課題解決と向きあうよう支援	食行動・食習慣の認識
12	クライアントの自発性を引き出す支援とは	事前学習に基づき意見交換
13	クライアントの意思決定に基づくプランニング	知識・態度・スキル形成
14	クライアントの行動修正から改善へ	クライアントの生活環境整備
15	改善した実生活に基づき、修正行動を継続する	家族・友人・同僚etc.の支援法

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

プレゼンテーション、レポートにより評価する

【教材】

プリント教材を用いる

【受講生へのコメント】

基礎理論を踏まえたうえで、研究課題に基づき関連文献を検索、先行研究から学ぶことを心がけましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 健康栄養教育特論（平成 30 年度以降入学者対象）
 ／学校栄養教育法特論（平成 29 年度以前入学者対象）
【英語表記】 Advanced Health Nutrition Education
【科目ナンバリング】 HDBEI6501
【担当教員】 春木 敏（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食の社会化が進むわが国では、人々の価値観も多様化・個別化する中、さまざまな食生活が展開されている。そこで、学校・家庭・地域を連携する児童生徒を対象とする栄養教育法につき学修する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着する

【授業内容・授業計画】

1. 児童生徒の栄養アセスメントの方法論および解析について (2 回)
2. 児童生徒の食生活アセスメントの方法論および解析について (2 回)
3. 児童生徒が食生活の自己管理能力を高めることを目標として、自らの食生活を振り返り、課題解決ができる学校栄養教育の方法論について検討する (3 回)
4. 小中学校における教科学習における”食”に関する指導 “の検討 (6 回)
5. 系統的な栄養教育を実施するために、開講学年別教科学習について、学習内容・授業法等について調べ、有機的な “食に関する指導” の方法論を検討する (2 回)

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	対象集団の発達段階に沿った課題検討	現状把握 課題抽出
2	対象者集団の現状把握にもとづき、調査内容検討	調査票検討作成・完成
3	被調査集団の食生活課題抽出のプレ調査実施・	プレ調査・データ処理
4	グループメンバーで調査紙再検討・完成・調査	本調査・データ解析・課題抽出
5	集計・データ解析（統計処理）	課題解決に向けデータを精査
6	対象集団の健康栄養課題を抽出・検討	データより実態把握
7	課題解決に基づく栄養教育計画の案①	課題解決の優先度検討
8	課題解決に基づく栄養教育計画の案②	課題解決に繋ぐ栄養教育の検討
9	被調査者の食生活課題抽出ープレ調査実施・	実践可能な栄養教育の検討
10	被調査者の現状に基づき、食生活管理・スキル検討	個々人に寄り添う栄養教育
11	児童生徒自身が課題解決と向きあう支援	実生活食行動・食習慣の認識
12	児童生徒の自発性を引き出す支援	知識・態度・スキル形成
13	児童生徒の意思決定に基づくプランニング	意思決定のプロセス
14	児童生徒の行動修正から改善へ	クライアントの生活環境整備
15	改善した実生活に基づき、修正行動を継続する	家族・教諭・友人の支援法

【事前・事後学習の内容】 毎回の授業で指示する

【評価方法】 課題別レポートにより評価する

【教材】 プリント教材を用いる 児童生徒の健康状態サーベランス
 児童生徒の食事状況実態調査報告書 学校保健の動向
 日本学校保健会 食に関する指導の手引 第一次改訂版

【受講生へのコメント】 健康的な食生活管理は、子どもの豊かなこころとからだを育みます。
 子どもが主体的に学びかつ、行動につなぐ具体的な栄養教育方法を!!

【開講年度・学期】 2018 年度・前期（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 健康栄養教育特論Ⅱ（平成 30 年度以降入学者対象）
 ／児童生徒の健康・栄養教育特論（平成 29 年度以前入学者対象）
【英語表記】 Advanced Health Nutrition Education Ⅱ
【科目ナンバリング】 HDBEI6502
【担当教員】 春木 敏（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

生活習慣は幼少期にその基本が形成されることより、児童生徒の健康栄養教育は、健康的な生活習慣の形成に重点をおく。生活習慣は、個人の持つ健康観や健康に関する知識、態度に加え、調理スキルや運動スキルなど特定の行動に必要なとなる具体的スキルといった個人的要因や家族や友人など周囲の人々の行動やマスメディアといった社会的要因の影響をうけつつ形成される。児童生徒を対象とする健康栄養教育プログラムを概観し、保護者や教師との関わり、社会環境の影響について検討する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	児童生徒の発育発達	身体が発育・発達 状況
2	児童生徒の発育・発達と食生活(1)	学校給食 栄養管理 食行動
3	児童生徒の発育・発達と食生活(2)	家庭食 栄養管理 食行動
4	児童生徒の発育・発達と生活(3)	マスメディア 身体活動
5	児童生徒の発育・発達と生活(4)	生活管理 保護者
6	児童生徒の発育・発達と生活(5)	食環境と食生活
7	児童生徒の発達段階に適した健康管理	自己管理
8	食生活管理と家庭管理(1)	プログラムの検討
9	食生活管理と家庭管理(2)	保護者講座企画・実施・評価
10	食生活管理と家庭管理(3)	家庭 実践支援
11	食生活管理と家庭管理(4)	PTA活動支援①
12	食生活管理と家庭管理(5)	PTA活動実践②
13	学校・家庭を結ぶ栄養教育	栄養教育法 プログラム検討
14	学校・家庭・地域を結ぶ栄養教育コーディネート	課題報告 意見交換
15	保護者・地域を取り入れた包括的な健康・栄養教育	課題報告 意見交換

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題別レポートにより評価する。

【教材】

プリント教材を用いる

Food for Health guide to healthy eating NHMRC etc.

小児の発達栄養行動 二木武，他編著 医歯薬出版

【受講生へのコメント】

子どもと保護者が共に学び、実践する食生活管理を検討し、学校と家庭の連携を強化するにあたり、アイディアを持ち寄って取り組みましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 健康栄養教育特論演習（平成 30 年度以降入学者対象）
 ／児童生徒の健康・栄養教育特論演習（平成 29 年度以前入学者対象）
【英語表記】 Exercises for the Health Nutrition Education
【科目ナンバリング】 HDBFJ7502
【担当教員】 春木 敏（非常勤講師）
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

児童生徒の健康的な食行動、食習慣形成をめざし、一般教科なかでも、家庭科、保健・体育科に加え、「総合的な学習の時間」、生活科、道徳、特別活動、給食の時間などにおいて有機的な教育展開をし、学校、家庭、地域を結ぶ包括的な学校健康栄養教育のモデルを検討し、スクールヘルスプロモーションを適用する方法を検討する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 児童生徒の健康栄養課題を取りあげるための質問紙を作成する (2 回)
2. 健康栄養課題解決のための栄養教育プログラムを作成する (4 回)
3. 授業案を作成する (2 回)
4. ワークシート・教材を作成する (4 回)
5. 評価のためのモニタリングシートを作成する (4 回)
6. 授業シミュレーションをする (4 回)
7. ”食に関する指導“の評価 (6 回)
8. 授業案の再検討 (4 回)

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	質問紙：児童生徒の健康栄養課題	身体の発育・発達
2	児童生徒の発育・発達と食生活(1)	学校給食 栄養管理
3	児童生徒の発育・発達と食生活(2)	家庭食 栄養管理
4	児童生徒の発育・発達と生活(3)	マスメディア 身体活動
5	児童生徒の発育・発達と生活(4)	生活管理 保護者
6	児童生徒の発育・発達と生活(5)	食環境と食生活
7	児童生徒の発達段階に適した健康管理	自己管理
8	食生活管理と家庭管理(1)	プログラムの検討
9	食生活管理と家庭管理(2)	保護者講座
10	食生活管理と家庭管理(3)	家庭 実践支援
11	食生活管理と家庭管理(4)	PTA活動支援
12	食生活管理と家庭管理(5)	PTA活動実践
13	学校・家庭を結ぶ栄養教育	プログラム検討・共有
14	学校・家庭・地域を結ぶ栄養教育コーディネート	課題 意見交換
15	保護者や地域を取り入れた包括的な活動	課題 意見交換

【事前・事後学習の内容】 毎回の授業で指示する

【評価方法】 課題別レポートにより評価する

【教材】 学習指導要領 文部科学省、食に関する指導の手引第一次改訂版 文部科学省、食に関する指導ハンドブック 大阪府教育委員会、e-learning 先生のための食育教室 etc.

【受講生へのコメント】 児童生徒の興味関心なども知っておくことが楽しい授業を作ります。私ならこんなこと知りたい、こんな風に学習したい、相談したいというように子どもの目線で考えることも発達段階に即した授業作りに欠かせません。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】給食経営管理特論
【英語表記】Advanced food service management
【科目ナンバリング】HDBHI6502
【担当教員】上田 由喜子
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

集団を対象とする給食を含めた食環境づくりは、ライフスタイルの違う様々な対象層に広くはたらきかけることが可能なポピュレーション・アプローチであり、一次予防の視点から特に重要とされている。本講義では、食品の選択から望ましい食行動に至るプロセスを学び、行動変容を促す方法や原理について理解する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ
1	望ましいとはいえない食事パターン
2	複雑な食物選択環境と消費者の関心
3	食物選択や食行動の影響要因の概要
4	健康行動変容への動機づけ
5	行動理論を「なぜ行動を起こすのか」に関する教育戦略
6	マーケティング-1
7	マーケティング-2
8	ソーシャルマーケティング-1
9	ソーシャルマーケティング-2
10	マーケット・リサーチ-1
11	マーケット・リサーチ-2
12	マーケティング・ミックス-1
13	マーケティング・ミックス-2
14	実践行動経済学と食環境-1
15	実践行動経済学と食環境-2

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

課題レポートの内容と授業への意欲・態度で評価する

【教材】

授業内容の資料としてプリントを配布

【受講生へのコメント】

特定給食施設の利用者はもとより、地域社会の食生活の改善を図る健康教育において、食環境はどうあるべきか考えるきっかけにしてください。

【開講年度・学期】2019 年度・前期（隔年開講 2018 年度休講）
【科目名】 学校栄養・食事指導特論
【英語表記】 Advanced school nutrition and meal counseling
【科目ナンバリング】 HDBFI6504
【担当教員】 上田 由喜子
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

栄養教育は、行動や課題に焦点を合わせ、根拠に基づき組み立て進める必要がある。本授業では、効果的な栄養教育計画を立てられるよう 6 段階の手順モデルを紹介し、理論に基づいた栄養教育計画を計画・実行・評価と理論、研究、実践の統合について言及する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる。

【授業内容・授業計画】

回	テーマ
1	栄養教育設計のための理論に基づいた手順モデル
2	ニーズと行動分析-1
3	ニーズと行動分析-2
4	理論の選択とプログラム構成要素-1
5	理論の選択とプログラム構成要素-2
6	理論の選択とプログラム構成要素-3
7	理論の選択とプログラム構成要素-4
8	学習者主体の教育、ゴールと目標-1
9	学習者主体の教育、ゴールと目標-2
10	学習者主体の教育、ゴールと目標-3
11	学習者主体の教育、ゴールと目標-4
12	教育的戦略と実行-1
13	教育的戦略と実行-2
14	評価を設計する-1
15	評価を設計する-2

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

課題レポートの内容と授業への意欲・態度で評価する

【教材】

プリント配布
「これからの栄養教育論－研究・理論・実践の環－」 第一出版

【受講生へのコメント】

教育的介入やプログラムの計画立案・実施・評価を学校現場でどう展開していけばよいか考えてみましょう。

【開講年度・学期】2018 年度・通年（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 学校栄養・食事指導特論演習
【英語表記】 Workshop in advanced school nutrition and meal counseling
【科目ナンバリング】 HDBFJ7503
【担当教員】 上田 由喜子
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

子どもたちは、多種多様な食べ物に囲まれ、欲しい物はいつでもすぐに手に入る豊かな食環境におかれている。その一方で、栄養のバランス、食事のあり方などに多くの問題がみられる。毎日の生活を快適に、しかも豊かなものにするために食育においても、自ら考え主体的に判断し行動できる「問題解決能力」が求められている。栄養教諭が行う問題解決能力を高める学習活動について、演習をとおして考察する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ
1	学校現場での食育を進める上での 3 つの誤解
2	探究的な学習における児童の変化
3	食の授業の作り方演習-1
4	食の授業の作り方演習-2
5	食の授業の作り方演習-3
6	学術論文輪読-1
7	学術論文輪読-2
8	学術論文輪読-3
9	給食の時間における食に関する指導演習-1
10	給食の時間における食に関する指導演習-2
11	教科等の学習と結ぶ食に関する指導-3
12	教科等の学習と結ぶ食に関する指導-4
13	子どもの生活につなぐ食に関する指導-5
14	子どもの生活につなぐ食に関する指導-6
15	食に関する指導方法における調査研究の発表

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

レポートおよび演習内容の発表などを総合的に評価する。

【教材】

プリントの配布あるいは関連の文献を適宜選択し用いる。

【受講生へのコメント】

学校教育の中で効果的に食育を推進していく方法について考えていきましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期
【科目名】 応用栄養学特論
【英語表記】 Advanced Applied Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBHI6503
【担当教員】 福村 智恵
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学者対象）

【授業目的】

社会環境とライフスタイルの著しい変化により、近年、生活習慣病をはじめとする慢性疾患の罹患率の増加が大きな社会問題となっている。これらは乳幼児から高齢者までの各ライフステージにおいて共通した健康課題となっているが、その解決のために必要な食生活及び栄養に関する専門知識を最新文献とともに学び、対象者に応じた対策法を考察する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容（キーワード）
1	健康に関する動向と課題	健康
2	栄養に関する動向と課題	栄養
3	生活習慣病と栄養 1	遺伝因子・環境因子
4	生活習慣病と栄養 2	肥満
5	生活習慣病と栄養 3	糖尿病
6	生活習慣病と栄養 4	脂質異常症・高血圧
7	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 1	妊娠期
8	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 2	授乳期
9	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 3	新生児期
10	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 4	乳児期
11	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 5	幼児期
12	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 6	学童期・思春期
13	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 7	成人期・更年期
14	各ライフステージに応じた栄養マネジメント 8	高齢期
15	総括	全体のまとめ

【事前・事後学習の内容】 毎回の授業で指示する。

【評価方法】 レポート、総合的評価

【テキスト及び参考書等】 随時、プリント、関連文献を用いる。

【アドバイス】 講義で紹介する学術論文等を読み、理解を深めましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・通年
【科目名】 応用栄養学特論演習
【英語表記】 Exercise in Advanced Applied Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBHJ7502
【担当教員】 福村 智恵
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学者対象）

【授 業 目 的】

胎生期から高齢期にいたるまでの生涯を通じた身体的・精神的・社会的な変化と、各々のライフステージにおける健康課題を理解し、栄養面からの適切な対策を講じるための方策について検討・考察する。

【授 業 計 画】

回数	テーマ
1	妊娠期の健康課題に関する文献の検索と紹介
2	妊娠期の健康課題に対する対応策の検討
3	授乳期の健康課題に関する文献の検索と紹介
4	授乳期の健康課題に対する対応策の検討
5	新生児・乳児期の健康課題に関する文献の検索と紹介
6	新生児・乳児期の健康課題に対する対応策の検討
7	幼児期の健康課題に関する文献の検索と紹介
8	幼児期の健康課題に対する対応策の検討
9	学童・思春期の健康課題に関する文献の検索と紹介
10	学童・思春期の健康課題に対する対応策の検討
11	成人期・更年期の健康課題に関する文献の検索と紹介
12	成人期・更年期の健康課題に対する対応策の検討
13	高齢期の健康課題に関する文献の検索と紹介
14	高齢期の健康課題に対する対応策の検討
15	総括全体のまとめ

【事前・事後学習の内容】 毎回の授業で指示する。

【評 価 方 法】 レポート、総合的評価

【テキスト及び参考書等】 随時、プリント、関連文献を用いる。

【アドバイス】 積極的な姿勢で臨みましょう。

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】 身体運動・スポーツ科学特論（平成30年度以降入学者対象）
／身体運動科学特論（平成29年度以前入学者対象）
【英語表記】 Advanced Science in Exercise and Sport
【科目ナンバリング】 HDAHI6505
【担当教員】 渡辺 一志（都市健康・スポーツ研究センター）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

運動の発現と運動に対する身体の適応機序について、運動の質と代謝系、神経系、呼吸循環系等との関わりについて論じるとともに、運動やスポーツパフォーマンスの向上に寄与するコンディショニングや目的に応じた運動、トレーニングの意義、方法について理解を深める。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

講義を中心に発表や運動の発現及び運動に対する身体の適応機序についての理解を深めるべく測定や実験も必要に応じて実施する。

1. 現代社会における運動・スポーツの意義と体力(1)
2. 体力と身体組成 (2)
3. 運動・スポーツと筋、筋収縮 (3)
4. 筋力の測定(4)
5. 運動・スポーツとスピード・パワー(5)
6. スピードの測定(6)
7. パワーの測定(7)
8. 運動・スポーツと代謝 (8)
9. 運動・スポーツと呼吸循環 (9)
10. 運動・スポーツとたばこ(10)
11. 運動時の呼吸循環応答の測定（最大酸素摂取量・有酸素運動） (11)
12. 全身持久性トレーニングと健康(12)
13. 運動・スポーツとコンディショニング (13)
14. 運動・スポーツと筋電図(14)
15. トレーニングとその理論的背景 (15)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

必要に応じて資料を配付し文献の紹介を行う。

【受講生へのコメント】

参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、身体運動を探究する楽しさに触れて理解を深めて下さい。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期集中（隔年開講 2019 年度休講）
【科目名】 食文化特論
【英語表記】 Advanced Studies in Food Culture
【科目ナンバリング】 HDAFI6504
【担当教員】 南 直人（非常勤講師）・奥村 彪生（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

日本および世界の食文化について学習し、その重要性を子どもたちに伝える能力を養うことを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる。

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	世界の食文化	種々の食物・料理からの考察
2	ヨーロッパの食文化 1	地理的考察
3	ヨーロッパの食文化 2	歴史的考察
4	コロンブスの交換 1	香辛料の世界史的役割
5	コロンブスの交換 2	食のグローバル化
6	フランス料理の歴史 1	世界「三大料理」の位置づけ
7	フランス料理の歴史 2	フランス食文化の発展と現状
8	日本のたべごとと文化の特徴 1	日本人のたべごとと文化
9	日本のたべごとと文化の特徴 2	日本の食べごとと文化の系統
10	日本のたべごとと文化の特徴 3	日本食の味
11	日本のたべごとと文化の特徴 4	日本食の食材・調理・組み合わせ
12	日本のたべごとと文化の特徴 5	和食とはなにか
13	日本のたべごとと文化の児童・生徒への伝承	現代の子どもに食文化を伝える重要性
14	食文化に関する教育実践力の養成 1	文献等情報収集からの考察
15	食文化に関する教育実践力の養成 2	収集した情報を用いた教育実践

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する。

【評価方法】

レポート

【教材】

参考書：奥村彪生解説「聞き書 ふるさとの家庭料理」全20巻 農文協
 奥村彪生「おくむらあやお のふるさとの伝承料理」全13巻 農文協
 奥村彪生「日本のたべごとと文化」農文協
 河合利光編著「比較食文化論」建帛社
 草間正夫「食生活論」裳華房
 ブリア・サバラン「美味礼賛」筑波常治、
 日本放送出版協会 関根秀雄・戸部松美訳、「米食・肉食文明」岩波文庫
 鯖田豊之「肉食の思想」中公新書
 南直人『＜食＞から読み解くドイツ近代史』ミネルヴァ書房
 『世界の食文化』（全20巻）農文協

【受講生へのコメント】

楽しく勉強しましょう。

【開講年度・学期】2018 年度・通年
【科目名】前期特別研究
【英語表記】Advanced Studies for Master's Course
【科目ナンバリング】HDASM8501
【担当教員】指導教員
【授業形態】通年
【単位数】10単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

修士学位論文の研究課題遂行のための理論、研究実験法、解析法についての体系的な知識・技術の修得を目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

院生それぞれに対し、研究課題の設定、研究計画の立案を指導し、関連専門書および先行研究論文の検索・講読を徹底し、研究実験を実施する。得られたデータの解析や研究の展開に助言を与え、研究成果の学会発表、学会誌への投稿を指導し、修士論文の完成に導く。

1. 研究課題の設定
2. 研究計画の立案
3. 関連専門書および先行研究論文の検索・講読
4. 研究実験
5. データの解析
6. 研究成果の発表

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

修士論文の内容、公聴会での研究発表を通して総合的に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

居住環境学コース

【開講年度・学期】 2018 年度・前期
【科目名】 まちづくり学特論
【英語表記】 Advanced Community-Based Town Planning
【科目ナンバリング】 HEPLA6501
【担当教員】 中野 茂夫
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

国内外の主要都市を事例に、建築・都市空間の計画理論やさまざまな課題について整理した上で、その処方箋となる近年の都市計画やまちづくりの動向について議論を行う。

【授業の到達目標】

建築・都市空間がかたちづくられてきた経緯について、計画理論やプロジェクト等について調査・分析する手法を習得する。また建築・都市空間が持つ魅力を再発見し、まちづくりの提案を考えることで、社会に向けたプレゼンテーション技術を習得する。

【授業内容・授業計画】

1. ガイダンス
2. 都市計画理論の整理
3. 海外の建築・都市空間の特徴
4. 海外の建築・都市空間の課題
5. 日本の建築・都市空間の特徴と課題～大都市編～
6. 日本の建築・都市空間の特徴と課題～産業都市・地方都市編～
7. 日本の建築・都市空間の特徴と課題～歴史都市・集落編～
8. まちづくり史
9. まちづくりレポートに対する討論～大都市を事例に～
10. まちづくりレポートに対する討論～産業都市を事例に～
11. まちづくりレポートに対する討論～地方都市を事例に～
12. まちづくりレポートに対する討論～歴史都市を事例に～
13. まちづくりレポートに対する討論～集落を事例に～
14. まちづくりレポートに対する討論～海外都市を事例に～
15. まとめ～総合討論～

【事前・事後学習の内容】

授業で紹介する書籍や配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポート及びプレゼンテーション

【教材】

授業中に指示

【受講生へのコメント】

授業以外にも実際にまちを歩き、都市空間の視察や建築見学を行い、観察眼を磨くことが大切です。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】まちづくり学特論演習
【英語表記】Seminar on Advanced Community-Based Town Planning
【科目ナンバリング】HEPLA7501
【担当教員】中野 茂夫
【授業形態】演習
【単位数】1 単位
【当学科・コース学生以外の受講】要相談

【科目の主題】

まちづくり特論の講義を発展させ、具体的な建築・都市空間を調査・分析し、課題を抽出する。広い視点から課題解決に向けた今後のまちづくりの提案を行う。最終的な提案についてプレゼンテーションし、議論を行う。

【授業の到達目標】

建築・都市空間のフィールドワークを通して自分で課題を発見し、建物単体だけでなく、広い視点から都市デザインを考究し、今後のまちづくりに向けて提案する能力を身につける。また、具体的な提案をポートフォリオにまとめることで設計能力やプレゼンテーション技術を習得する。

【授業内容・授業計画】

1. ガイダンス
2. 課題設定
3. 調査対象の選定
4. 現地調査～まちあるき～
5. 現地調査～写真撮影・資料館視察等～
6. 課題の抽出
7. まちづくりの提案～地域資源の再発見～
8. まちづくりの提案～都市的提案～
9. まちづくりの提案～建築的提案～
10. ベースマップ作成
11. 都市デザインの構成
12. ポートフォリオ作成～まちづくり scene1 全体～
13. ポートフォリオ作成～まちづくり scene2 部分～
14. ポートフォリオ作成～まちづくり scene3 細部～
15. 発表会

【事前・事後学習の内容】

講義時間外にもグループでサーベイに取り組み、都市デザインの設計やまちづくりの提案について考究する。

【評価方法】

ポートフォリオ及びプレゼンテーション

【教材】

授業中に指示

【受講生へのコメント】

まちづくり学特論と関連させて授業を実施する。
提案したポートフォリオをブラッシュアップし、設計競技に応募することが望ましい。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】住生活学特論
【英語表記】Advanced Studies in Living Arrangements
【科目ナンバリング】HEPLA6502
【担当教員】小伊藤 亜希子
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

住生活の歴史と現代的課題について学ぶ。

【授業の到達目標】

家族・生活様式の変化と居住空間計画の理論的展開の関係について理解し、様々な住要求の存在と日本のこれから住まいのあり方について考える専門知識と能力を身につける。

【授業内容・授業計画】

講義を中心に、文献購読と発表を行う。

1. 文学史にみる住まいの変化
2. 間取りからみる住生活の変遷 1 明治～戦前期
3. 間取りからみる住生活の変遷 2 戦後～
4. 住生活理論の歴史的展開
5. 現代の住まいのこれからの住まい 1 世帯の変化から考える
6. 現代の住まいのこれからの住まい 2 住様式から考える
7. 現代の住まいのこれからの住まい 3 職住の関係から考える
8. 見学会 1 NEXT21 など
9. 見学会 2 子どもの生活施設 など
10. 集合住宅の計画理論から 1 集住とコミュニティ
11. 集合住宅の計画理論から 2 防犯性能と見守られる空間
12. 子どもの生活空間 1 遊びと地域生活
13. 子どもの生活空間 2 放課後の子どもの居場所
14. これからの住生活 レポート発表 1
15. これからの住生活 レポート発表 2

【事前・事後学習の内容】

講義終了後は復習すること。その都度、関連書籍を紹介するので、自習することでより理解が深まる。

【評価方法】

レポートと平常点により評価する

【教材】

資料を配布

【受講生へのコメント】

そのつど、関連する参考図書を紹介するので、そうした文献を読みながら参加してもらえると理解が深まると思います。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】住生活学特論演習
【英語表記】Seminar on Advanced Studies in Living Arrangements
【科目ナンバリング】HEPLA7502
【担当教員】小伊藤 亜希子
【授業形態】演習
【単位数】1 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

住生活学特論で学んだ住生活理論を、現代社会の中に位置づけながら、現実に行っている問題を把握し、解決にむけた課題を明確にする力を養う。

【授業の到達目標】

住生活に関わる課題を自ら設定し、その課題に関わる情報を集め、短期間で分析した結果をレポートとしてまとめる力を身につける。

【授業内容・授業計画】

現代の住生活にかかわる課題を設定し、個人、またはグループで調査し発表する。

1. ガイダンスと課題説明
2. テーマ発表
3. 個別ワーク 文献、資料集め
4. 研究計画の発表 調査計画の決定
5. 個別テーマに関わる調査の実施
6. 個別テーマに関わる調査の実施
7. 見学会 京都の町家と廃校小学校活用事例の見学
8. 見学会 (2 回分で見学会を実施する)
9. 京都の見学会の報告、討論
10. 個別テーマに関わる調査の経過報告
11. 住宅展示場の見学会
12. 住宅展示場の見学会 (2 回分で見学会を実施する)
13. 住宅展示場調査の報告、討論
14. 個別テーマに関わる調査結果のまとめワーク
15. レポート発表

【事前・事後学習の内容】

設定した課題について文献等で自己学習した上で、関連する情報を収集する等、十分に準備して授業にのぞむこと。

【評価方法】

レポートと平常点により評価する

【教材】

必要に応じて配布する

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 居住システム学特論
【英語表記】 Advanced Studies in Inhabitation Systems
【科目ナンバリング】 HEMIS6502
【担当教員】 瀧澤 重志
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可 (平成29年度以降入学生対象)

【科目の主題】

建築や都市空間・環境に関する調査・分析方法は、年々進化・多様化している。本講義では、こうした基本から最新の調査分析方法について、それらの知識と分析技術を高めることを主題とする。

【授業の到達目標】

本講義では、基礎から最新の調査・分析方法の概要を理解できるようにするとともに、ソフトウェアを活用して、研究や実務に活かせるような分析力を身につけることを到達目標とする。

【授業内容・授業計画】

第1回	ガイダンス	本科目の概要，講義の進め方などについての説明
第2回	調査方法 1	調査方法の基礎，調査デザイン，資料の入手方法
第3回	〃 2	アンケート，インタビュー，テキスト分析
第4回	〃 3	機器による調査，環境測定方法
第5回	〃 4	行動調査方法
第6回	〃 5	心理量・意味・イメージの測定
第7回	分析方法 1	集計，可視化
第8回	〃 2	推定，検定
第9回	〃 3	相関，回帰
第10回	〃 4	判別，分類
第11回	〃 5	共分散構造分析，パス解析
第12回	〃 6	クラスターリング，主成分分析
第13回	〃 7	空間分布，時空間予測，データマイニング
第14回	レポート準備，統計ソフトの操作，課題の説明	
第15回	レポート課題の提出・講評	

【事前・事後学習の内容】

主に受講者各自が教科書を事前に予習し，授業時間中に発表する輪読を主体とした形式で進める。また，ソフトウェアを用いて分析を行い，後日レポートとして纏めるために事後学習が必要である。

【評価方法】

発表(60%)，レポート(40%)

【教材】

日本建築学会編：建築・都市計画のための調査・分析方法「改訂版」，井上書院，2012
必要に応じて参考資料を提示する。

【受講生へのコメント】

計画や環境分野の研究で必要になる最新の調査・分析方法を知りたい学生の履修を期待する。また，統計ソフトウェアなどの使用を予定している。使用方法の概要は講義中にレクチャを行うが，前提として基礎的な情報処理のスキルを持っていることが望ましい。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期
【科目名】 居住システム学特論演習
【英語表記】 Seminar on Inhabitation Systems
【科目ナンバリング】 HEMIS7502
【担当教員】 瀧澤 重志
【授業形態】 演習
【単位数】 1 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可 （平成 29 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

地理情報システム（GIS）は現在さまざまな分野で用いられており，空間情報を扱う居住分野でも有用なツールである。本演習では，フリーの GIS として代表的な QGIS を用いて，GIS の概念，可視化，空間情報解析の手法等を体験しながら学ぶ。

【授業の到達目標】

- ・ GIS の基本的な概念を理解できるようになること。
- ・ QGIS の操作方法を学び，基本的な作図や空間解析ができるようになること。
- ・ 自分で地域の分析課題を設定し，GIS を用いてそれを客観的な方法で解くことができるようになること。

【授業内容・授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス，GIS の基礎概念
- 第 2 回 QGIS の概要と基本操作 1
- 第 3 回 基本操作 2
- 第 4 回 様々なデータソースの紹介
- 第 5 回 データ解析手法 1
- 第 6 回 データ解析手法 2
- 第 7 回 データ解析手法 3
- 第 8 回 データ解析手法 4
- 第 9 回 データ解析手法 5
- 第 10 回 解析事例 1
- 第 11 回 解析事例 2
- 第 12 回 解析事例 3
- 第 13 回 解析事例 4
- 第 14 回 演習課題の設定，課題のための作業
- 第 15 回 演習課題の提出・講評

【事前・事後学習の内容】

QGIS の事前インストールと課題の提出のための事後学習が必要。

【評価方法】

演習の提出課題で評価する。

【教材】

今木 羊大，岡安 利治：QGIS 入門 第 2 版，古今書院，2015
必要に応じて参考資料を提示する。

【受講生へのコメント】

GIS による空間情報解析の技術を実践的に学びたい人は受講してください。演習には自分で自由に使える PC（Windows or Mac）があったほうが便利です。

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】 居住文化史特論
【英語表記】 Advanced Cultural History of Housing
【科目ナンバリング】 HEPLA6503
【担当教員】 福田 美穂
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

日本における住生活空間に焦点をあてて、それを歴史的に考察することが本講義の目的である。その際、日本が東アジアの一角を占めることに十分注意して、住空間に関する日本の文献、それに深く関わる中国の文献を全員で解釈・ディスカッションしながら授業を進める。

【授業の到達目標】

- 1) 歴史的事象を考察するために、何をどのように調べ整理するのか、その技術を習得する。
- 2) 上記の技術により整理した事柄を、いかに歴史的に考察するか、その能力を習得する。

【授業内容・授業計画】

- 第1回 インTRODakション 講義の進め方の説明
- 第2回 日本庭園史 序論 定義と古墳時代まで
- 第3回 日本庭園史 飛鳥時代
- 第4回 日本庭園史 奈良時代
- 第5回 見学会 明日香にある発掘庭園遺構
- 第6回 見学会 奈良にある復元された庭園遺構
- 第7回 日本庭園史 平安時代1
- 第8回 日本庭園史 平安時代2
- 第9回 見学会 京都の庭園
- 第10回 日本庭園史 中世の庭園
- 第11回 日本庭園史 近世の庭園
- 第12回 講読 平安時代の庭づくりの本、作庭記1
- 第13回 講読 作庭記2
- 第14回 講読 作庭記3
- 第15回 講読 作庭記4

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

受講者の見学会への参加、ディスカッション、文献講読の際の発表内容、および期末レポートによって評価する。

【教材】

参考書：田村剛『作庭記』相模書房、森蘊『「作庭記」の世界』日本放送出版協会、Shigemaru Shimoyama tr., *Sakuteiki: the book of garden*, 1976、貝原益軒刪補・貝原好古編録『日本歳時記』八坂書房、村井古道『南都年中行事』綜藝舎、宗懐『荊楚歳時記』（東洋文庫）平凡社

【受講生へのコメント】

現代の居住文化を考えるためにも、歴史に学ぶ姿勢を身に付けていただきたい。

【開講年度・学期】2018年度・後期（隔年開講 2019年度休講）
【科目名】住居意匠学特論
【英語表記】Advanced Housing and Design
【科目ナンバリング】HE PLA6504
【担当教員】藤田 治彦（非常勤講師）
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

住居史・住居論、意匠史・意匠論の領域で、大学院レベルの講義を行う。近代建築・近代住宅ならびにモダン・デザインの出現の社会的背景について、ともに考え、受講生がそれぞれの研究において史論的内容の充実を図る助けになるような内容の授業とする。

【授業の到達目標】

近代建築・近代デザインから現代建築・現代デザインへの変遷を、各国の住宅を中心に、書籍等の文献資料だけでなく、写真や映像をも通じて理解し、受講者それぞれの専門における問題と関連付けて把握する。

【授業内容・授業計画】

住宅建築、デザインの歴史について、特定の論文や書籍を選び、その内容を分析する。ウィリアム・モリス、フランク・ロイド・ライト、柳宗悦らの著書や、近代建築、モダン・デザインに関する著作を読み、映像を通じて作品に触れ、そこから史論研究上の重要な諸問題を見出す。日本の意匠論について、西洋のデザインとの関係において考察する。

1. ウィリアム・モリス
2. フランク・ロイド・ライト
3. 柳宗悦ほか

【事前・事後学習の内容】

配布資料や推薦図書等を講義までに読んでおくこと。講義終了後に復習すること。

【評価方法】

授業への積極的な参加による平常点とレポートに基づいて評価する。

【教材】

授業中に指定ないし推薦する。

【受講生へのコメント】

この授業に関係する実作を訪れ、建築展やデザイン展等の展覧会にも足を運んでほしい。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 居住空間設計特論 I
【英語表記】 Residential Space Design I
【科目ナンバリング】 HEPLA6505
【担当教員】 小池 志保子
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

居住環境設計・工事監理の実務経験の事前学習として、住宅デザインとその背後にある技術や時代精神についての理解を深め、現代における居住空間設計について検討する。各人がテーマを持って居住空間の構成に関する分析を行い、レポートやデザインにまとめて発表し、それに対しての意見交換を通じて理解を深める。

【授業の到達目標】

- ・ 20 世紀初頭の居住空間について、調べる方法や背景を概ね理解する。
- ・ 居住空間の構成や設計について、考察するための技術を習得する。

【授業内容・授業計画】

各テーマについて、1 から 3 コマが充てられる

- 1、授業ガイダンス
- 2、現代の居住環境デザイン
- 3、20 世紀の名作住宅とは
- 3、時代背景とサステイナブルデザイン
- 4、空間構成を読み解くこと
- 5、居住環境デザイン事例の調査
- 6、居住環境デザイン事例分析の発表

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポート及び発表により評価する

【教材】

資料を配布、各自が図書館を活用すること

【受講生へのコメント】

居住空間デザインとその背景にある技術や時代精神に興味を持ち、居住空間デザインの幅広さを感じ取り、自主的な取り組みを行うことが理解を深めます。

【開講年度・学期】2018 年度・前期集中
【科目名】 居住空間設計特論Ⅱ
【英語表記】 Residential Space Design Ⅱ
【科目ナンバリング】 HEPLA6506
【担当教員】 松下 大輔
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

建築分野をはじめ、工学分野における広義の設計方法論に関する基本的知識の習得を目指す。設計方法論の体系、歴史、事例、関連する知識について説明する。

【授業の到達目標】

設計方法論の概要を理解し、今後取り組む種々の設計問題や問題解決において、理論や手法を応用的に用いることができるようになること。

【授業内容・授業計画】

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 1) ガイダンス | 広義のデザイン（設計）、初期デザイン方法論 |
| 2) デザイン問題 1 | 第 1 回国際デザイン方法会議、デザイン問題 |
| 3) デザイン問題 2 | チャーチマンのデザイン問題の分類 |
| 4) 問題解決 1 | 内観法、行動主義、ゲシュタルト心理学、デューイの思考方法 |
| 5) 問題解決 2 | デザインプロセス、アルゴリズムとヒューリスティクス |
| 6) 発見的手法 1 | アナロジー、類型学、形態言語 |
| 7) 発見的手法 2 | 経験則、規範的理論、熟達とスキーマ |
| 8) 推論 1 | 論理学、演繹、帰納、仮説形成 |
| 9) 推論 2 | 法則発見と仮説形成、デザインの可謬性、人工物の創造と倫理 |
| 10) 行動科学 1 | 手続的理論と実体的理論、アフォーダンス、相互浸透論 |
| 11) 行動科学 2 | 行動セッティング、シノモルフィ、コンピタンス |
| 12) 行動科学 3 | プロクセミクス、プライバシー、パーソナルスペース |
| 13) 行動科学 4 | まもりやすい空間、段階構成論 |
| 14) 行動科学 5 | CPTED、防犯環境設計 |
| 15) まとめ | 設計方法論と人工物システムの強化 |

【事前・事後学習の内容】

講義終了後は復習すること。

【評価方法】

毎回提出する講義レポートによる(100%)

【教材】

適宜資料を配付する。

【受講生へのコメント】

集中講義の日程は他科目と調整の上決定する。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期集中
【科目名】 居住空間設計特論演習
【英語表記】 Workshop in Residential Space Design
【科目ナンバリング】 HEPLA7503
【担当教員】 松下 大輔
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

構築環境における人間の行動を計測する手法、時系列データ、空間データの分析手法の概要を学び、行動科学に基づく研究方法を習得する。

【授業の到達目標】

行動計測に関する技術、統計分析手法、ソフトコンピューティングによる最適化手法などを理解し、自らの研究に用いることができるようになること。

【授業内容・授業計画】

- 1) ガイダンス
- 2) 行動科学 1
- 3) 行動科学 2
- 4) 数理的手法 1
- 5) 数理的手法 2
- 6) 時系列データの分析手法
- 7) 空間統計手法
- 8) 進化的計算 1
- 9) 進化的計算 2
- 10) 課題設定
- 11) 課題演習 1
- 12) 課題演習 2
- 13) 課題発表 1
- 14) 課題発表 2
- 15) 課題発表 3

【事前・事後学習の内容】

演習時間外の自学自習が必要。数学、統計、プログラム言語の基礎知識が必要。

【評価方法】

レポートおよび発表

【教材】

適宜配布する。

【受講生へのコメント】

集中講義の日程は他科目と調整の上決定する。

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】 居住福祉計画学特論
【英語表記】 Advanced Technology of Well-Living Planning
【科目ナンバリング】 HEPLA6507
【担当教員】 森 一彦
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

高齢者や障害者を含めたすべての人々が安心で、楽しく、自由な環境の計画について、その意義と具体的な内容に付いて学ぶ。

【授業の到達目標】

科目の主題に関するレポートの作成と発表・討議を通じた理解

【授業内容・授業計画】

- (1) ガイダンス
- (2) 認知症ケアについて（認知症ケア環境事典）
- (3) 老人ホーム改修事例見学 >>レポート「人口高齢化を乗り越える視点」
- (4) //
- (5) //
- (6) 高齢者居住について（エイジング・イン・プレイス）
- (7) 泉北事例見学>>レポート「泉北事例見学レポート～時代順に高齢者施設を巡る」
- (8) //
- (9) //
- (10) 福祉転用について（空き家・空きビルの福祉転用）
- (12) 地域再生事例見学 >>レポート「地域と都市をつなぐ生活の発見」
- (13) //
- (14) //
- (15) 居住福祉計画課題 発表会

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポート・発表点

【教材】

エイジング・イン・プレイス―超高齢社会の居住デザイン、学芸出版
空き家・空きビルの福祉転用、学芸出版

【受講生へのコメント】

講義と学外実習を行う

【備考】

居住福祉環境設計特論演習をあわせて受講すること

【開講年度・学期】2018年度・後期集中
【科目名】 居住福祉環境設計特論演習
【英語表記】 Advanced Theory and Practice of Well-Living Design
【科目ナンバリング】 HEPLA7504
【担当教員】 森 一彦・竹原 義二（非常勤講師）・松本 尚子（非常勤講師）
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

設計・工事監理実務経験（インターシップ）の導入として設計プロセスの理解と設計技術の習得を目的とする。具体的には、集合住宅や医療福祉施設などの居住福祉環境設計をとおり、建築設計および構造設計、設備設計の基本と技術を習得する。この課題では具体的な敷地や顧客など現実的な設計条件を設定し、より現実性の高いものとし、3～4名のグループで進める共同設計の形態で実施する。実際の企画設計で行われる現地調査、建築・構造・設備・環境計画・設計の後、作品発表・討議など一連の設計プロセスを演習する。

【授業の到達目標】

科目の主題に関するレポートの作成と発表・討議を通じた理解

【授業内容・授業計画】

- 1) 課題説明：福祉居住の現状と課題、QOL評価法、最新事例、設計条件
- 2) 高齢者・障害者向け集合住宅（もしくは医療福祉施設）の種類と概要
- 3) 高齢者・障害者向け集合住宅（もしくは医療福祉施設）に関する諸法規・諸規準
- 4) 高齢者・障害者向け集合住宅（もしくは医療福祉施設）の見学及び諸法規の実際
- 5) 現地調査・顧客ニーズ調査
- 6) 調査結果発表・討議
- 7) 建築計画1：機能計画、規模計画、平面計画
- 8) 建築計画2：アクセス計画、バリアフリー計画、サイン計画、安全計画
- 9) 建築計画発表・討議
- 10) 構造設計
- 11) 構造設計発表・討議
- 12) 設備・環境システム設計
- 13) 設備・環境システム設計発表・討議
- 14) プレゼンテーション資料作成
- 15) 設計作品発表・討議

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポート、設計作品、および発表内容

【教材】

プリント配布
空き家・空きビルの福祉転用、学芸出版

【受講生へのコメント】

インターンシップと連動させて、設計プロセスを理解する。

【備考】

居住福祉計画学特論をあわせて受講すること

(キーワード)

設計プロセス、集合住宅、医療福祉施設、QOL評価法、高齢者・障害者対応、環境性能

【開講年度・学期】2018 年度・後期集中
【科目名】福祉住宅設計学特論
【英語表記】Advanced Design Method of Welfare House
【科目ナンバリング】HEPLA6508
【担当教員】上田 博之
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

インターンシップに向けた技術・規制の取得を目的としたものである。本講義では特に、高齢社会において要求される生活像・生活スタイルを表現するデザインの手法、安全・安心な住宅・地域の設計技術など、総合的観点から高齢者の住宅をデザインすることができるよう知識や技術を身につけることを目的とする。

【授業の到達目標】

高齢社会を背景にバリアフリーの視点からユニバーサルデザインを前提とした建築・地域づくりについて、その法的規制・原則を解説し、その技術を教授する。

【授業内容・授業計画】

1. 講義 1／バリアフリー法と高齢者住宅
2. 講義 2／品確法と高齢者住宅
3. 講義 3／高齢者の身体機能と生活スタイル
4. 講義 4／安全・安心の住まい
5. 演習発表／討議 1 高齢者の住居と生活
6. 演習発表／討議 2 高齢者と地域との関係
7. 講義 5／高齢者住宅の改修方法
8. 講義 6／高齢者住宅の改修方法
9. 演習発表／討議 3 高齢者向け住宅改修
10. 演習発表／討議 4 単身高齢者向け住宅改修
11. 講義 7／身体障害と住宅
12. 講義 8／身体障害と公共建築・地域空間
13. 演習発表／討議 5 公共空間のバリアフリーチェック
14. 演習発表／討議 6 地域空間のバリアフリーチェック
15. 最終演習発表／討議 7

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

住宅及び集合住宅、地域空間を扱い、具体的な条件を持った課題を課す。計画学的側面の諸問題について議論し、結果を発表および課題レポートにより評価する。

【教材】

資料を配付する。

【備考】

建築系学科（一級建築士受験資格認定）を卒業していない場合、受講しないほしい。
「住居人類学特論」を受講する場合は、受講できない。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】住居人類学特論
【英語表記】Advanced Theory of Anthropology of Dwellings
【科目ナンバリング】HEPLA6509
【担当教員】上田 博之
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

「住まい」とは何か、どうあるべきか。建築計画論は「元来総体として一つであるはずの人間の生活を行為・行動に切り分け、その切り分けた行為・行動をそれに対応する空間に置き換え、最後にその空間をまとめて、建築にする」というものであり、住宅の計画にもそれを適用している。しかし、その行為・行動を切り分けるのに理論もなく、空間をまとめるルールもない。このような論理でまとめられた住居が人々の生活の器となり得るはずはなく、最近では、nLDK 論の住宅を超える住宅計画に対して、新たな方法論を模索している状態である。

またこれらの問題は、高齢化の進む我が国の高齢者住宅のあり方とも関連が深い。上記のような計画論で作られた住宅は「終の棲」になり得ていず、計画理論が必要になっている。

【授業の到達目標】

これまでの住宅計画論とは異なった住居を考えるため、人類学的視点からアプローチし、「住まい」とは何かを考えることを目的とする。

【授業内容・授業計画】

1. 高齢化の状況
2. 高齢化と住まい
3. 講義 4/安全・安心の住まい
4. 住まいとは何か
5. アジアの少数民族住居からみる住居
6. アジアの少数民族住居からみる住居
7. 住居の空間構造
8. 討論 1/住まいとは何か
9. 終の棲とは
10. 高齢者住居の考え方
11. 高齢者向け住宅
12. 単身高齢者向け住宅
13. 討議 2/公共空間のバリアフリーチェック
14. 討議 3/地域空間のバリアフリーチェック
15. 最終演習発表/討議 7

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポート及びその発表、講義での発言、出席状況により評価する。

【教材】

テキストを配布する。

【備考】

福祉住宅設計学特論を受講する場合、受講できない。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】人間工学特論
【英語表記】Advanced Ergonomics
【科目ナンバリング】HEENV6501
【担当教員】岡田 明
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

生活機器・居住空間・情報システムなど人間が扱う様々なモノを心身機能に適合させ、使いやすく安全で健康的なものにしていくためのデザインの考え方や評価方法について論じる。表面的な人間工学的対応だけでなく、より深く人間を理解し、その知識を広く設計に応用していける能力を獲得することをねらいとする。

【授業の到達目標】

使いやすく安全で快適なモノづくりに必要な人間の心身機能の特性を理解し、それを具体的な設計に活かせるようにする。

【授業内容・授業計画】

基礎となる人間の諸機能（感覚・認知・運動・形態）の特性や加齢に伴う変化を、生理学、解剖学、認知心理学の側面から解説する。さらに、それらに基づく人間の計測や様々な設計物の人間工学的評価の手法を論じる。

以下のテーマ構成からなり、1 テーマについて 1～4 コマが充てられる。

1. 人間工学の範囲と応用の領域
2. 人間工学基礎講義
3. 認知人間工学①（わかりやすさをデザインする）
4. 認知人間工学②（ヒューマンエラーと安全設計）
5. 認知人間工学③（公共の標識・サインのデザイン）
- 6～8. 学外演習（標識・サインのユニバーサルデザイン調査）
9. 学外演習調査結果の報告と講評
10. 生理心理人間工学①（ヒトの生理機能）
11. 生理心理人間工学②（ヒトの心理特性）
12. 生理心理人間工学③（精神物理測定演習）
13. 生理心理人間工学④（生理測定演習）
14. これからの人間工学の展望と課題
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

予め次のテーマについて調べる。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

各テーマにおける演習および発表と出席状況

【教材】

各テーマに基づく資料を毎回配布

【受講生へのコメント】

高齢社会やユニバーサルデザインに対応した必須の科目である。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】人間工学特論演習
【英語表記】Seminar on Advanced Ergonomics
【科目ナンバリング】HEENV7501
【担当教員】岡田 明
【授業形態】演習
【単位数】1 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

人間工学特論で学んだ知識に基づく実践的な演習を行うことにより，設計物を扱う人間の心身機能特性に基づく使いやすさ・快適性評価等の具体的方法や理論を学ぶ。

【授業の到達目標】

人間工学評価のための調査・実験を計画し実践することができる。
人間工学分野の論文・資料を読み解くことができる。

【授業内容・授業計画】

以下の 4 つのテーマから構成され，各テーマについて 2～5 コマが充てられる。

- 1～2. 人間工学調査・実験の計画と進め方
- 3～7. 論文講読
- 8～10. 人間工学関連施設見学（場所は年毎に変更）
- 11～14. 学外演習と報告・講評（テーマは年毎に変更）
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

予め次回のテーマについて調べる。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

各テーマにおける演習および発表と出席状況

【教材】

各テーマに基づく資料を毎回配布

【受講生へのコメント】

「人間工学特論」のページを参照のこと。

【備考】

「人間工学特論」も併せて履修すること

【開講年度・学期】2018年度・前期集中（隔年開講 2019年度休講）
【科目名】 福祉機器設計論特論
【英語表記】 Advanced Design Method for Assistive Technologies
【科目ナンバリング】 HEENV6502
【担当教員】 相良 二郎（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

障害のあるひとの自立を支える福祉機器（支援技術）のありかたや、考え方について学び、グループワークを通して福祉機器のデザイン方法を習得する。また、一般解として近年目覚ましい取り組みが行われている、ユニバーサルデザインについて学び、企業における取り組みを見学をとおして学ぶ。

【授業の到達目標】

福祉機器（支援技術）およびユニバーサルデザインについての理解を得、住生活を計画するなかで利用する方法や、それらの計画方法を身に着ける。

【授業内容・授業計画】

スライドやビデオを利用した講義に加え、あるテーマに対してアイデア展開の演習をグループワーク形式にておこなう。また、企業等の見学実習を行う。

1. オリエンテーション
2. 福祉機器とは（歴史と現状）
3. 福祉機器提供の仕組み
4. 代表的な福祉機器の事例
5. 欧米における支援技術の実際
6. ADAと支援技術
- 7～8. グループワーク
9. ユニバーサルデザイン
- 10～14. 見学
15. ディスカッション

【事前・事後学習の内容】

事前に福祉用具の種類や特徴について文献等を用いて下調べしておくこと。

【評価方法】

出席およびレポート

【教材】

福祉機器選び方・使い方改訂版：財団法人保健福祉広報協会

【受講生へのコメント】

隔年開講のため、受講計画をよく考えること。

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】住居安全工学特論
【英語表記】Advanced Safety Engineering of Housing
【科目ナンバリング】HEENV6503
【担当教員】生田 英輔
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

生活の質を考える場合、快適性、利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。この科目では、住居を中心に居住環境における防災・安全の問題について論じ、工学的手法などを援用しつつ、生活科学の視点からの対策の具体化について理解を深めることを目的とする。

【授業の到達目標】

国内外の先進事例から、住宅を中心とした居住環境の防災・安全における災害レジリエンス向上のための具体的な考え方や手法を、生活科学の視点から会得することを目標とする。

【授業内容・授業計画】

地震などの自然災害による物的被害・人的被害の発生メカニズムおよび居住者の視点に立った防災・減災対策について学び、居住環境の災害レジリエンス向上のための具体的方策について考える。さらに、日常生活において居住環境で発生する事故・災害の実態を分析し、その予防策について講じる。

1. ガイダンス：講義の概要および評価方法
2. 近年の自然災害における物的被害
3. 近年の自然災害における人的被害
4. 近年の自然災害に対する対策
5. 日常生活事故・災害の実態
6. 日常生活事故・災害の対策
7. 災害脆弱性の分析と活用
8. 災害時の人間行動
9. 災害レジリエンスの考え方
10. 災害レジリエンス向上のための具体的方策（予防）
11. 災害レジリエンス向上のための具体的方策（準備）
12. 災害レジリエンス向上のための具体的方策（直後対応）
13. 災害レジリエンス向上のための具体的方策（復旧対応）
14. 災害レジリエンス向上のための具体的方策（復興対応）
15. 災害レジリエンス向上のための具体的方策の討議

【事前・事後学習の内容】

国内外の自然災害事例の情報を常時収集、整理すること。指定された論文・書籍は講義までに学習しておくこと。講義終了後は、配布資料等を学習すること。

【評価方法】

レポート、プレゼンテーションの内容

【教材】

資料、国内外の最新研究論文、書籍

【受講生へのコメント】

講義内容に対する積極的な発言を期待する。

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 居住環境工学特論
【英語表記】 Advanced Environmental Engineering in Architecture
【科目ナンバリング】 HEENV6504
【担当教員】 永村 一雄
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 担当教員の了解を得ること

【科目の主題】

空調衛生設備系のインターンシップでたずさわる作業のひとつに熱負荷の算定がある。実際の計算を行うにあたり、単に手順に倣い操作を憶えるだけでは、設計責任を負えないことになり、竣工後の検査も考えると、技術者倫理にも抵触しかねない事態となる。本講義では、空調に関する負荷計算法についての基本的な理解と、現在の高度な空調設計に欠かせないシミュレーションツールによる熱負荷計算を実際に行い、空調設計の意味を確実に把握する。

【授業の到達目標】

授業の到達目標：建物の空調用熱負荷の算出概念とその特性を理解する。

【授業内容・授業計画】

- 1) 空調負荷計算法の歴史
- 2) 空調熱負荷の種類（室負荷、装置負荷）
- 3) 外界条件とその表現（標準年気象データ、設計用期間熱負荷気象データ、デグリーデ）
- 4) ゾーニングと負荷処理計画
- 5) 空気調和に求められる湿り空気の基本性質
- 6) 最大/動的熱負荷計算の概要
- 7) 最大/動的熱負荷計算の相違と用途
- 8) 確認申請用行政ツールBESTの概要
- 9) 確認申請用行政ツールBESTによる動的熱負荷計算
- 10) 熱負荷計算プログラムによる建物の省エネ効果の検討
- 11) 世界で用いられる空調熱負荷計算プログラムの概要
- 12) 空調熱負荷計算プログラムDOE2などによる動的熱負荷計算
- 13) 世界の標準年気象データとその特徴（アジア、主に中国）
- 14) 世界の標準年気象データとその特徴（欧米）
- 15) まとめと発展

【事前・事後学習の内容】

事前・事後学習の内容：配布資料に、事前予習キーワードを示すので、調べてくること。また、事後には、理解度をはかる演習をかく。

【評価方法】

負荷計算書（80%）の提出と、計算体系の理解を確認するための定期試験（20%）により評価し、60点以上を合格とする。

【教材】

『設計用最大熱負荷計算法』（空気調和・衛生工学会）、
『空気調和・衛生工学会便覧』（空気調和・衛生工学会）、
『空調設備の動的熱負荷計算入門』（日本建築設備士協会）

【受講生へのコメント】

かなりの学習量が課せられる。履修に際して、事前に担当者と相談されたい。

【備考】

資格付与に係る科目でもあるため、学習負担が大きいことをよく理解して履修すること。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】 居住環境システム設計特論演習
【英語表記】 Seminar on Advanced Environmental System Design in Architecture
【科目ナンバリング】 HEENV7502
【担当教員】 永村 一雄
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 担当教員の了解を得ること

【科目の主題】

インターンシップでは、実際の建築物の設備設計の補助作業を行うが、設計図書作成にあたっては、CASBEEや省エネルギー法にもとづき、建築物の環境性能を算定することが求められる。本演習では、CASBEEやPAL/CEC、Q値、C値、LCCO₂ (LCM) 算定といった確認申請に必須の性能評定項目の概要とその算定にかんする演習を行う。

【授業の到達目標】

授業の到達目標：建物の空調用熱負荷の算出方法、空調全般と省エネルギーの基本概念を理解する。

【授業内容・授業計画】

- 1) 室内衛生基準の概説と測定
- 2) シックハウス関連法規と換気量測定
- 3) 室内汚染物質測定・評価指標算出
- 4) 環境設計にかかる法規概要（省エネ法、CASBEE、グリーン法関連、シックハウス法）
- 5) PAL値の算定演習
- 6) CEC値の算定演習
- 7) Q値の算定演習
- 8) C値の算定演習
- 9) ビル管法・建築設備定期点検にかかわる測定事項概説
- 10) 建築物の総合環境性能にかかわる指標概要
- 11) ライフサイクルCO₂の積み上げ方式による算定
- 12) ライフサイクルCO₂の連関表方式による算定
- 13) CASBEE・新築の評価演習
- 14) CASBEE・既存/改修の評価演習
- 15) プレゼンテーションと講評

【事前・事後学習の内容】

事前・事後学習の内容：配布資料に、事前予習キーワードを示すので、調べてくること。また、事後には、理解度をはかる演習をかく。

【評価方法】

各種演習（80%）の提出と、それをもとにした課題のプレゼンテーション（20%）により評価し、60点以上を合格とする。

【教材】

『建物の省エネルギー基準と計算の手引』（財団法人 住宅・建築 省エネルギー機構）、
『住宅の次世代省エネルギー基準と指針』（財団法人 住宅・建築 省エネルギー機構）、
『空気調和・衛生工学会便覧』（空気調和・衛生工学会）、
『CASBEE・新築・既存・改修 評価マニュアル』（財団法人 住宅・建築 省エネルギー機構）

【受講生へのコメント】

かなりの学習量が課せられる。

【備考】

前期、居住環境工学特論の単位取得を前提とする。

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】 居住環境設備設計特論演習
【英語表記】 Seminar on Advanced Building Services and Engineering Design
【科目ナンバリング】 HEENV7503
【担当教員】 ファーナム クレイグ
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 担当教員の了解を得ること

【科目の主題】

空調衛生設備系のインターンシップでは、数千平方メートルクラスの具体的な建築物を対象に、空調・衛生設備システムの計画と設計の補助作業を行う。このため、具体的な負荷の計算や機器の選定までの設計図書の作成能力が不可欠である。本講義は、これに対応するべく、定められた建物規模の空調と給排水の設備設計の実務を学び、あわせて装置容量設計から機器選定にいたる図書作成の演習を行う。

【授業の到達目標】

- 建物の熱負荷計算を行って、空調システムの適合能力を選択できること
- 数千平方メートルクラスの建物の空調平面図を作成できること
- 数千平方メートルクラスの建物の給排水負荷を計算して、給排水平面図を作成できること
- 建築設備の平面図に使用される記号、機器などを理解できること

【授業内容・授業計画】

- 1) 建築概要の理解、空調設備図面の理解（空調設計の流れ）
- 2) 空調熱負荷計算（最大熱負荷計算法-SHASE方式）
- 3) 空調熱負荷計算（動的熱負荷計算法-シミュレーション方式）
- 4) ダクトの設計（負荷によるダクト断面算定、経路策定）
- 5) 送風機の選定（機種評価と選定方法）
- 6) 機器表の作成
- 7) 機器配置計画（建築図の裏トレース天井伏せ図作成）
- 8) 機器配置計画（設備複合図の作成）
- 9) 機器配置計画1（空調平面図の作成）
- 10) 機器配置計画2（空調平面図の作成）
- 11) 給水負荷算定（給水器具配管設計）
- 12) 給湯負荷算定（給湯器具配管設計）
- 13) 排水負荷算定（排水管設計）
- 14) 防火・電気・機械設備概要
- 15) 設計図書の講評

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。平面図作成の講義の前に平面図を作成すること。講義終了後に教員の指導に従って、作成物の訂正すること。義終了後は復習すること。

【評価方法】

空調・衛生設備設計図書（100%）の提出、60点以上を合格とする。

【キーワード】

空気調和設備、給排水・給湯設備、機器選定、機器配置

【教材】

『設計用最大熱負荷計算法』（空気調和・衛生工学会）、
『空気調和・衛生工学会便覧』（空気調和・衛生工学会）

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 居住環境材料学特論
【英語表記】 Advanced Environmental Material
【科目ナンバリング】 HESTR6501
【担当教員】 渡部 嗣道・岡本 滋史・辻 英一（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

建築士技術者をめざす基礎教育科目として、構造設計にかかわる知識や計算力を身に付けるための内容を学習する。前半は構造設計実務者によって構造技術者への入門編の教授を行う。後半は、2 級建築士試験レベルの過去問を中心に、構造設計に必要な基礎力を養う。

【授業の到達目標】

2 級建築士の構造系科目をクリアできるレベルとする。

【授業内容・授業計画】

- 1) ガイダンス＋構造設計とは
- 2) 構造設計と耐震設計
- 3) 構造コストと耐用性、耐久性
- 4) 用・強・美と建築デザインと景観
- 5) 構造力学 1：力のつり合い・断面の性質
- 6) 構造力学 2：応力度・許容応力度
- 7) 構造力学 3：静定構造の応力
- 8) 構造力学 4：座屈
- 9) 構造学 1：荷重・外力
- 10) 構造学 2：地盤・基礎
- 11) 構造学 3：木構造 1
- 12) 構造学 4：木構造 2
- 13) 構造学 5：鉄筋コンクリート造
- 14) 構造学 6：項構造
- 15) 材料学

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポート

【教材】

資料配布

【受講生へのコメント】

建築士受験あるいは建築構造技術者に関心のあることが望ましい。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】 居住環境材料学特論演習
【英語表記】 Seminar on Advanced Environmental Material
【科目ナンバリング】 HESTR7501
【担当教員】 渡部 嗣道
【授業形態】 演習
【単位数】 1 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

建物は複数の建築材料から構成されているため、建物の長寿命化を図るにはその劣化防止技術を確立する必要がある。ここでは、鉄筋コンクリートの劣化問題について学習する。

【授業の到達目標】

学術書及び学術論文を理解することができる。
研究計画を立て、実施することができる。

【授業内容・授業計画】

- 1) 研究の進め方
- 2) 論文購読 1 : コンクリートの乾燥収縮 1
- 3) 論文購読 2 : コンクリートの乾燥収縮 2
- 4) 論文購読 3 : コンクリートのクリートひずみ
- 5) 論文購読 4 : 鉄筋コンクリートの乾燥収縮ひび割れ 1
- 6) 論文購読 5 : 鉄筋コンクリートの乾燥収縮ひび割れ 2
- 7) 論文購読 6 : 鉄筋コンクリートの乾燥収縮ひび割れ 3
- 8) 論文購読 7 : コンクリート床スラブのたわみ
- 9) 論文購読 8 : 鉄筋の錆
- 10) 論文購読 9 : コンクリートの中性化 1
- 11) 論文購読 10 : コンクリートの中性化 2
- 12) 論文購読 11 : マスコンクリート
- 13) 論文購読 12 : 自己ひずみに関する FEM 解析
- 14) 研究発表 1 : 卒業論文の研究概要
- 15) 研究発表 2 : 現在進行中の研究概要

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポート

【教材】

資料配布

【受講生へのコメント】

居住環境材料学特論を履修したものに限る。

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】環境材料感性学特論
【英語表記】Advanced Environmental and Materials Aesthetics
【科目ナンバリング】HESTR6503
【担当教員】酒井 英樹
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

建築物や製品等を構成する材料の安全性、快適性、省資源・省エネルギー性を追求するために必要とされる物性評価、心理・感性評価、環境負荷評価などの環境材料学分野の諸問題解決のための手法を修得する。

【授業の到達目標】

学術書及び学術論文に書かれた手法を理解し、実践する。

【授業内容・授業計画】

1. ガイダンス
2. 学術書、学術論文の輪読方法について
3. 学術書・学術論文の輪読（概論）
4. 学術書・学術論文の議論（概論）
5. 学術書・学術論文の輪読（物性評価）
6. 学術書・学術論文の議論（物性評価）
7. 学術書・学術論文の輪読（心理評価）
8. 学術書・学術論文の議論（心理評価）
9. 学術書・学術論文の輪読（感性評価）
10. 学術書・学術論文の議論（感性評価）
11. 学術書・学術論文の輪読（まとめ）
12. 学術書・学術論文の議論（まとめ）
13. 修士研究計画の発表（材料・構造分野）
14. 修士研究計画の発表（設備・生産分野）
15. 修士研究計画の発表（計画・設計分野）

【事前・事後学習の内容】

講義に関連する資料を事前に収集し、講義に参加すること。

【評価方法】

各回の発表（50点）とレポート（50点）により評価する。

【教材】

事前に担当者まで問い合わせること。

【受講生へのコメント】

環境、材料、色彩、心理、統計に関する予備知識は、必要に応じて自習することを求める。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期集中
【科目名】 居住環境構工法学特論
【英語表記】 Structural Design and Construction Methods of Buildings
【科目ナンバリング】 HESTR6504
【担当教員】 渡部 嗣道
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 担当教員の了解を得ること

【科目の主題】

建築家や設計事務所にとって、工事監理は設計と同時に重要な業務である。設計者はこの業務のなかで、設計図書を読み解き、施工者に的確な指示を与え、設計意図を誤らないように構築の作業工程を把握し、監視していく能力が要求される。インターンシップでは、居住環境に関する設計・工事監理経験が導入されるために、これらの能力を養うための実務に役立つ実践的知識を教授する。授業は、工事監理のチェックポイントを作業工程あるいは建築構法ごとに整理した内容とする。

【授業の到達目標】

建築物の工事監理を把握するために、その実務的な技術情報を習得する。

【授業内容・授業計画】

- 1) 工事監理概論
- 2) 仮設工事
- 3) 土・地業工事
- 4) 鉄筋コンクリート工事 1
- 5) 鉄筋コンクリート工事 2
- 6) 鉄骨工事 1
- 7) 鉄骨工事 2
- 8) コンクリートブロック工事・ALCパネル
- 9) 防水工事
- 10) 屋根工事
- 11) 石・タイル工事・左官工事
- 12) カーテンウォール工事・金属工事
- 13) 塗装・内装工事・建具工事・木工事
- 14) 品質検査
- 15) 工事契約

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポートによる。

【教材】

配布資料

【備考】

(キーワード)

工事監理、確認業務、設計図書、施工図、躯体工事、仕上げ工事、竣工検査

【開講年度・学期】2018 年度・前期集中
【科目名】設計インターンシップⅠ
【英語表記】Design InternshipⅠ
【科目ナンバリング】HEITS8501
【担当教員】全教員（代表：森 一彦）・衛藤 照夫（非常勤講師）
【授業形態】前後指導＋60 時間以上のインターンシップ
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】担当教員の了解を得ること
【一級建築士実務認定】可

【科目の主題】

持続可能な社会の構築に向けて、リノベーション、コンバージョン、LCC マネジメントを含む、長期的視点に立脚した居住環境デザインとその技術の重要性が増大している。「設計インターンシップⅠ」では、導入講義＋ワークショップの実施後、居住環境デザインに関わる設計・工事監理の現場でインターンシップを実施し、設計・工事監理の実務に携わるなかで居住環境デザインの視点を養う。また、インターンシップ後、フォローアップの講義＋ワークショップを実施し、現場で身につけた知識・技術をその後の学習や就職活動へ活かす。

【授業の到達目標】

居住環境デザインに関わる設計・工事監理業務のインターンシップを通して、以下の項目の達成を目指す。

- 1) 施主、社会、地域から与えられる与条件のなかで、持続可能な社会に求められる長期的視点に立脚した居住環境デザインがどのように設計に取り入れられるのか、そのプロセスについて習得するとともに実務的な問題解決能力を養う
- 2) 建築設計・工事監理実務がどのような担い手により実施されるのか、施主・施工者・設計者・監理者・構造技術者・設備技術者等の立場・関係について修得する
- 3) 建築設計・工事監理において、多岐に渡る設計図書が作成されるプロセスについて、習得する
- 4) 建築模型・CG を含むプレゼンテーション技術が実際の設計・工事監理業務においてどのように取り入れられ、活用されるのか、習得する
- 5) 建築設計・工事監理に要請される社会性、経済性、道徳・倫理について習得する
- 6) 建築設計・工事監理実務の体験から自分の適正に応じた進路を見定める

【授業内容・授業計画】

- 1) 導入講義＋ワークショップ
- 2) インターンシップ（60 時間以上、一級建築士の指導によるインターンシップを実施）
- 3) フォローアップ講義＋ワークショップ

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

※受け入れ先の設計事務所等の責任者が実施する実務への貢献についての評価記録、インターンシップ後に学生が作成する報告書、ワークショップの評価による

【教材】

『基本建築基準法関係法令集』

【備考】

インターン研修を履修する主要な設計事務所としては居住環境デザインの実務に関する設計事務所、企業を予定している。受け入れ先により人数等の制限がされる場合がある。

平成 21 年度以降入学生対象。1 回生対象。

【開講年度・学期】2018年度・後期集中
【科目名】設計インターンシップⅡ
【英語表記】Design InternshipⅡ
【科目ナンバリング】HEITS8502
【担当教員】全教員（代表：小池 志保子）・高橋寿太郎（非常勤講師）
【授業形態】前後指導＋60時間以上のインターンシップ
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】担当教員の了解を得ること
【一級建築士実務認定】可

【科目の主題】

安心・安全な高齢社会の構築に向けて、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続ける“aging in place”、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ハウスアダプテーション、介護保険制度に立脚した居住環境整備、リハビリのための屋外環境設計など、福祉環境デザインとその技術は近年、ますます重要性が増大している。「設計インターンシップⅡ」では、導入講義＋ワークショップの実施後、福祉環境デザインに関わる設計・工事監理の現場でインターンシップを実施し、設計・工事監理の実務に携わるなかで福祉環境デザインの視点を養う。また、インターンシップ後、フォローアップの講義＋ワークショップを実施し、現場で身につけた知識・技術をその後の学習や就職活動へ活かす。なお、居住環境デザインインターンシップの受講が前提である。

【授業の到達目標】

福祉環境デザインに関わる設計・工事監理業務のインターンシップを通して、以下の項目の達成を目指す。

- 1) 施主、社会、地域、利用者像、制度等の余条件のなかで、高齢社会に求められる福祉環境デザインと技術がどのように設計に取り入れられるのか、そのプロセスについて習得するとともに実務的な問題解決能力を養う
- 2) 建築設計・工事監理実務がどのような担い手により実施されるのか、施主・施工者・設計者・監理者・構造技術者・設備技術者等の立場・関係について修得する
- 3) 建築設計・工事監理において、多岐に渡る設計図書が作成されるプロセスについて、習得する
- 4) 建築模型・CGを含むプレゼンテーション技術が実際の設計・工事監理業務においてどのように取り入れられ、活用されるのか、習得する
- 5) 建築設計・工事監理に要請される社会性、経済性、道徳・倫理について習得する
- 6) 高齢者・障害者の個別の心身特性や地域特性、介護保険制度を踏まえた福祉環境デザインの設計・工事監理技術について習得する
- 7) 建築設計・工事監理実務の体験から自分の適正に応じた進路を見定める

【授業内容・授業計画】

- 1) 導入講義＋ワークショップ
- 2) インターンシップ（60時間以上、一級建築士の指導によるインターンシップを実施）
- 3) フォローアップ講義＋ワークショップ

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

※受け入れ先の設計事務所等の責任者が実施する実務への貢献についての評価記録、インターンシップ後に学生が作成する報告書、ワークショップの評価による

【教材】

『基本建築基準法関係法令集』

【備考】

インターン研修を履修する主要な設計事務所としては福祉環境デザインの実務に関する設計事務所、企業を予定している。受け入れ先により人数等の制限がされる場合がある。

平成21年度以降入学生対象。1回生対象。

【開講年度・学期】2018 年度・後期集中
【科目名】設計インターンシップ III
【英語表記】Design Internship III
【科目ナンバリング】HEITS8503
【担当教員】全教員（代表：永村 一雄）
【授業形態】前後指導+60 時間以上のインターンシップ
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】担当教員の了解を得ること
【一級建築士実務認定】可

【科目の主題】

持続可能な社会構築に向けて、CASBEE、エコロジーデザイン、グリーンアーキテクチャ、環境共生技術、LCC02 マネジメント、シックハウス問題など、設備環境技術とデザインは近年、ますます重要性が増大している。「設計インターンシップ III」では、導入講義+ワークショップの実施後、環境システムデザインに関わる設計・工事監理の現場でインターンシップを実施し、設計・工事監理の実務に携わるなかで設備環境技術およびデザインの視点を養う。また、インターンシップ後、フォローアップの講義+ワークショップを実施し、現場で身につけた知識・技術をその後の学習や就職活動へ活かす。

【授業の到達目標】

居住環境設備やシステムに関わる設計・工事監理業務のインターンシップを通して、以下の項目の達成をめざす。

- 1) 施主、社会、地域、制度等の余条件のなかで、持続的成長の可能な社会構築に向けて設備環境技術とデザインがどのように設計に取り入れられるのか、そのプロセスについて習得するとともに実務的な問題解決能力を養う
- 2) 建築設計・工事監理実務がどのような担い手により実施されるのか、施主・施工者・設計者・監理者・構造技術者・設備技術者等の立場・関係について修得する
- 3) 建築設計・工事監理において、多岐に渡る設計図書が作成されるプロセスについて、習得する
- 4) シミュレーション技術が実際の設計・工事監理業務においてどのように取り入れられ、活用されるのか、習得する
- 5) 建築設計・工事監理に要請される社会性、経済性、道徳・倫理について習得する
- 6) 環境関連の制度を踏まえた設備環境技術・デザインの設計・工事監理技術について習得する
- 7) 建築設計・工事監理実務の体験から自分の適正に応じた進路を見定める

【授業内容・授業計画】

- 1) 導入講義+ワークショップ
- 2) インターンシップ (60 時間以上、一級建築士または建築設備士の指導によるインターンシップを実施)
- 3) フォローアップ講義+ワークショップ

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

※受け入れ先の設計事務所等の責任者が実施する実務への貢献についての評価記録、インターンシップ後に学生が作成する報告書、ワークショップの評価による

【教材】

『基本建築基準法関係法令集』

【備考】

インターン研修を履修する主要な設計事務所としては設備環境技術・デザインの実務に関する設計事務所、企業を予定している。受け入れ先により人数等の制限がされる場合がある。
平成 21 年度以降入学生対象。1 回生対象。

【開講年度・学期】2018 年度・前期集中
【科目名】設計インターンシップⅣ
【英語表記】Design Internship Ⅳ
【科目ナンバリング】HEITS8504
【担当教員】全教員（代表：岡田 明）
【授業形態】前後指導＋60 時間以上のインターンシップ
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可
【一級建築士実務認定】不可

【科目の主題】

本科目の目的は、居住環境をめぐる社会の中で、建築設計以外の居住環境デザインとしての創造的活動を担える技術者を育成することである。「設計インターンシップⅣ」では、導入講義＋ワークショップの実施後、居住環境デザインに関わる建築士以外の設計、例えば、プロダクトデザイン・インテリアデザイン・照明あるいは音響設計・インフラ設計・ランドスケープなどの現場でインターンシップを実施し、実務に携わるなかで居住環境デザインの視点を養う。また、インターンシップ後、フォローアップの講義＋ワークショップを実施し、現場で身につけた知識・技術をその後の学習や就職活動へ活かす。ただし、「インターンシップⅠ～Ⅲ」のいずれかを受講したものは、本科目を受講できない。

【授業の到達目標】

居住環境デザインに関わる設計業務のインターンシップを通して、以下の項目の達成を目指す。

- 1) 社会、地域から与えられる与条件のなかで、持続可能な社会に求められる長期的視点に立脚した居住環境デザインがどのように設計に取り入れられるのか、そのプロセスについて習得するとともに実務的な問題解決能力を養う
- 2) 設計実務がどのような担い手により実施されるのか、発注者・設計者・製造者・施工者等の立場・関係について修得する
- 3) 多岐に渡る設計図書が作成されるプロセスについて習得する
- 4) 模型・CG を含むプレゼンテーション技術が実際の設計業務においてどのように取り入れられ、活用されるのか、習得する
- 5) 設計業務に要請される社会性、経済性、道徳・倫理について習得する
- 6) 設計実務の体験から自分の適正に応じた進路を見定める

【授業内容・授業計画】

- 1) 導入講義＋ワークショップ
- 2) インターンシップ（60 時間以上）
- 3) フォローアップ講義＋ワークショップ

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

※受け入れ先の設計事務所等の責任者が実施する実務への貢献についての評価記録、インターンシップ後に学生が作成する報告書、ワークショップの評価による

【教材】

特になし。

【備考】

インターン研修を履修する主要な設計事務所としては居住環境デザインの実務に関する設計事務所、企業を予定している。受け入れ先により人数等の制限がされる場合がある。

平成 27 年度以降入学生対象。1 回生対象。

【開講年度・学期】2018年度・後期集中
【科目名】設計インターンシップ V
【英語表記】Design Internship V
【科目ナンバリング】HEITS8505
【担当教員】全教員（代表：渡部 嗣道）
【授業形態】前後指導＋60時間以上のインターンシップ
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可
【一級建築士実務認定】不可

【科目の主題】

現代の地球環境問題には、長期的視点に立脚した高度なエコロジーデザインが要求されている。本科目では、建築設計以外の設計業務の中で、自然エネルギーの利用や長寿命化への配慮などによって、地球環境への負担の少ないサステナブルな製品や維持保全プロセスを図るデザイン能力を取得する。また、「設計インターンシップV」では、導入講義＋ワークショップの実施後、インターンシップを実施し、設計・工事監理の実務に携わるなかで福祉環境デザインの視点を養う。また、インターンシップ後、フォローアップの講義＋ワークショップを実施し、現場で身につけた知識・技術をその後の学習や就職活動へ活かす。なお、本科目は、「インターンシップIV」の受講を前提とする。また、「インターンシップⅠ～Ⅲ」のいずれかを受講したものは、本科目を受講できない。

【授業の到達目標】

エコロジカル環境デザインに関わる設計業務のインターンシップを通して、以下の項目の達成を目指す。

- 1) 社会、地域、利用者像、制度等の与条件のなかで、地球環境に求められる環境デザインがどのように設計実務に取り入れられるのか、そのプロセスについて習得するとともに実務的な問題解決能力を養う
- 2) 設計実務がどのような担い手により実施されるのか、発注者・施主・施工者・設計者・監理者・構造技術者・設備技術者等の立場・関係について修得する
- 3) 多岐に渡る設計図書が作成されるプロセスについて、習得する
- 4) 模型・CGを含むプレゼンテーション技術が実際の設計業務においてどのように取り入れられ、活用されるのか、習得する
- 5) 設計実務に要請される社会性、経済性、道徳・倫理について習得する
- 6) 設計実務の体験から自分の適正に応じた進路を見定める

【授業内容・授業計画】

- 1) 導入講義＋ワークショップ
- 2) インターンシップ（60時間以上）
- 3) フォローアップ講義＋ワークショップ

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

※受け入れ先の設計事務所等の責任者が実施する実務への貢献についての評価記録、インターンシップ後に学生が作成する報告書、ワークショップの評価による

【教材】

【備考】

インターン研修を履修する主要な設計事務所としてはエコロジカル環境デザインの実務に関する設計事務所、企業を予定している。受け入れ先により人数等の制限がされる場合がある。平成27年度以降入学生対象。1回生対象。

【開講年度・学期】2018年度・通年集中
【科目名】設計プロジェクトマネジメント特論
【英語表記】Advanced Theory and Practice of Design Projects Management
【科目ナンバリング】HEPLA6510
【担当教員】森 一彦・竹原 義二（非常勤講師）・衛藤 照夫（非常勤講師）
【授業形態】演習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】担当教員の了解を得ること

【科目の主題】

設計・工事監理実務経験（インターシップ）の事後・事前学習として、設計プロジェクトマネジメントに関する設計技術を習得する。集合住宅、病院、福祉施設等の設計の具体的な事例分析を通して、プロジェクトマネジメント、設計企画、LCC、施設コスト管理、社会性、道徳・倫理などの設計要件について習得する。

【授業の到達目標】

科目の主題に関するレポートの作成と発表・討議を通じた理解

【授業内容・授業計画】

- 1) ガイダンス
- 2) 居住環境・医療福祉環境に関わる設計プロジェクトマネジメントの枠組みと流れ
- 3) 設計プロジェクトの事例見学とヒアリング調査
- 4) 調査結果報告と討議
- 5) 企画設計の演習課題
- 6) 演習課題の発表と討議
- 7) LCC、施設コスト管理の枠組みと流れ
- 8) 施設コスト管理の演習課題
- 9) 演習課題の発表と討議
- 10) 設計における社会性、道徳倫理の枠組みと流れ
- 11) 社会性、道徳倫理に関わる事例見学とヒアリング調査
- 12) 調査結果報告と討議
- 13) 調査結果報告と討議
- 14) 社会性、道徳倫理に関わる演習課題
- 15) 総合討論

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

レポートおよび発表内容

【教材】

プリント配布

【受講生へのコメント】

インターンシップと連動させて、集合住宅、病院、福祉施設等の設計プロジェクトマネジメントを理解する。

【備考】

平成21年度以降入学生対象

(キーワード)

設計企画、社会性、経済性、施設コスト管理、道徳倫理

【開講年度・学期】2018年度・通年集中
【科目名】前期特別研究
【英語表記】Advanced Studies for Master's Course
【科目ナンバリング】HEASM8501
【担当教員】指導教員
【授業形態】通年
【単位数】10単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

修士論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、調査、実験などの研究方法や分析方法についての体系的な知識・技術の修得を目的とする。

1年次には、研究課題分野についての関連専門書や先行研究の講義を行い、既に究明されている部分を学習、把握する。また、調査・実験などの基礎的な方法を習得する。これらを通じ、多様な専門分野の知識と視点の重要性を学ぶ。2年次には、設定したテーマに基づく研究計画の立案を行い、研究遂行のための実験や調査などを実施する。さらに、得られたデータの解析手法や修士論文の構成方法などについて学習する。

【授業の到達目標】

修士論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、調査、実験などの研究方法や分析方法についての体系的な知識・技術を習得する。

【授業内容・授業計画】

1. 研究方法、関連する知識・技術の修得
2. 研究計画の立案
3. 実験・調査等の実施と解析
4. 修士論文の作成

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

日々の研究の進捗状況、修士論文の内容等を通して総合的に評価する。

【教材】

指導教員からの指示に従ってください。

【受講生へのコメント】

指導教員からの指示に従ってください。

総合福祉科学コース

【開講年度・学期】2018 年度・a（昼間クラス）後期 b（夜間クラス）後期
【科目名】 社会福祉学特論
【英語表記】 Advanced Seminar in Theories for Social Welfare
【科目ナンバリング】 HFSWG6502
【担当教員】 岡田 進一
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

社会福祉学における価値、理論、技法等を概観し、その歴史的背景や成り立ちについての講義を行う。また、社会福祉学で重視されているエコロジカル・パースペクティブ、社会福祉領域の分類論、社会福祉実践の方法論、ミクロ、メゾ、マクロから見た社会福祉実践の見方や考え方等の講義を行う。そして、論点整理を行い、現代社会福祉学における理論的理解を深める。

【授業の到達目標】

- ① 社会福祉学における理論及び理論的背景を説明することができる。
- ② 社会福祉学における方法論について説明することができる。
- ③ 社会福祉学におけるミクロ・メゾ・マクロについての考え方を説明ができる。
- ④ 社会福祉学における論点について説明ができる。

【授業内容・授業計画】

- 1：オリエンテーション
- 2：社会福祉学の視点
- 3：社会福祉の分類
- 4：社会福祉学における社会資源の構造
- 5：社会福祉学におけるニーズ論
- 6：社会福祉学における自己決定論
- 7：社会福祉学におけるプランニングとカンファレンス
- 8：社会福祉学におけるスーパービジョンのあり方
- 9：社会福祉学におけるチームのあり方
- 10：社会福祉学における地域分析
- 11：社会福祉学における政策分析
- 12：社会福祉学における論点整理
- 13：社会福祉学における理論的理解
- 14：社会福祉学における今後の展望と課題
- 15：社会福祉学特論のまとめ

【事前・事後学習の内容】

講義で説明をおこなう。

【評価方法】

レポート	2 回（各 40 点×2 回）	80 点
プレゼンテーション		20 点
合計		100 点

【教材】

適宜、プリントを配布する。

【受講生へのコメント】

社会福祉学における理論や方法論などに関するディスカッションを中心とするので、大学院生の主体性や自主性を重んじる。

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）後期
【科目名】 福祉科学研究特論
【英語表記】 Advanced Research and Statistical Methods in Social Welfare
【科目ナンバリング】 HFSWG6504
【担当教員】 岡田 進一
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

福祉科学研究論特論では、福祉分野でのエビデンス・ベースの研究を進めていくための基本的な情報提供を行う。具体的には、量的・質的研究の方法論、統計手法（t 検定、一元配置の分散分析、因子分析、重回帰分析など）、質問紙作成法などの情報提供を行う。また、実際のデータを用いたシミュレーション演習で S P S S のプログラムの活用方法の指導を行う。

【授業の到達目標】

1. 量的・質的研究の方法について説明することができる。
2. 統計学を用いた分析方法について説明することができる。
3. SPSS を用いてデータ分析を行うことができる。

【授業内容・授業計画】

- 1：オリエンテーション
- 2：調査研究法：調査の考え方 調査の倫理
- 3：調査研究法：研究のロジック 統計学：基礎統計量
- 4：調査研究法：調査設計 横断的調査
- 5：統計学：帰無仮説・正規分布・確率
- 6：調査研究法：調査設計 縦断的調査
- 7：統計学：t 検定
- 8：調査研究法：実験計画法 内的妥当性
- 9：調査研究法：シングルシステムデザイン 統計学：一元配置の分散分析
- 10：調査研究法：母集団と標本 サンプルング 外的妥当性と一般化
- 11：調査研究法：尺度開発 信頼性と妥当性 統計学：共分散分析
- 12：量的調査のまとめ・カイ 2 条検定
- 13：統計学：因子分析・主成分分析
- 14：調査研究法：質的研究 統計学：重回帰分析
- 15：福祉科学研究のまとめ 最終試験

【事前・事後学習の内容】

講義で説明を行う。

【評価方法】

試験 1 回 100 点

【教材】

適宜、プリントを配布する。

【受講生へのコメント】

社会福祉学分野の研究においては、研究手法の精緻さが重視されつつある。福祉領域の大学院が積極的に参加することを望む。

【開講年度・学期】 2018 年度 ・ a (昼間クラス) 前期 b (夜間クラス) 後期
【科目名】 福祉政策学特論
【英語表記】 Advanced Social Policy
【科目ナンバリング】 HFSWG6505
【担当教員】 所 道彦
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

本講義では、福祉国家の体系と社会的機能を整理するとともに、ソーシャルワークとソーシャルポリシーとの対比を通じて、日本における福祉政策学の位置と役割を議論する。また、日本の福祉政策の現状を分析する。人口動態、家族、世帯、雇用など社会経済状況の変化、市場、規制、成長と分配をめぐる政策動向を踏まえ、これからの生活保障のあり方をソーシャルポリシーの視点から議論する。

【授業の到達目標】

福祉政策の体系と機能について理解し、履修者の研究テーマと関連させて、その知識を活用できるレベルへの到達をめざす。

【授業内容・授業計画】

1	社会福祉と福祉政策
2	学説史の検討
3	福祉国家の構成要素：「家族」「市場」「国家」
4	福祉政策の構造：「家族政策」「雇用政策」「社会保障政策」
5	福祉国家の登場と展開
6	福祉国家の再編
7	福祉政策の形成プロセス
8	少子高齢化と福祉政策
9	家族の多様化と福祉政策
10	雇用の変化と福祉政策
11	所得保障政策の現状分析
12	地域包括ケアの現状分析
13	子どもの貧困対策の現状分析
14	社会保障・税一体改革の今後
15	総括

【事前・事後学習の内容】

事前学習として文献講読および授業での報告準備、事後学習として小レポート等の提出が求められる。

【評価方法】

レポート

【教材】

初回に文献リストを提示する。

【開講年度・学期】2018 年度・a（昼間クラス）後期 b（夜間クラス）後期
【科目名】 国際比較研究特論
【英語表記】 Advanced Comparative Study of Social Policy
【科目ナンバリング】 HFSWG6506
【担当教員】 所 道彦
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

日本の福祉政策の現状と課題を評価する方法の一つとして国際比較がある。1990年代以降、発展してきた福祉国家の類型化や動態把握をめぐる研究の現状とその問題点、アジア諸国も含めた新たな比較研究の課題を概観する。続いて、諸外国との比較を通じて、日本の社会福祉システムの残余的特徴と今後の課題について議論する。

【授業の到達目標】

各国の福祉制度・政策の特徴と課題について理解するとともに、比較を通じて日本の問題点を分析できるレベルへの到達を目指す。

【授業内容・授業計画】

1	福祉政策の相対化と国際比較
2	国際比較研究の展開①：学説史
3	国際比較研究の展開②：比較福祉国家論の展開
4	国際比較研究の手法
5	所得保障政策の国際比較：社会扶助
6	所得保障政策の国際比較：老後生活保障と年金
7	社会ケア政策の国際比較：高齢者ケア
8	社会ケア政策の国際比較：チャイルドケア
9	住宅政策の国際比較
10	保健医療政策の国際比較
11	雇用政策の国際比較
12	子どもの貧困対策の国際比較
13	日本型福祉システムの特徴と問題点
14	各国の福祉政策の動向と今後の課題
15	総括

【事前・事後学習の内容】

事前学習として英語文献の講読と報告の準備が必要となる。授業では、報告内容についての議論を行う。

【評価方法】

レポート

【教材】

基本的に外国文献（英語）を用いる。初回に文献リストを提示する。

【受講生へのコメント】

事前学習をベースにディスカッションを行います。日本語と同様に英語文献を用いることを前提とします。授業の準備が重要になります。

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）前期
【科 目 名】 社会開発学特論 I
【科目英文名】 Advanced Social Development I
【科目ナンバリング】 HFSWG6507
【担当教員】 堀口 正
【授業形態】 講義
【単 位 数】 2 単位
【当履修コース院生以外の受講】 可

【科目の主題】

社会開発学という学問を勉強したい学生のために、——たとえば国内外の過疎化問題、地域活性化、グローバルなビジネスや開発援助など——、その基本的な内容や理論を紹介するのが本講義の目的です。

【授業の到達目標】

当該科目の基礎的な内容の習得を目標とし、そのため外国語能力（英語・中国語など）、関連論文の読解能力、フィールド調査実施能力の向上をめざします。

【授業内容・授業計画】

第 1 回：ガイダンス	第 9 回：受講生の自主課題・修士論文計画の発表
第 2 回：関連する論文・書籍の紹介と分析	第 10 回：同上（研究概要の報告①）
第 3 回：開発社会学を輪読（進化・発展）	第 11 回：同上（研究概要の報告②）
第 4 回：同上（途上国の援助）	第 12 回：同上（研究概要の報告③）
第 5 回：同上（援助行為）	第 13 回：同上（研究内容の議論①）
第 6 回：同上（都市と農村の貧困）	第 14 回：同上（研究内容の議論②）
第 7 回：同上（差別と社会的排除）	第 15 回：まとめ
第 8 回：前半のまとめ	

【事前・事後学習の内容】

語学の勉強やテキストの予習復習だけでなく、関連の書籍文献を読む等の課題をだします。

【評価方法】

出席、報告・発表などを通じて評価します。

【教材】

佐藤寛ほか、開発社会学を学ぶための 60 冊（明石書店）など

【受講生へのコメント】

日本や諸外国（途上国も）の格差問題、地域問題に関心のある学生といっしょに書籍や文献を通じて、それら解決方法を学んでいけたらと考えています。

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）後期 b（夜間クラス）後期
【科目名】 社会開発学特論Ⅱ
【英語表記】 Advanced Social DevelopmentⅡ
【科目ナンバリング】 HFSWG6508
【担当教員】 堀口 正
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

社会開発学という学問を勉強したい学生のために、——たとえば国内外の過疎化問題、地域活性化、グローバルなビジネスや開発援助など——、その基本的な内容や理論を把握しているとの前提（同特論Ⅰ）にたち、実践的にその事項にアプローチする方法を学ぶことが本講義の目的です。

【授業の到達目標】

当該科目の具体的な内容の習得を目標とし、そのため外国語能力（英語・中国語など）、関連論文の読解能力、フィールド調査・統計分析などの実施能力の向上をめざします。

【授業内容・授業計画】

第 1 回：ガイダンス	第 9 回：受講生の実践事例紹介と検討、修士論文
第 2 回：関連する論文・書籍の紹介と分析	第 10 回：同上（研究事例の報告①）
第 3 回：開発援助の書籍を輪読①	第 11 回：同上（研究事例の報告②）
第 4 回：同上②	第 12 回：同上（研究事例の報告③）
第 5 回：人口問題の書籍を輪読①	第 13 回：同上（研究枠組みの議論①）
第 6 回：同上②	第 14 回：同上（研究枠組みの議論②）
第 7 回：その他関連分野の書籍を輪読	第 15 回：まとめ
第 8 回：前半のまとめ	

【事前・事後学習の内容】

現地調査の実施、修士論文の作成に向けて、その妥当性や問題点を検討するつもりです。

【評価方法】

出席・報告・発表などを通じて評価します。

【教材】

授業中に紹介します。

【受講生へのコメント】

これから、国際協力やまちづくりの現場で実践活動を行いたいと考えている方といっしょに勉強できればと考えています。

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）前期
【科目名】 福祉システム学特論
【英語表記】 Advanced Studies of Welfare System
【科目ナンバリング】 HFSWG6509
【担当教員】 大西 次郎
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

福祉システムは保健医療の制度と深く関わっており、雇用、労働、教育、住宅等へ広がる全体像を把握することは容易でない。その理由にはシステム自体の複雑さに加え、地域ごとに異なる実態や、繰り返される改正があげられよう。加えて専門職としての対人援助の観点からも、各実践領域に応じた被援助者像に特化した形で折々の制度へ相対する機会が多いため、ライフステージを通した福祉システムの姿を実感する機会が乏しいといえよう。

一方、私たちの臨床活動はシステムから影響を受け、時には制約すら覚えることもある。しかし、多くの福祉システムの存在には相応の背景がある。それらへの認識を介して、利用が中心の「制度」ととどまらず、社会問題を解明し未来を切り開く「政策」の視座が生まれよう。

本授業では、被援助者における生老病死のライフステージごとに、これまでの / これからの福祉システムを取り上げて、各々の意味を捉えつつ共生社会の実現に向けた方策を考える。

【授業の到達目標】

社会科学の研究には過去の蓄積を的確に振り返り、その現代的意義につき明らかにしていく側面と、従前の論考を超えた固有の主張を提起し、実態の把握や理論的な検討を加えていく側面とのバランスが求められる。福祉システム学特論においては前者への習熟を目標とし、社会的要請の高いテーマに対する、出自に拘泥しない多角的な見地を身に付ける。

【授業内容・授業計画】（全 15 回を以下の内容で進めていく：（※）は第※回目の授業を指す）

- I 予備討議（1）、中間討議（8）、総括討議（15）：受講生と教員による、本授業の方向性の確認
- II 死の福祉システム（例）：高齢者施設の看取り（2）、スピリチュアルケア（3）、Engaged Buddhism（4）
- III 病の福祉システム（例）：臓器移植コーディネーター（5）、ハンセン病（6）、スモン病（7）
- IV 老の福祉システム（例）：介護の社会化（9）、サービス付き高齢者住宅（10）、リビングウィル（11）
- V 生の福祉システム（例）：遺伝カウンセリング（12）、新生生前診断（13）、ベアシックインカム（14）

【事前・事後学習の内容】

学生の研究課題に沿ったテーマを設定し、幅広い立場からお互いの問題意識を検証していく。受講による教育成果を高めるため、教員ないし話題提供者が指示・作成した資料を事前に精査し、主体的な議論や新たな視点の提供ができるよう準備しておくことが望ましい。

講義内容に関し十分に理解できない事項があった場合は、次の授業までにそれらにつき質し、かつ調べることで既知の情報と未知の領域とを自らのなかではっきり区分しておく。

【評価方法】

レポート（1 回）と、授業への積極的参加度により評価する。

【教材】

受講生の関心を考慮のうえ、授業のなかで適宜指示ないし配布する。

【受講生へのコメント】

自らの問題意識を吟味のうえ、第 1 回目の授業に臨んでください。

【開講年度・学期】2018 年度 ・a（昼間クラス）後期 b（夜間クラス）前期
【科目名】 精神保健福祉学特論
【英語表記】 Advanced Studies of Mental Health and Social Welfare
【科目ナンバリング】 HFSWG6510
【担当教員】 大西 次郎
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

社会福祉学はソーシャルポリシーに対し、ソーシャルワークへ重点を置くことで内的な固有性を確立した。これに比し精神科ソーシャルワークは、経済学を基盤とした社会体制や、雇用・労働・貧困問題に着目したソーシャルポリシーというより、社会防衛のための精神科病院とそれを期待した地域社会の構造に規定され、医療との学際性に端を発する精神障害者のソーシャルポリシーへ対峙してきた史実があり、それらから距離を取ることができない特質を持つ。

従って、ソーシャルポリシーおよび学際性を主たる軸とした、社会福祉学とならぶ学術の体系（精神保健福祉学）が存立するという備えが認められ、しかもその体系は精神科ソーシャルワーク実践の理論化だけにとどまらない、大きな広がりを持つ可能性がある。

本授業では、いまだ草創期にあると思われる精神保健福祉学の理論的枠組みを、受講生とともに討議し構築していく。新たなディシプリンの誕生と形成の過程を目撃（参画）せよ！

【授業の到達目標】

社会科学の研究には過去の蓄積を的確に振り返り、その現代的意義につき明らかにしていく側面と、従前の論考を超えた固有の主張を提起し、実態の把握や理論的な検討を加えていく側面とのバランスが求められる。精神保健福祉学特論においては後者への習熟を目標とし、社会の動向を鋭敏に把握のうえ、斬新な発想でその核心を突く姿勢を身に付ける。

【授業内容・授業計画】（全 15 回を以下の内容で進めていく：（※）は第※回目の授業を指す）

I 予備討議（1）、中間討議（8）、総括討議（15）：受講生と教員による、本授業の方向性の確認

II 精神保健福祉を鍵概念とした研究の萌芽性：パラダイムとソーシャルポリシー（2, 3, 4）

介護福祉職と保健医療職（2）、当事者ならびに地域の位置づけ（3）、精神保健福祉を研究領域とせしめる理論的な根拠（4）

III 精神保健福祉以前 / 以降のソーシャルワーク実践：医療化と国家資格制度（5, 6, 7 / 9, 10, 11）

戦前～1960 年代まで（5）、1960 年～1980 年代（6）、医療ソーシャルワーク領域に波及する医療の動き（7）、社会福祉士資格成立前後（9）、精神保健福祉士資格成立前後（10）、現在まで（11）

IV 社会福祉学の現在と照応した精神保健福祉学：学際性における多職種・当事者協働（12, 13, 14）

ソーシャルワークと精神科ソーシャルワーク双方の共通性（12）、ソーシャルワークと精神科ソーシャルワーク各々の特異性（13）、社会福祉学の現在と精神保健福祉学の学際性（14）

【事前・事後学習の内容】

学生の研究課題を主に、教材を参考として、もっぱらソーシャルポリシーの視点から各々の問題意識を検証していく。受講による教育成果を高めるため、教員ないし話題提供者が指示・作成した資料を事前に精査し、主体的な議論ができるよう準備しておくことが望ましい。

講義内容に関し十分に理解できない事項があった場合は、次の授業までにそれらにつき質し、かつ調べることで既知の情報と未知の領域とを自らのなかではっきり区分しておく。

【評価方法】

レポート（1 回）と、授業への積極的参加度により評価する。

【教材】

大西次郎（2015）『精神保健福祉学の構築』中央法規（必ずしも購入の要はない）

【受講生へのコメント】

自らの問題意識に囚われず、第 1 回目の授業に臨んでください。

【開講年度・学期】2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）前期
【科目名】教育臨床学特論 I
【英語表記】Educational Clinic I
【科目ナンバリング】HFSWG6520
【担当教員】中井 孝章
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成 30 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

神経科学，進化心理学，進化生物学，進化医学などの複合的な観点から，心理学・精神医学・精神病理学・神経科学が研究対象とする心の問題全般（「心とは何か」）について最新の学説や知見を随時紹介しながら講義形式で授業を行う。

【授業の到達目標】

専門的な知識・技術は必ず，それが活用される真正の文脈を伴うので，真正の文脈と知識・技術との関係について習得し，それを受講者が自らの研究の中で活用できるようにする。

【授業内容・授業計画】

1. 心の開・閉モデル：心が生成してくる場面の解明 1
2. 前適応の進化生物学：前適応としての他者モニター能力の，投射先の転換 1
3. アドラー心理学：原因論／目的論とその問題点 1
4. 思考のフレームワークとしてのABC分析（応用行動分析学）とその活用 1
5. 当事者の心理療法1：情動（「悲しいから泣く」という因果律） 1
6. 当事者の心理療法2：当事者の置かれた非日常的状況 1
7. 当事者の心理療法3：不登校児・自殺念慮者の理由分析 1
8. 無意識1.0（精神分析）／無意識2.0（現象学）／無意識3.0（無意識的適応） 1
9. 神経科学1：高次脳／低次脳 1
10. 神経科学2：脳・心の二重過程理論 1
11. 神経科学3：道德脳の二重過程理論 1
12. 進化のトレードオフ1：精神病理学から見たうつ病の本質 1
13. 進化のトレードオフ2：進化心理学から見たうつ病の起源 1
14. 進化のトレードオフ3：うつ病治療・診断の最前線（DMS、光トポグラフィ等） 1
15. 心理臨床と福祉臨床（べてるの家）のフォーマットとしての認知行動療法 1

【事前・事後学習の内容】

講義では多くの，難解な専門用語が出てくるので事後学習を行い，次回の講義の直前に前回，学習した事柄について配布資料を復習するなど事前学習を行うことが必要である。

【評価方法】

知識や考えを問うタイプの定期試験（前期・後期）によって評価を行う。

【教材】

講義内容ごとに資料を配付し，文献を紹介する。研究内容を反映したDVD 観賞も。

【受講生へのコメント】

「教育臨床学特論Ⅰ」を受講した者に限り，「教育臨床学特論Ⅱ」の受講を認める。

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）後期 b（夜間クラス）後期
【科目名】 教育臨床学特論 II
【英語表記】 Educational Clinic II
【科目ナンバリング】 HFSWG6521
【担当教員】 中井 孝章
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可 （平成 30 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

教育臨床学特論 I に引き続き、神経科学、進化心理学、進化生物学、進化医学などの複合的な観点から、心理学・精神医学・精神病理学が研究対象とする心の問題全般（「心とは何か」）に加えてケア学についても最新の学説や知見を随時紹介しながら講義形式で授業を行う。

【授業の到達目標】

専門的な知識・技術は必ず、それが活用される真正の文脈を伴うので、真正の文脈と知識・技術との関係について習得し、それを受講者が自らの研究の中で活用できるようにする。

【授業内容・授業計画】

1. 進化のトレードオフ 1：記憶・知識形成の分子脳科学 1
2. 進化のトレードオフ 2：トラウマ記憶（ASD・PTSD）の分子脳科学 1
3. 進化のトレードオフ 3：トラウマの治療法（PE・GE） 1
4. 進化のトレードオフ 4：トラウマの治療法（EMDR） 1
5. 乳幼児の進化発達心理学 1：鏡像段階と想像界・象徴界 1
6. 乳幼児の進化発達心理学 2：愛着（アタッチメント）とその限界 1
7. 乳幼児の進化発達心理学 3：人見知りと鬼遊び 1
8. 乳幼児の進化発達心理学 4：乳児院乳児と家庭乳児の比較と乳幼児の発達過程 1
9. 乳幼児の進化発達心理学 5：解離とファンタズムの精神病理学（IF） 1
10. ケア学・基礎編 1：ケア・ケアリング・キュア 1
11. ケア学・基礎編 2：ケアの進化心理学 1
12. ケア学・基礎編 3：インタージェネレーションとは何か 1
13. ケア学・応用編 1：グランドマザリングとアロマザリング 1
14. ケア学・応用編 2：宅幼老所（三世代共生住宅）とインタージェネレーション 1
15. ケア学・応用編 3：小規模コミュニティの形成とインタージェネレーション 1

【事前・事後学習の内容】

講義では多くの、難解な専門用語が出てくるので事後学習を行い、次の講義の直前に前回、学習した事柄について配布資料を復習するなど事前学習を行うことが必要である。

【評価方法】

知識や考えを問うタイプの定期試験（前期・後期）によって評価を行う。

【教材】

講義内容毎に資料を配付し、文献を紹介する。研究内容に対応したDVDの観賞も。

【受講生へのコメント】

「教育臨床学特論 I」を受講した者に限り、「教育臨床学特論 II」の受講を認める。

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）前期
（隔年開講 2018 年度休講）

【科目名】 居住福祉学特論
【英語表記】 Advanced Housing for Life and Well-Being
【科目ナンバリング】 HFSWG6513
【担当教員】 野村 恭代
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

「住居は福祉の基盤である」という理念に基づき、「居住の権利」や「居住福祉」について検討する。また、社会におけるさまざまな居住をめぐる課題の実態について、人権、生活、福祉、健康、文化、社会環境等の視点から、居住福祉政策、まちづくりの実践等について考察を深める。

【授業の到達目標】

- ・「居住の権利」が意味するものについて、自身の考察に基づいて述べることができる。
- ・「住まい」を支援するとはどのようなことであるのかについて、多角的な視点から理解することができる。
- ・居住福祉政策やまちづくりについて、具体的に理解することができる。

【授業内容・授業計画】

1. 居住福祉の理念
2. 居住福祉の価値
3. 居住福祉の国際的動向
4. 居住福祉の国内の動向
5. 「住まい」とはなにか
6. 社会福祉における「住まい」
7. 居住をめぐる課題
8. 居住福祉をめぐる課題
9. 居住の貧困
10. 居住支援の実際
11. 居住支援の課題
12. 地域特性と住まい
13. 居住の権利
14. 居住福祉政策とまちづくり
15. 半期のまとめ

【事前・事後学習の内容】

各回、課題について指示し、提出した課題に基づき報告を行う。

【評価方法】

課題発表とレポート及び出席状況の総合評価

【教材】

早川和男著『居住福祉』岩波新書，1997

【受講生へのコメント】

ディスカッションへの積極的参加を期待します。

【科目名】 地域福祉学特論
 【英語表記】 Advanced Community Welfare
 【科目ナンバリング】 HFSWG6514
 【担当教員】 野村 恭代
 【授業形態】 講義
 【単位数】 2単位
 【当学科・コース学生以外の受講】 可

b (夜間クラス) 前期
(隔年開講 2018 年度開講)

社会構造の変化に伴い、地域社会における生活課題は多岐に渡り、そして複雑化している。人々が生活する「地域」を中心とした福祉課題について、それぞれの地域における社会文化の違いに着目し、住民の意識を形成する社会文化的要因が地域に与える影響について考察する。加えて、地域福祉の理論を構成する価値や実践を学ぶとともに、地域福祉理論への理解を深める。

- ・地域における福祉課題について、地域の文化等の背景に着目しながら考察することができる。
- ・地域ごとの社会文化的要因が地域の課題に与える影響について、考察することができる。
- ・地域福祉の理論を体系的に理解することができる。

1. 地域福祉の理念
2. 地域福祉の価値
3. 地域と福祉
4. 日本における「地域福祉研究」
5. 諸外国における「地域福祉研究」
6. 地域における福祉課題－住まいの課題－
7. 地域における福祉課題－就労の課題－
8. 地域における福祉課題－マイノリティ－
9. 地域におけるリスクと地域摩擦
10. 地域におけるリスクとコミュニケーション
11. 摩擦と合意形成
12. 地域拠点活動の展開
13. 地域拠点活動の課題
14. 地域福祉の追求と展望
15. 半期のまとめ

各回、課題について指示し、提出した課題に基づき報告を行う。

課題発表とレポート及び出席状況の総合評価

開講時に指示する。

ディスカッションへの積極的参加を期待します。

【当学科・コース学生以外の受講】 可

【当学科・コース学生以外の受講】 可

【当学科・コース学生以外の受講】 可

【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）後期 b（夜間クラス）後期
【科目名】 子ども家庭福祉特論
【英語表記】 Advanced Theory and Practice of Child and Family Services
【科目ナンバリング】 HFSWG6518
【担当教員】 中島 尚美
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

近年、子ども・家庭をとりまく福祉ニーズは多様化し、従来の社会的養護や保育、非行や障害等の保護的な制度政策の見直しが図られ、すべての子どものウェルビーイングを実現すべく、支援の強化や事業の拡充が行われている。本講義では、子ども家庭福祉の動向を踏まえて、支援体制としての法体系を理解したうえで、実践現場に求められている支援について事例を通して理解を深めていくことを目的とする。

【授業の到達目標】

子ども家庭福祉の理念を踏まえ、動向を掴みながら、実践現場にはどのような支援が求められているのかを考察する力を養うことを目標とする。

【授業内容・授業計画】

1. ガイダンス（授業オリエンテーション、評価、参考文献・資料等）
2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況
3. 児童福祉から子ども家庭福祉への歩み
4. 子ども家庭福祉の法体系
5. 子ども家庭福祉の支援体系と支援施策
6. 母子保健施策と今日的課題
7. 地域の子育て支援施策
8. 地域の子育て支援の実践
9. わが国の社会的養護体制
10. 社会的養護施策と課題
11. 社会的養育ビジョンと今後の課題
12. ひとり親家庭の課題
13. ひとり親家庭への支援の実践
14. 子ども家庭福祉における司法との接点
15. 振り返りとまとめ

【事前・事後学習の内容】

各授業内容に即応した事前学習内容のポイントを明らかにし、文献や資料についても伝える。

事後学習においては、授業の振り返りを中心として課題を提示する。

【評価方法】

レポート（50％）、課題発表内容（30％）、出席と参加態度（20％）

【教材】

参考文献の提示、及び資料を配布するほか、適宜指示する。

【受講生へのコメント】

講義とディスカッションを中心として展開します。後半は、事例を用いた検討を行います。自らの課題意識を明確にして臨んでいただくことを願います。

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）前期
【科目名】 権利擁護実践特論
【英語表記】 Advanced Theory and Practice of Social Work Advocacy
【科目ナンバリング】 HFSWG6517
【担当教員】 鵜浦 直子
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

社会福祉の制度・政策、実践の根底には「権利擁護」の視点がなくてはならない。近年の社会福祉をめぐる権利擁護の現状と課題を理解するとともに、社会福祉における権利擁護の概念についての理解を深める。そして、ソーシャルワークにおけるアドボカシー、判断能力が不十分な人への決定に関する支援など権利擁護のための実践方法や成年後見制度などの社会資源の活用のある方などを理解する。

【授業の到達目標】

近年の社会福祉の権利擁護をめぐる現状と課題の理解を踏まえ、受講生一人ひとりが社会福祉における権利擁護とは何かをつかむこと。また、それに基づく具体的な権利擁護のための実践方法や制度のある方を考えること。

【授業内容・授業計画】

- 第 1 講 社会福祉をめぐる権利擁護の現状と課題
- 第 2 講 社会福祉と基本的人権（岡村論文）
- 第 3 講 国際的視野から見た福祉と人権（冷水論文）
- 第 4 講 侵害原理、モラリズム、パターナリズムと自立（中村論文）
- 第 5 講 成年後見制度と自己決定（高村論文）
- 第 6 講 成年後見制度と意思決定支援
- 第 7 講 障害者権利条約と意思決定支援
- 第 8 講 意思決定支援に求められる考え方
- 第 9 講 意思決定支援の法制化を考える
- 第 10 講 ソーシャルワークにおけるアドボカシーの理論
- 第 11 講 ソーシャルワークにおけるアドボカシーの実践
- 第 13 講 権利擁護の新たな展開 - 法人後見 -
- 第 14 講 権利擁護の新たな展開 - 市民後見人 -
- 第 15 講 権利擁護のための実践とそれを支えるためのシステム

【事前・事後学習の内容】

文献等を用いてディスカッションによる講義となるため、指示する文献等を読みこんでくこと。文献等については、毎回の授業時に指示する。

【評価方法】

出席と参加態度、課題発表内容、レポートによる総合評価

【教材】

テキストおよび参考文献は、開講時に指示する。

【受講生へのコメント】

社会福祉に関する基本的な知識と積極的な参加を求めます。また、課題発表があるため、事前準備が必要です。

【開講年度・学期】2018 年度・前期集中
【科目名】リハビリテーション特論
【英語表記】Advanced Seminar on Rehabilitation
【科目ナンバリング】HFSWG6519
【担当教員】松本 一生（非常勤講師）
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

医学の観点から高齢者や障害者のリハビリテーションを論じ、地域リハビリテーション及び地域ケアの意義・現状を解説する。また、チームアプローチの意義や有用性を考え、そのあり方についてもディスカッションしていくこととする。

【授業の到達目標】

- ① リハビリテーションの概要を説明することができる。
- ② 地域リハビリテーションについて説明することができる。
- ③ チームアプローチについて説明することができる。
- ④ 認知症ケアについて説明することができる。

【授業内容・授業計画】

- 1：オリエンテーション（講義の目的と評価方法）
- 2：精神医学から見たリハビリテーション
- 3：リハビリテーションの全体像
- 4：リハビリテーションの意義
- 5：リハビリテーションの理論的背景
- 6：リハビリテーションと生活
- 7：地域リハビリテーションの概要
- 8：地域リハビリテーションの特色
- 9：医療連携とチームアプローチ
- 10：チームアプローチの特色
- 11：地域リハビリテーションとチームアプローチ
- 12：認知症の特色と治療方法
- 13：認知症ケアにおける留意点
- 14：認知症ケアとチームアプローチ
- 15：まとめ

【事前・事後学習の内容】

適宜、その内容を示す。

【教材】

適宜、プリントを配布する。

【評価方法】

次の配分で評価する。レポート（80%）②出席（20%）

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）前期
【科目名】 ソーシャルワーク特論
【英語表記】 Advanced Theory and Practice of Social Work
【科目ナンバリング】 HFSWG6501
【担当教員】 （休講）
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

ソーシャルワークの基本構造及びソーシャルワーク実践の根拠となる「価値」について明らかにするとともに近年のソーシャルワーク実践の顕著な動向である「地域を基盤としたソーシャルワーク」の背景及びその基本的性格について理解を深める。

前半は、ソーシャルワークの価値の構造と内容について明らかにする。「価値」とは「援助を方向づける理念・思想・哲学」のことであり、実践を支える根拠となるものである。後半は、地域を基盤としたソーシャルワークの理念、特質、機能について明らかにする。地域を基盤としたソーシャルワークは、本人を中心に据えた援助システムを構築すること、その援助システムに市民や地域住民が深く関与するという点に特質がある。個別支援と地域支援をつなぎ、地域福祉の推進に直結するものである。さらに、その基礎理論として位置づけられる「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」に関する文献をととして、現代ソーシャルワーク理論の特質を学ぶ。

【授業の到達目標】

- ① ソーシャルワークの基本構造及びソーシャルワーク実践の根拠となる「価値」について理解する。
- ② ソーシャルワーク実践の顕著な動向である「地域を基盤としたソーシャルワーク」の背景及び理念・特質・機能について理解する。

【授業内容・授業計画】

- 1：オリエンテーション（講義の目的と評価方法）
- 2：ソーシャルワークを取り巻く状況
- 3：ソーシャルワークの全体像
- 4：ソーシャルワークの価値の全体像と意義
- 5：中核的価値と根源的価値
- 6：派生的価値（1）
- 7：派生的価値（2）
- 8：地域を基盤としたソーシャルワークの背景
- 9：地域を基盤としたソーシャルワークの理念と特質
- 10：地域を基盤としたソーシャルワークの機能（1）
- 11：地域を基盤としたソーシャルワークの機能（2）
- 12：地域を基盤としたソーシャルワークと総合相談の展開
- 13：基礎理論としてのジェネラリスト・ソーシャルワーク（1）
- 14：基礎理論としてのジェネラリスト・ソーシャルワーク（2）
- 15：まとめ

【事前・事後学習の内容】

各講義の最後に各自が取り組むべき事後学習と事前学習の内容についてアナウンスする。

【評価方法】

次の配分で評価する。レポート（50%）②発表内容（20%、③参加態度（15%）④出席（15%）

【開講年度・学期】2018 年度・通年集中
【科目名】前期特別研究
【英語表記】Advanced Studies for Master's Course
【科目ナンバリング】HFASM8501
【担当教員】指導教員
【授業形態】通年
【単位数】10 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

修士論文の作成を指導する。1 年次は、修士論文の研究課題を遂行するために必要な基礎理論、調査などの研究方法および分析方法に関する基本的な知識と技術の習得につとめる。このため、個々の院生の研究課題に対応した研究分野の関連専門書や先行研究などの文献資料の収集や講読を通じて、すでに解明された部分と未解明の部分を把握でき、修士論文の研究課題をより明確することを目的とする。

2 年次は、修士論文の個別の研究課題に即し、内外の文献を渉猟するとともに、研究遂行のための調査研究を行う。これらの文献研究および調査の解析と考察、修士論文の構成と論述の方法に関して個々具体的に指導を行う。2 年次の前期に研究テーマの確定、また後期に中間発表を行い、修士論文の完成に向けて取り組む。

【授業の到達目標】

修士論文の作成に必要な知識と執筆能力を習得する。

【授業内容・授業計画】

1. 研究方法における基本的知識
2. 研究方法における文献資料の探索
3. 分析方法における基本的知識
4. 分析方法における文献資料の探索
5. 研究課題の明確化
6. 論文作成計画
7. 研究テーマの確定
8. 修士論文の構成に関する検討
9. 文献研究の解析
10. 文献研究の考察
11. 文献研究の執筆指導
12. 調査研究の解析
13. 調査研究の考察
14. 調査研究の執筆指導
15. 総括

【事前・事後学習の内容】

各講義の最後に各自が取り組むべき事後学習と事前学習の内容について指導する。

【評価方法】

主査および副査による修士論文の総合的評価

【受講生へのコメント】

研究課題の明確化に向けて、また研究課題の分野での学術レベルを知るべく、学生自ら積極的に内外の文献資料を探索することが必要である。

臨床心理学コース

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 発達障がい支援特論
【英語表記】 Advanced Studies of Support for Developmental disabilities
【科目ナンバリング】 HGCPL6501
【担当教員】 三船 直子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

発達障害のある児・者への臨床心理的支援について論じ、考察する。

発達障がい支援は障がいへの理解から支援、そして共生へと進展を遂げている。自閉症スペクトラム、AD/HD、LD について、その特性の理解、その支援のこころ構え、実際について知るとともに、共に生きるという観点について検討していきたい。

【授業の到達目標】

発達障がい(自閉症)の歴史的考察、ライフサイクルにおける発達障がい特性、発達障がいの理解、その困難と支援、共生についての基礎的な知識を身につける。

【授業内容・授業計画】

事例や症例の文献を用いながら障がいへの理解、心理臨床支援、共生について、事例を交えディスカッションを交え検討していく。また以下の講義予定は授業の進行により、変更することもある。

オリエンテーション	1
発達障がいの理解をめぐる歴史的変遷と支援の小史① イギリス・アメリカ	2
発達障がいの理解をめぐる概念の変遷と支援の小史② 日本	3
自閉性スペクトラムへの理解	4
乳幼児期・就園前の ASD (AD/HD, LD) の理解と支援 1	5
2	6
学童期初期の ASD (AD/HD, LD) の理解と支援 1	7
2	8
思春期の ASD (AD/HD, LD) の理解と支援 1	9
2	10
青年期の ASD (ASD AD/HD, LD) の理解と支援 1	11
2	12
第4の発達障がい、虐待への理解と支援	13
発達障害を有する精神疾患についての理解と支援まとめ	14
まとめ	15

【事前・事後学習の内容】

授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】

授業中に適宜レポートを課し、あわせて最終レポートにより評価する。

【教材】

テキスト 『自閉症スペクトラム』 ウタ フリス

参考書籍 『自閉症スペクトラム』 ローナ ウィング

『子どもの臨床アセスメント』 S. I. グリーンスパン, N. T. グリーンスパン

『「関係」からみる乳幼児期の自閉症スペクトラム』 小林隆児 他講義中に配布

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択E群科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】 人格心理学特論<心理アセスメントに関する理論と実践>
【英語表記】 Advanced Personality Psychology
【科目ナンバリング】 HGCPL6503
【担当教員】 後藤 佳代子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

人格の病理は、精神病、境界例、自己愛、心身症などの病理的諸症状としてあらわになってくる。本講義ではこれらの心理的諸問題の背景にある人格形成のメカニズムについて文献講読を行う。

【授業の到達目標】

特に精神分析的立場からの人格理論を習得する。あわせて、人格の発達の要因、人格の理解、人格の変容にかかわる心理臨床的技法について理解を深める。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 乳幼児期の発達（0～1歳）
3. 乳幼児期の発達（1～3歳）
4. 乳幼児期の人格の発達と精神分析理論
5. 人格の発達と精神分析理論（自我心理学派）
6. 人格発達のための技法（自我心理学派）
7. 人格の発達と精神分析理論（対象関係論学派）
8. 人格発達のための技法（対象関係論学派）
9. 人格の発達と精神分析理論（中間学派）
10. 人格発達のための技法（中間学派）
11. 人格の発達と精神分析理論（自己心理学派）
12. 人格発達のための技法（自己心理学派）
13. 人格の発達と精神分析理論（間主観性論学派）
14. 人格発達のための技法（間主観性論学派）
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

各回ごとに指定する。

【評価方法】

平常点：文献購読発表と出席点
レポート：講義を踏まえたテーマでのレポート提出

【教材】

関連資料は講義の際に適宜配布
文献は講義の際に指定

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理的アセスメントに関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択B群科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】臨床心理学特論Ⅰ
【英語表記】Advanced Clinical PsychologyⅠ
【科目ナンバリング】HGCP6504
【担当教員】三船 直子
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

臨床実践に寄与する臨床心理学の基礎理論の深化を目的とし、ケースフォーミュレーション、パーソナリティ診断と支援について学び、多面的なクライアント理解と合わせてカウンセラーをめざす者自身についての理解を深めること目的とする。

【授業の到達目標】

心理臨床における多面的なケースフォーミュレーションの基本理念の習得と心理支援を求める人への理解、支援の方法への基礎理論を習得する

【授業内容・授業計画】

学生は課された課題についてレジュメを作成し、発表、講義、ディスカッションを行う。
以下の講義予定は授業の進展により、変更することもある。

オリエンテーション	1
臨床心理学における見立てとは	2
ケースフォーミュレーションの意義と臨床心理支援 ①	3
②	4
ケースフォーミュレーションの実際 ① 変えられないものの理解・発達の理解	5
② 関係性・感情の理解	6
③ 同一化の理解	7
④ 防衛・転移・逆転移の理解	8
カウンセリングへの導入	9
ケースフォーミュレーション各論と各々の事例検討	10
パーソナリティの理解と心理臨床支援	11
パーソナリティ各論	12
病態水準とパーソナリティ障害	13
パーソナリティをめぐる事例検討 ①	14
② まとめ	15

【事前・事後学習の内容】

授業の中で指示する。

【評価方法】

出席と発表およびレポートによる評価

【教材】

『ケースの見方・考え方』ナンシー マックウィリアムズ 創元社
『パーソナリティの診断と治療』ナンシー マックウィリアムズ 創元社
なお、参考資料など、適宜配布

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。
・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】臨床心理学特論Ⅱ
【英語表記】Advanced Clinical psychology Ⅱ
【科目ナンバリング】HGCPL6505
【担当教員】篠田 美紀
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

臨床心理学的心理援助に必要な基礎理論や各種心理療法の具体的な技法、臨床心理アセスメントの実際、医療・教育をはじめとする心理臨床の各領域での実践など、心理臨床についての基礎的な包括的知識と各心理臨床領域における実践の実際について学ぶ。

【授業の到達目標】

臨床心理学的心理援助に関する基礎的、包括的知識を取得し、医療・教育をはじめとする各心理臨床領域における臨床実践に対応することができる基礎力を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. 心理臨床の対象とアプローチ 臨床心理学とは何か？
 2. 心理臨床の領域
 3. 心理アセスメント とは何か？
 4. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(1) 心理療法・カウンセリング
 5. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(2) 認知療法・認知行動療法
 6. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(3) 臨床動作法
 7. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(4) 表現療法
 8. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(5) 風景構成法
 9. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(6) 箱庭療法
 10. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(7) 遊戯療法
 11. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(8) 家族療法
 12. 心理臨床の現場ー(1) 病院臨床
 13. 心理臨床の現場ー(2) 教育臨床
 14. 心理臨床の現場ー(3) 保育臨床
 15. 心理臨床の倫理
- 講義前半はビジュアル教材による。講義後半はディスカッションおよび事例検討を行う。

【事前・事後学習の内容】 各講義内で通知する。

【評価方法】平常点：出席点（50%）
レポート：講義を踏まえたテーマでの最終レポート提出（50%）

【教材】ビジュアル教材 《心理臨床を学ぶ》 医学映像教育センター
補助教材は各回ごとに配布する。

【受講生へのコメント】

本講義は心理臨床の基礎力を取得することを目標としています。各講義において、学習した内容をより深めるための書籍等 提示しますので、積極的に学習を深め、展開する姿勢で臨んでください。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。
・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】臨床心理学事例研究法<心理支援に関する理論と実践>
【英語表記】Case Studies in Clinical Psychology
【科目ナンバリング】HGCP57501
【担当教員】館 直彦
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

臨床心理学は常に事例（case）を中心に展開してきた。この講義ではフロイトなどの先達の事例読み直すことを通して、事例をどのように理解し、どのように理論へ結びついていくかを検討することで、事例研究の方法を学びたい。

【授業の到達目標】

精神分析の代表的な事例について学び、事例研究の方法の基礎を習得すること

【授業内容・授業計画】

オリエンテーション	1
精神分析全体のアウトライン①	2
精神分析全体のアウトライン②	3
『ヒステリー研究』の症例 ①	4
	② 5
	③ 6
	④ 7
	⑤ 8
フロイトの精神分析理論	9
症例『ハンス』	10
症例『鼠男』	11
症例『シュレーバー』	12
症例『狼男』	13
まとめ ①	14
まとめ ②	15

【事前・事後学習の内容】

授業の中で指示する。

【評価方法】

出席とレポートによる評価

【教材】

『フロイト全集』岩波書店、『精神分析事典』岩波学術出版社、『フロイト著作集』人文書院
フロイト理解のためにフロイトの伝記等々その他

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理支援に関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択A群科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】臨床心理実習Ⅰ<心理実践実習>
【英語表記】Practice of Clinical PsychologyⅠ
【科目ナンバリング】HGCP57502
【担当教員】三船 直子・後藤 佳代子
【授業形態】実習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

心理臨床実践の基礎的理論と技法を学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

臨床実践の基礎を習得し、心理療法の中で展開する治療関係について理解する。

【授業内容・授業計画】

1. 学内において相談業務に従事する
2. 「ケースカンファレンス」「個人スーパーヴィジョン」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈を行い、クライアントの心理的理解を深める
3. 心理療法の理論的、実践的理解を目指す
4. 心理・教育相談室における相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、カンファレンス、報告書作成など）の実践を通して心理業務の実際を学ぶ

【事前・事後学習の内容】

授業・実習の中で指示する。

【評価方法】

レポートならびに出席点

【教材】

【受講生へのコメント】

心理臨床実践を行うということは訓練であると同時に、担当するケースに対する責任を担うことでもあります。指導教員との緊密な連携のもと心理臨床業務に従事していきます。詳細な内容、計画、基準については、1回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理実践実習」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】臨床心理実習Ⅱ
【英語表記】Practice of Clinical Psychology Ⅱ
【科目ナンバリング】HGCP57503
【担当教員】三船 直子・後藤 佳代子
【授業形態】実習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

心理臨床実践の基礎的理論と技法を学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

臨床実践の基礎を習得し、心理療法の中で展開する治療関係について理解する。

【授業内容・授業計画】

1. 学内において相談業務に従事する
2. 「ケースカンファレンス」「個人スーパーヴィジョン」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈を行い、クライアントの心理的理解を深める
3. 心理療法の理論的、実践的理解を目指す
4. 心理・教育相談室における相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、カンファレンス、報告書作成など）の実践を通して心理業務の実際を学ぶ

【事前・事後学習の内容】

授業・実習の中で指示する。

【評価方法】

レポートならびに出席点

【教材】

【受講生へのコメント】

心理臨床実践を行うということは訓練であると同時に、担当するケースに対する責任を担うことでもあります。指導教員との緊密な連携のもと心理臨床業務に従事していきます。詳細な内容、計画、基準については、1回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】臨床心理面接特論Ⅰ〈心理支援に関する理論と実践〉
【英語表記】Advanced Method of PsychotherapyⅠ
【科目ナンバリング】HGCPL6506
【担当教員】長濱 輝代
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

臨床心理学的援助をおこなう際の基礎としての技術を習得することを目的とする。臨床心理面接場面で必要とされる実践的、具体的な内容について、その基盤となる姿勢や態度を含む諸技法を学ぶ。文献を通じて基礎理論の理解を深め、ビデオカメラ等の機材を利用した客観的視点の獲得を目的とする。

【授業の到達目標】

態度、話し方、姿勢、くせなど、自分自身が他者に発しているメッセージについて理解する。記録方法、内容分析を通じて、客観的・主観的な記録の区別、適切な表現方法を獲得する。ロールプレイやディスカッションから面接場面における自身の課題を想定できるようになる。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション（1回）
2. ビデオ記録－ディスカッション（7回）
 - ①発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：発信しているものへの着目
 - ②発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：発信しているものの分析
 - ③発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：抽出された課題への対応
 - ④発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：受信したものへの着目
 - ⑤発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：受信したものの分析
 - ⑥発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：抽出された課題への対応
 - ⑦発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：心理臨床実践における課題
3. ロールプレイ－ディスカッション（4回）
 - ①発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：記録方法
 - ②発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：記録内容
 - ③発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：課題への対応
 - ④発表－ビデオ撮影－ディスカッション－課題抽出：まとめ
4. 文献購読
 - ①文献購読：ロールプレイを通じて得られた課題に関する考察：文献理解
 - ②文献購読：ロールプレイを通じて得られた課題に関する考察：自身の課題
 - ③文献購読：ロールプレイを通じて得られた課題に関する考察：総合考察

【事前・事後学習の内容】

各講義内にて通知する。

【評価方法】

平常点（出欠、受講態度、講義ごとに設定された課題のプレゼンテーション）と各回提出のレポート（講義・実習を踏まえたうえで設定されたテーマ）により評価を行う。

【教材】

参考書籍 『新訂増補 精神療法の第一歩』成田義弘、金剛出版（2007）
『面接法』熊倉伸宏、新興医学出版社（2002）
その他、講義中に紹介する。適宜資料を配布する。

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については1回目のオリエンテーションにて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理支援に関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】臨床心理面接特論Ⅱ
【英語表記】Advanced Method of Psychotherapy Ⅱ
【科目ナンバリング】HGCPL6507
【担当教員】三船 直子
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

心理臨床学的支援における面接技法の習得とその基本姿勢、実践技法と実践のための理論の習得を目的とする。

【授業の到達目標】

面接理論の習得と事例をもちいた実践的で柔軟な発想の涵養。面接の基本姿勢についての実践的理論について学生は課された課題のレジюмеを作成、発表し、テーマの拡充のためのディスカッションを行う。以下の講義予定は授業の進行により、変更されることがある。

【授業内容・授業計画】

心理臨床場面におけるノンバーバルな交流の実際とその臨床的な意義について、心理臨床支援におけるイメージの重要性とその働き、イメージ体験と事例などをまじえて考察していく。

オリエンテーション	1
心理療法の基礎 ① 相談者の姿勢	2
② 来談者への理解 自分をとおして知っていく	3
③ 来談者の孤独 / 面接者の孤独	4
④ 来談者のニーズ、希望、変化と不変	5
⑤ 関係形成のプロセス	6
⑥ 事例検討	
イメージについての理解 一言葉に出来ないことーを感じてみる	7
心理療法のなかのイメージ ① イメージの働きとその技法	8
② 夢	9
③ 描画	10
④ アクティブイマジネーション	11
⑤ イメージの身体	12
⑦ イメージを用いた事例	13
⑧ 事例検討	14
まとめ	15

【評価方法】

出席と課題およびレポートによる評価

【教材】

『イメージの心理学』河合隼雄、青土社、『無意識との対話』老松克博、参考資料など配布

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。
・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】臨床心理基礎実習Ⅰ
【英語表記】Basic Practice of Clinical PsychologyⅠ
【科目ナンバリング】HGCP57504
【担当教員】篠田 美紀・長濱 輝代
【授業形態】実習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

心理臨床実践による「ケースカンファレンス」を通して、講義で取得した臨床心理学的心理援助の知識を、実際の心理臨床実践に応用する実践力を養成する。

【授業の到達目標】

心理面接やプレイセラピーの実際から、事例の理解と見立て、心理相談のプロセスについての臨床心理学的視点を取得し、心理援助に関する実践力を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 心理臨床実践を学ぶ。
2. 「ケースカンファレンス」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈、クライアントの心理的理解を深める。
3. 心理療法の理論的、実際的理解を目指す。
4. 心理相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、心理アセスメント、カンファレンス、報告書作成など）の実際について学ぶ。

【事前・事後学習の内容】

毎回の 実習のなかで通知する。

【評価方法】

実習出欠と実習態度に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については、1 回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】臨床心理基礎実習Ⅱ
【英語表記】Basic Practice of Clinical PsychologyⅡ
【科目ナンバリング】HGCP57505
【担当教員】篠田 美紀・長濱 輝代
【授業形態】実習
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

心理臨床実践による「ケースカンファレンス」を通して、講義で取得した臨床心理学的心理援助の知識を、実際の心理臨床実践に応用する実践力を養成する。

【授業の到達目標】

心理面接やプレイセラピーの実際から、事例の理解と見立て、心理相談のプロセスについての臨床心理学的視点を取得し、心理援助に関する実践力を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 心理臨床実践を学ぶ。
2. 「ケースカンファレンス」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈、クライアントの心理的理解を深める。
3. 心理療法の理論的、実際的理解を目指す。
4. 心理相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、心理アセスメント、カンファレンス、報告書作成など）の実際について学ぶ。

【事前・事後学習の内容】

毎回の 実習のなかで通知する。

【評価方法】

実習出欠と実習態度に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については、1 回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】 力動的 psychotherapy 特論<保健医療分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】 Advanced Studies of Dynamic Psychotherapy
【科目ナンバリング】 HGCPL6508
【担当教員】 館 直彦
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可 (平成28年度以降入学生対象)

【科目の主題】

精神療法について、人間を全体として理解しようとする力動精神医学に基づき、精神療法の基本概念について事例を挙げつつ、論じる。

【授業の到達目標】

精神療法の基礎的な知識の獲得と力動的 psychotherapy についての考え方を身につけること

【授業内容・授業計画】

講義と演習を交えて講義を行っていく。学生は課された課題についてレジュメを作成し、発表することを求められる。以下の講義予定は授業の進展により、変更することもある。

オリエンテーション	1
力動精神医学とは ①	2
②	3
無意識の発見 ①	4
②	5
症状・夢・失錯行為の意味	9
精神分析の確立 前期	10
中期	11
後期	12
転移の心理学	13
自我心理学と対象関係論	14
まとめ	15

【事前・事後学習の内容】

講義の中で指示する。

【評価方法】

出席とレポートによる評価

【教材】

館直彦、『ウィニコットを学ぶ 対話することと創造すること』, 岩崎学術出版社, 2013

館直彦、『現代対象関係論の展開 ウィニコットからボラスへ』, 岩崎学術出版社, 2012

館直彦訳、『終わりのない質問』, 誠信書房, 2011, 館直彦監訳, 増尾徳行訳, 『臨床家のための精神分析入門 今日の理論と実践』, 岩崎学術出版社, 2010

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「保健医療分野に関する理論と支援の展開」

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】 周産期家族臨床学特論<家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践>
【英語表記】 Advanced Perinatal Clinical Psychology
【科目ナンバリング】 HGCPL6509
【担当教員】 長濱 輝代
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可 (平成28年度以降入学生対象)

【科目の主題】

本講義では、周産期のメンタルヘルスの心理的課題についてテキストを用いて講義・ディスカッションを行う。また、周産期医療現場における心理学的課題や倫理的問題について研究報告や文献を通じて学ぶ。

【授業の到達目標】

周産期の親子や家族の心理学的理解や心理学的援助について理解を深め、周産期における心理士の役割や臨床現場での事例に応じた支援方法を考えることができる。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 周産期における妊産婦と家族の心理とその課題
 - (1) 妊娠・出産・新生児の能力とそれに伴う心理的課題
 - (2) 家族の成立とそれに伴う心理的課題
 - (3) 絆の形成とそれに伴う心理的課題
 - (4) 早産児と家族の心理的課題
 - (5) 先天異常をもつ子どもと家族の心理的課題
3. 現代の周産期における臨床心理学的課題
 - (1) 出生前診断と臨床心理学的課題
 - (2) 生殖補助医療と臨床心理学的課題
 - (3) 生命倫理と臨床心理学的課題
4. 周産期医療における臨床心理学的課題と倫理的課題
 - (1) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際①母親の心理
 - (2) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際②家族の心理
 - (3) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際③心理士の役割
 - (4) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際④事例検討
 - (5) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際⑤事例検討
5. 周産期医療における心理臨床の実際

【事前・事後学習の内容】

各講義内にて通知する。

【評価方法】

平常点と期末レポートにより評価を行う。

平常点は出欠、受講態度、講義ごとに設定された課題のプレゼンテーションから評価を行う。期末レポートは講義を踏まえたうえでテーマを設定したものを提出とする。

【教材】

教科書：『親と子のきずなはどうつくられるか』M.H.クラウス、J.H.ケネル、P.H.クラウス著/竹内徹訳、医学書院（2001）
その他、講義中に紹介する。適宜資料を配布する。

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については1回目のオリエンテーションにて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」

【開講年度・学期】2018年度・後期
【科目名】 高齢者心理学特論<福祉分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】 Advanced Studies on Geropsychology
【科目ナンバリング】 HGCPL6512
【担当教員】 篠田 美紀
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

本講義では、高齢期を心理的な生涯発達の最終段階と位置づけ、その重要性和意義について理解を深めるとともに、各種アセスメント技法による高齢期の心理学的理解と回想法を中心とする臨床心理学的援助技術の実践に習熟することを目的とする。

【授業の到達目標】

高齢期に関する臨床心理学的理論を取得し、高齢者を対象とした臨床心理学的心理アセスメント、ならびに、心理臨床実践に対応できる力を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 高齢者心理学の歴史
2. 生涯発達理論における高齢者の位置づけと課題 (1) 精神分析的理論における高齢期
3. 生涯発達理論における高齢者の位置づけと課題 (2) 生涯発達理論における高齢期
4. 記憶機能と加齢
5. 高齢期の知能研究
6. 高齢期の人格研究
7. 高齢期の心理的問題
8. 高齢期の臨床心理学的アセスメント法—認知機能のアセスメント—
9. 高齢期の臨床心理学的アセスメント法—人格のアセスメント—
10. 高齢期の臨床心理学的アセスメント法—精神症状のアセスメント—
11. 高齢期の心理的援助 1 —高齢者の心理療法—
12. 高齢期の心理的援助 2 —回想法—
13. 高齢期の心理的援助 3 —事例検討 1—
14. 高齢期の心理的援助 4 —事例検討 2—
15. 高齢期の心理援助—総括—

【事前・事後学習の内容】

各講義内で通知する。

【評価方法】

文献講読発表とレポート提出。数回の実習参加

【教材】

下仲順子『高齢期の心理と臨床心理学』培風館
野村豊子『回想法とライフレビュー』中央法規出版

【受講生へのコメント】

講義とともに数回の見学・実習を予定しています。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「福祉分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期
【科目名】臨床心理査定演習Ⅰ〈心理的アセスメントに関する理論と実践〉
【英語表記】Seminar on Psychological Assessment of Clinical Psychology
【科目ナンバリング】HGCP57506
【担当教員】篠田 美紀
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

本演習では、臨床心理査定技法のうち、心理臨床の実際で重要な位置を占める心理査定技法とその臨床実践について習熟する。

【授業の到達目標】

各種心理差の技法に習熟し、臨床心理学的援助法の基本的な姿勢を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 臨床心理査定技法 1—心理面接による心理査定—
2. 臨床心理査定技法 2—心理テストによる心理査定—
3. 知能の査定 1
4. 知能の査定 2
5. 性格の査定 1
6. 性格の査定 2
7. 認知の査定 1
8. 認知の査定 2
9. 神経心理学的査定 1
10. 神経心理学的査定 2
11. 投映法による査定 1
12. 投映法による査定 2
13. 総括 1：臨床心理査定の実例—事例研究 1—
14. 総括 2：臨床心理査定の実例—事例研究 2—
15. 総括 3：臨床心理査定の実例—事例研究 3—

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する

【評価方法】

演習レポート

【教材】

テキスト：臨床心理学全集 第2巻 臨床心理査定学・第6巻 臨床心理査定技法1・第7巻 臨床心理査定技法2 誠信書房

【受講生へのコメント】

時間的な制限がありますので、教材による自学・自習を確実に進めてください。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理的アセスメントに関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018 年度・後期
【科目名】臨床心理査定演習Ⅱ
【英語表記】Seminar on Psychological Assessment of Clinical Psychology
【科目ナンバリング】
【担当教員】弘田 洋二
【授業形態】講義
【単位数】2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

ロールシャッハ・テストの実施法、集計法、解釈法と所見作成に必要な反応理解

【授業の到達目標】

ロールシャッハ・テスト反応のスコアリングと数量的解析、系列構造分析によるアプローチの実際について知り、臨床所見の書き方についてその基礎を身につける。

【授業内容・授業計画】

前半で、一事例のスコアリング自習をしながら、各スコアのもつ意味を伝える。数量的な分析とその解釈仮説について学び、人格特徴の把握を試みる。後半では、人格の水準評価のうえで注目される理論について学ぶ。

- # 1 オリエンテーション：ロールシャッハ・テスト研究の歴史
- # 2 ロールシャッハ・テストの実施法と投影法のなかでの位置づけ
- # 3 スコアリング実習①（Ⅰ－Ⅱカード）
- # 4 スコアリング実習②（Ⅲ－Ⅳカード）
- # 5 スコアリング実習③（Ⅴ－Ⅶカード）
- # 6 スコアリング実習④（Ⅷ－Ⅹカード）
- # 7 スコアと解釈仮説：Rorschach, H. の知見
- # 8 Klopfer 法と解釈仮説
- # 9 解釈仮説への重要な疑問
- # 10 人格特徴と病態水準：類型論と水準理解
- # 11 病理的反応の構造①
- # 12 病理的反応の構造②
- # 13 病理的反応に関する指標
- # 14 人格障害と発達障害
- # 15 まとめとふりかえり

【事前・事後学習の内容】授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】平常点と期末レポートを総合して評価。

【教材】辻悟『ロールシャッハ検査法－形式・構造解釈に基づく解釈の理論と実際』金子書房

【受講生へのコメント】実習（#3－#6）において予習としてのレポート作成が不可欠である。

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期集中
【科目名】 障がい者（児）心理学特論〈福祉分野に関する理論と支援の展開〉
【英語表記】 Psychology of Disability
【科目ナンバリング】 HGCPL6513
【担当教員】 篠田 美紀・鈴木 千枝子（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

本特論では精神障がい者の心理的問題と心理的援助に焦点を絞り、講義する。特に、精神科病院における臨床事例にふれながら、クライアントの呈する病理とその心理的理解、心理療法による心理的援助について、理論的・実践的な知識を習得する。

【授業の到達目標】

精神障がい者の心理的援助に関する理論的・実践的な基礎知識を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. 精神障がい者について (1)
2. 精神障がい者について (2)
3. 精神障がい者について (3)
4. 精神病理と心理的理解 (1)
5. 精神病理と心理的理解 (2)
6. 精神病理と心理的理解 (3)
7. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (1)
8. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (2)
9. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (3)
10. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (4)
11. 事例研究 (1)
12. 事例研究 (2)
13. 事例研究 (3)
14. 事例研究 (4)
15. 事例研究 (5)

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点

レポート：講義を踏まえたテーマでのレポート提出

【教材】

関連資料は講義の際に配布

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「福祉分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期集中
【科目名】 スクールカウンセリング特論<教育分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】 School Counseling
【科目ナンバリング】 HGCPL6516
【担当教員】 篠田 美紀・金岡 洋子（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

スクールカウンセリングの心理臨床実践をめぐって、心理臨床の構造と設定に関するコンサルティングをはじめとして、教師、保護者、児童・生徒とのカウンセリング実践およびフォローアップに至るまでの全過程に関する理論と技法の習熟を目的として講義を行う。具体的な事例を提示しつつ、臨床現場における心理療法家の基本的態度と基礎知識の理解を深める。

【授業の到達目標】

スクールカウンセリングに関する基礎的知識を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 学校現場における心理臨床実践の構造と設定 1
3. 学校現場における心理臨床実践の構造と設定 2
4. 学校現場における心理臨床実践の構造と設定 3
5. 児童・生徒へのカウンセリング実践 1
6. 児童・生徒へのカウンセリング実践 2
7. 児童・生徒へのカウンセリング実践 3
8. 児童・生徒へのカウンセリング実践 4
9. 保護者へのカウンセリング実践 1
10. 保護者へのカウンセリング実践 2
11. 保護者へのカウンセリング実践 3
12. 保護者へのカウンセリング実践 4
13. 教師へのコンサルテーション 1
14. 教師へのコンサルテーション 2
15. 討論とまとめ

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する

【評価方法】

平常点：出席点

レポート：講義を踏まえたうえでのレポート提出

【教材】

資料は授業で配布する

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「教育分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択E群科目」

【開講年度・学期】2018 年度・前期
【科目名】 心理療法学特論
【英語表記】 Advanced Studies on Psychotherapy
【科目ナンバリング】
【担当教員】 弘田 洋二
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

心理療法のさまざまな技法には、それぞれ固有のこころの成り立ちとはたらきについての理論が内在している。技法、治療者－患者関係、心理診断に関して提唱された重要な概念および言葉をめぐってあった議論を参照して「こころのスーパービジョン」に役立てる。

【授業の到達目標】

臨床実践上重要な概念、言葉についての認識を深めることによって、自らの臨床実践を省みる観点をもつこと。

【授業内容・授業計画】

心理療法の歴史の中で重要な位置づけをもつ概念について取り上げながら、講読や解説を経て討論する。

- # 1 オリエンテーション：出会いと関係の構造化
- # 2 アセスメント、診断（予備）面接
- # 3 治療契約、治療同盟：出会いの中での作業
- # 4 自由連想：話すこと、遊ぶこと
- # 5 禁欲規則、アクティングアウト
- # 6 受け身性・中立性
- # 7 共感、共感的態度
- # 8 明確化、同意的確認、直面化
- # 9 防衛解釈、転移解釈、抵抗解釈
- # 10 エンナクトメント、自己開示
- # 11 欲動、対象、欲望
- # 12 自己愛の発達と病理
- # 13 破壊性と倒錯
- # 14 アイデンティティ
- # 15 まとめとふりかえり

【事前・事後学習の内容】授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】平常点（学習貢献）と随時求めるレポート提出による

【教材】各授業回において提示する

【受講生へのコメント】質問と討論参加による学習の深化への貢献を求める

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択E群科目」

【開講年度・学期】2019年度・前期集中（隔年開講 2018年度休講）
【科目名】 精神医学特論<保険医療分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】 Psychiatric Psychotherapy
【科目ナンバリング】 HGCPL6518
【担当教員】 三船 直子・平井 孝男（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

本講義では、精神医学における基礎知識の修得と治療の実際の理解をはかる。また治療における治療者・患者関係に頻発する転移・逆転移などの現象を取り上げ、心理療法事例の分析を通して、治療経過における二者関係の重要性について十分な理解を得られるような講義を行う。あわせて関連文献の購読を行い、理解を深めていく。

【授業の到達目標】

精神分析学の理論と技法について基礎的知識を習得する

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 精神現象をどう理解するか
3. 精神医学の基礎①②
4. 転移と逆転移
5. 夢分析・・・事例研究①
6. 事例研究②③④⑤⑥⑦
7. 精神分析と文化（文学など）
8. まとめ

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点

レポート：講義を踏まえたテーマによるレポート提出

【教材】

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「保険医療分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期or後期 集中
【科目名】 犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
【英語表記】 Advanced Forensic Psychology
【科目ナンバリング】
【担当教員】 篠田美紀・緒方康介（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

司法・犯罪分野における専門実務の基礎知識を修得するために、①家庭裁判所、少年鑑別所、警察、児童相談所など、心理専門職が犯罪心理学に関連するどのような実務に従事しているのかを概観し、②犯罪原因論、犯罪類型、資質鑑別や心理診断（心理査定）、犯罪被害とPTSDなど、犯罪心理学の学術理論や応用知見を理解し、③少年非行、児童虐待、犯罪被害など、犯罪心理学関連分野での臨床実践の実際を知る。

【授業の到達目標】

司法・犯罪分野における心理専門職の実務について概略を説明できるようになり、将来の職業選択に関係付けて考えられるようになる。犯罪心理学の各種理論や知見について概説できるようになり、臨床実践への応用可能性などを批判的に考察できるようになる。犯罪心理学に関連する専門実務を知り、司法・犯罪臨床の限界と課題を指摘できるようになる。

【授業内容・授業計画】

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 犯罪心理学の背景と位置付け | : 犯罪学，法科学，精神医学 |
| 2. 犯罪現象の基礎知識 | : 定義，構成要件，犯罪統計，法的根拠 |
| 3. 司法・犯罪分野の心理専門職 | : 公的機関，少数精鋭，資格要件 |
| 4. 裁判所と警察庁の心理実践 | : 家庭裁判所調査官，少年補導職員，犯罪鑑識官 |
| 5. 法務省と厚生労働省の心理実践 | : 少年鑑別所技官，保護観察官，児童心理司 |
| 6. 犯罪原因論 | : 犯罪生物学，犯罪社会学，犯罪精神医学 |
| 7. 犯罪類型論 | : 殺人，放火，窃盗，性犯罪 |
| 8. 非行少年の心理特性 | : 知能，パーソナリティ，攻撃性，発達障害 |
| 9. 虐待被害児の心理特性 | : 知能，パーソナリティ，トラウマ |
| 10. 犯罪被害者の心理特性 | : PTSD，解離，死別反応 |
| 11. 非行臨床の法的根拠 | : 少年法，児童福祉法 |
| 12. 非行臨床の実際 | : 触法少年，虞犯少年，性非行少年 |
| 13. 虐待臨床の法的根拠 | : 児童福祉法，児童虐待防止法 |
| 14. 虐待臨床の実際 | : 身体的虐待，性的虐待，心理的虐待，ネグレクト |
| 15. 犯罪心理学の限界と課題 | : 行動科学，方法論，エビデンス，（筆記試験） |

【事前・事後学習の内容】犯罪心理学の教科書を読んだことがあればその書籍，なければ臨床心理学や社会心理学など，過去に学習したテキストに記載されていた犯罪心理学関連箇所を再読した上で授業に臨んでください。

【評価方法】出席点は単位取得に係る資格の有無を判断する前提条件としてのみ使用する。
講義への積極的参加（30%）：筆記試験（70%）

【教材】↑参考文献↑ 笠井達夫・水田恵三・桐生正幸（編）（2012）．犯罪に挑む心理学―現場が語る最前線― Ver.2 北大路書房 ¥2,200円

【受講生へのコメント】

本講義は，犯罪という不快な現象を取り扱い，不快な議題・資料に触れる可能性があるため，各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定してください。特に，暴力犯罪や性犯罪についても取り扱いますので，了解の上，参加・受講してください。

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択C群科目」

【開講年度・学期】2018年度前期
【科目名】産業・労働心理学特論<産業・労働分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】Psychology in the Fields of Industry and Working
【科目ナンバリング】
【担当教員】弘田洋二
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

産業構造の変化によって、人々の労働環境の多様化も著しい。誰もがメンタルヘルスの失調に陥る可能性があるという認識が形成されようとしており、メンタルヘルスマネジメントに関わる諸事象について知る。

【授業の到達目標】

企業や組織においてなされるメンタルヘルスマネジメントの現状を知り、企業のカウンセラーとして機能するスキルについて認識を深める。

【授業内容・授業計画】

前半では組織におけるストレス、働く人々のおかれている心理的な状況について論じる。後半ではカウンセリングによるアプローチの特徴を論じる。

- #1 オリエンテーション：産業、就業構造の変化とストレス
- 2 オリエンテーション：ストレスについて
- 3 メンタルヘルスと企業の責任①：過労と労災
- 4 メンタルヘルスと企業の責任②：自殺と労災
- 5 ストレス反応と適応障害
- 6 心身症
- 7 うつ病とその病像
- 8 いわゆる「新型うつ」について
- 9 職場における対人関係
- 10 ハラスメントとジェンダー
- 11 パワーハラスメント
- 12 企業とカウンセラー
- 13 EAP とその活動
- 14 職場復帰プログラム
- 15 企業・組織で「はたらく」ということ

【事前・事後学習の内容】予習は特に求めないが、得た情報について考えること

【評価方法】授業中に適宜レポートを課し、あわせて最終レポートにより評価する。

【教材】指定しない。適宜、関連領域の実践家をゲストとして招聘する。

【受講生へのコメント】特になし

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「産業・労働分野に関する理論と支援の展開」

【開講年度・学期】2018年度後期
【科目名】健康心理学特論<心の健康教育に関する理論と支援の展開>
【英語表記】Psychological Education for the Insurance of Mental Health
【科目ナンバリング】
【担当教員】弘田洋二
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

子どもの虐待および不適切療育の防止、子どもの発達にあった学習の保障、いじめやハラスメントの防止に向けた取り組みが社会的に必要だと言われている。「こころの健康」に関連する教育、啓蒙活動について考える。

【授業の到達目標】

専門的機関でなされる心理治療的な対応以外に、家庭、学校、職場、地域における心理教育、生活支援によって予防的な取り組みの重要性を認識し、各現場での活動の特徴について知る。

【授業内容・授業計画】

まず、こころの発生、発達について理解する。ライフサイクルに応じて必要となる場への順応、適応に困難を生じる力動、周囲の理解や日常的な関係の営みの要点を論じる。

- #1 オリエンテーション：満たされるべきニーズについての社会的合意
- 2 乳児期のニーズと家庭環境
- 3 幼児期のニーズとしつけ
- 4 集団教育とおとな
- 5 個別ニーズに応じる学習保障
- 6 性の発達と主体性の尊重
- 7 不登校の増加とオルタナティブについて
- 8 思春期・青年期と社会：理想形成について
- 9 親ガイダンス
- 10 世代間伝達について
- 11 「キレル」ということ
- 12 「よりそい」と支援、教育の関係
- 13 機関臨床と地域臨床
- 14 社会関係表象とこころ
- 15 専門性と社会活動

【事前・事後学習の内容】授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】授業中に適宜レポートを課し、あわせて最終レポートにより評価する。

【教材】特に指定しない。参考図書、関係活動の紹介を適宜する。

【受講生へのコメント】関連領域でのボランティア（有償・無償）経験をもつことが望ましい。

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心の健康教育に関する理論と支援の展開」

【開講年度・学期】2018年度・通年集中
【科目名】心理実践実習
【英語表記】Practice of Clinical Psychology
【科目ナンバリング】
【担当教員】三船直子・篠田美紀・長濱輝代・後藤佳代子・羽下明日飛・落水一至
【授業形態】実習
【単位数】10単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

これまでに習得した心理臨床実践の基礎的理論の理解のもとに、心理臨床支援の実習生として、心理査定、心理面接、地域支援等々の実践に取り組む

【授業の到達目標】

臨床実践の各領域について理解を深め、の基礎を習得し、実習指導を受け、臨床実践への姿勢、技能を習得する

【授業内容・授業計画】

1. 外部実習、学内臨床心理実習において相談業務に従事する
2. 「ケースカンファレンス」「個人スーパーヴィジョン」「事前・事後実習指導」を通して、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈、心理支援を必要とする人への理解とニーズについて把握し、支援計画を作成する
3. 心理療法の理論的、実践的理解を目指す
4. 心理支援を要する人へのチームアプローチを習得する
5. 心理支援・相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、カンファレンス、報告書作成など）心理業務を全般の理解

【事前・事後学習の内容】

授業・実習の中で指示する。

【評価方法】

レポートならびに出席点

【教材】

実践内容に即して実習の中で提供する

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理実践実習」

【開講年度・学期】 2018年度・前期（隔年開講）
【科目名】 人間関係学特論〈家族関係・集団・地域社会における
 心理支援に関する理論と実践〉
【英語表記】 Advanced Studies of Human Relationship Psychology
【科目ナンバリング】 HGCPL6502
【担当教員】 三船 直子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成29年度以前入学者対象）

【科目の主題】

「人間関係」の観点からこころの発達と心理臨床について論じ、考察する。ライフサイクルにおける環境と人間関係に関する心理臨床支援の実際を、事例を通して考察していく。

【授業の到達目標】

精神疾患について、人間関係の観点から考察し、支援について考える力を養う。
 合わせて心理支援の倫理についても人間関係の視点から実践事例を用いて考察する

【授業内容・授業計画】

講義と演習を交えて進めていく。学生は課された課題についてレジュメを作成し発表し、ディスカッションを行う。以下の講義予定は授業の進行により、変更されることがある。

オリエンテーション	1
人間関係のゆりかご	2
環境としての母性と対象としての母性 家族の問題	3
心理臨床事例を人間関係から考察する	4
① 家族	5
② 学校	6
③ 職場	7
④ 地域	8
心理臨床実践における人間関係 倫理① 役立つとは	9
② 支援するとは	10
③ 来談者の立場	11
④ 支援者の立場	12
⑤ 困難事例	13
⑥ 協働する中で	14
心理臨床実践における二者関係と倫理のまとめ	15

【事前・事後学習の内容】

各自、課題の発表とその後のまとめの課題が課せられる。

【評価方法】

出席と課題およびレポートによる評価

【教材】

講義の中で指定する。また適宜、必要資料、課題を配布

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択C群科目」

【開講年度・学期】2018年度・前期集中（隔年開講 2018年度開講）
【科目名】 カウンセリング特論<心理支援に関する理論と実践>
【英語表記】 Studies of Advanced Counseling
【科目ナンバリング】 HGCPL6514
【担当教員】 三船 直子・大塚 義孝（非常勤講師）・氏原 寛（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以前入学者対象）

【科目の主題】

心理臨床実践にかかわる諸理論の技法と習熟を目的として講義を行う。心理臨床の主要な基礎理論、すなわち、精神力動的理論、行動論的理論、実存的—人間学的理論に関して、臨床心理学の発展にそいながら、人間行動理解のためのそれぞれの学派の理論的基礎概念を学ぶ。あわせて各理論の実践技法の実際について、文献による事例検討等を行う。

【授業の到達目標】

心理臨床の主要な基礎理論と技法について、基礎知識を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 対人援助学の発展と系譜
3. 心理臨床とカウンセリング
4. カウンセリングの理論
5. カウンセリングの技法
6. カウンセリングの有効性と限界
7. カウンセリングとアセスメント
8. 事例分析

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点

レポート：講義を踏まえたテーマでのレポート提出

【教材】

テキスト『臨床心理学原論』、関連資料は講義の際に配布

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理支援に関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】2018年度・後期集中（隔年開講 2018年度開講）
【科目名】心身医学特論<保健医療分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】Advanced Psychosomatic Medicine
【科目ナンバリング】HGCPL6519
【担当教員】三船 直子・黒川 順夫（非常勤講師）
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成29年度以前入学者対象）

【科目の主題】

精神現象を理解し対人関係援助へと導く基本概念として、心身相関の理解は必須のものといえる。本講義では、心理臨床の基礎となる心と身体の関係をどのように理解し、心理的苦悩の本質を理解するかについて、治療理論と治療技法を学ぶ。あわせて、心身症などの事例分析から、心身相関の理解にもとづいた全人的治療のあり方を習得する。

【授業の到達目標】

心身相関について理解し、心療内科での心理臨床実践についての基礎的知識を得る。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 心と身体の間関係（心身二元論と心身一元論の系譜）
3. 心身症概念への臨床心理的系譜
4. コミュニケーションにおける身体言語
5. 疾病のもつ心理的意味
6. 心身症発症の機序
7. 心身相関の心理臨床
8. 事例分析

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点 レポート：講義を踏まえたテーマによるレポート提出

【教材】

資料は授業で配布する

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「保健医療分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」

全コース共通

【開講年度・学期】 2018 年度・a（昼間クラス）前期 b（夜間クラス）前期
【科目名】 生活科学論ゼミナール
【英語表記】 Seminar on Human Life Science
【科目ナンバリング】 HHLS6501
【担当教員】 研究科長・大学院教務委員・西川禎一 ほか
【授業形態】 ゼミナール
【単位数】 2 単位（1 年次必修）
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

現代の世界における人々の生活と取り巻く課題をどう見るか。私たちが暮らす日本の生活と課題をどう見るのか。そして地球市民として世界と日本の生活を考えるとき、私たちはどのように暮らし行動すべきなのか。この明白な単一解を見出しえない命題について、食・健康科学、居住環境学、総合福祉・心理臨床科学の3つの専門分野の大学院生と教員が議論し模索する。このプロセスを通じて、各人がそれぞれの視座を確立し、専門に安住せず、多様な視点を有する人材と協働しながら生活課題に対して挑戦し続けることのできる基盤を形成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	第1回 研究不正防止・研究倫理について（岡田進一）	
2	生活科学論ゼミナール概論（西川）	
3	生活科学と食環境・1（薮島）	講義
4	生活科学と食環境・2（薮島）	課題発見・グループ討議
5	栄養学の外から見た食の効用と応用・1（西川）	講義
6	栄養学の外から見た食の効用と応用・2（西川）	課題発見・グループ討議
7	人口減少社会における空き家問題・1（松下）	講義
8	人口減少社会における空き家問題・2（松下）	課題発見・グループ討議
9	地震と住まい・1（渡部）	講義
10	地震と住まい・2（渡部）	課題発見・グループ討議
11	メンタルヘルスと生活科学・1（三船）	講義
12	メンタルヘルスと生活科学・2（三船）	課題発見・グループ討議
13	生活科学的対人援助: なぜする / 誰(何)にする・1（大西）	講義
14	生活科学的対人援助: なぜする / 誰(何)にする・2（大西）	課題発見・グループ討議
15	総括	ショートプレゼン・討議

授業日程表は第1回の講義時に通知するが、昼間開講コース、夜間コースともに4/16, 4/30, 5/14, 5/28, 6/11, 6/25, 7/9, 7/23の予定。第3～14回は全て講義と演習からなる。なお、夜間開講コースは、総合福祉科学コースの社会人大学院生に履修限定されるものではない。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中の質疑応答とレポート

【教材】

課題図書リストと資料を配布する

【受講生へのコメント】

“生活科学とは何か”について学修することにより、個々の研究に生活科学の視座を持ち、地球市民として思考を巡らせながら地域で活動するAdvanced QOL promoterを目指してください。

【開講年度・学期】2018年度・後期集中
【科目名】生活応用統計学特論
【英語表記】Advanced Statistics and Its Applications for Human Life
【科目ナンバリング】HHHLS6502
【担当教員】永村 一雄・佐伯 茂
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】可

【科目の主題】

居住生活の諸問題に統計学の知識を活かそうとすると、適用するための方法論とそれを運用する技量が必要となる。これらの基礎は、学部で履修することになっている。本特論は、応用や適用の実際を意識して、用いる方法論の本質的な理解を行い、運用の適否を判断できる能力を養う。

【授業の到達目標】

下記4項目の概念的理解を達成目標とし、口頭試問でそれを確認する。
基本統計量の内容、回帰の論理、検定の構造、ベイズ統計学の初歩

【授業内容・授業計画】

たんなる手段の解説や操作の教授は一切行わない。あくまで、運用の理解に徹する。そのため、適切な題材を対象に、討論形式で講義を進める。発表の時間と、黒板を使った解析の説明などを院生自身で体験してもらう。内容は主に以下の構成である。

1. 記述統計と推測統計 — 統計学がもつ意味を考える
2. 基本統計量の性質と意味 — 平均と期待値は違う!?
3. 高次モーメントとキュムラント表現 — 分散・歪度・尖度
4. 統計学の活かし方 — 探索型と検定型
5. 統計的検定の枠組と問題点 — 結果を恣意的に操作できる!?
6. 線形回帰の基礎 — 最小二乗法をつかって
7. 一般線形回帰への拡張 — 変数の制約を生かす
8. 回帰診断 — 残差の性質と診断
9. 林の数量化から一般線形回帰へ — モデル進化の足跡
10. 分類・判別への対応 — クラスタ分析・判別関数
11. パターン認識の基礎 — 理解とは?
12. 尤度 — もっとも理解しにくい概念
13. ベイズ統計のさわり — ベイズの定理とは?
14. 分布で考えるモデル化 — パラメータも分布する!
15. まとめと発展

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

毎回出席し討論に参加すること。また事例を用いた演習を課す。両者を総合して評価する。

【教材】

毎回資料を配布。

【受講生へのコメント】

記憶ではなく「理解する」という意味を実感するために本講義を行う。積極的に参加されたい。

【開講年度・学期】2018年度・前期集中
 【科目名】 国際科学コミュニケーション
 【英語表記】 Global Scientific Communication
 【科目ナンバリング】 HHHLS7501
 【担当教員】 ファーナム クレイグ・早見 直美
 【授業形態】 演習
 【単位数】 2単位
 【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

Course is a concentrated course over 4 days, with breaks between to allow students to prepare writing and oral presentation assignments.

【授業の到達目標】

To help graduate students write clear English-language research papers and present at English-language conferences.

【授業内容・授業計画】

This course will be conducted in English. Japanese-language consultation is available during office hours.

Each theme will start with written practice and oral practice of key phrases. Then, each student will do the complete oral presentation task, receive feedback from instructors and other students, and repeat the task with improvement.

Theme	Hours	Written work	Hours	Presentation practice
Research summary and background	2	Literature review Defining specialist terms	2	Self-introduction 1-minute summary of research for general/ for specialists
Describing processes	2	Describe a scientific process Describe an experimental procedure	2	Presentation basics 3-minute presentation of experiment or process
Data, Graphs and Charts	2	Explain numerical data Explain equations Explain charts	2	5-minute presentation of results or data
Discussion and conclusions	2	Make conclusions based on data Explain results in context of previous knowledge and expectations Explain unusual results Explain significance of results	3	5-minute presentation of results with conclusions and discussion
Question & Answer	2	Answering a peer review Most likely questions Responses for difficult questions	2	Answer questions Answer difficult questions Pose questions
Final presentation		2-page (A4) presentation outline	3	Each student gives 9 minute presentation with 5 minute question and answer

【事前・事後学習の内容】

Self-study and at-home oral practice is required.

【評価方法】

Class participation (40%) Writing assignments (30%)

Oral presentation assignments (30%)

【教材】

Some handouts from the instructors. Each student's individual research material and papers.

【受講生へのコメント】

Basic literacy with word processing, spreadsheet and presentation software (such as MS Word, Excel and PowerPoint) is necessary.

後期博士課程

【開講年度・学期】2018年度・通年集中
【科目名】後期特別研究
【英語表記】Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】HDASD8601
【担当教員】指導教員
【授業形態】通年
【単位数】10単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

博士学位論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、実験について体系的な知識・技術の修得と研究成果のまとめを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

院生それぞれに対し、研究分野に関連する学術論文の精読、研究課題の設定、研究計画の立案、実験指導等を行い、博士学位論文の完成に導く。あわせて「ゼミ形式」により各専門分野に関わる最新の研究成果の理解、把握を徹底させる。研究成果の学会発表、学術論文誌への原稿作成・投稿についても指導する。

1. 研究分野に関連する学術論文の精読
2. 研究課題の設定
3. 研究計画の立案
4. 研究実験
5. 研究成果の発表

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

博士論文の内容、公聴会での研究発表を通して総合的に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】2018年度・通年集中
【科目名】後期特別研究
【英語表記】Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】HEASD8601
【担当教員】指導教員
【授業形態】通年
【単位数】10単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

1年次は関連分野の研究成果を系統的に再整理し、学位論文の構成について検討する。また、はじめの副論文の作成を計画し、学会誌などへの投稿を計画する。2年次は学会誌などへの副論文の投稿を進め、学位論文作成の計画を具体化する。これらの過程を通して、研究の発展過程や学術論文の倫理性、実証性を学ぶ。3年次は投稿した副論文などを主要構成要素として、学位論文の作成を行う。

【授業の到達目標】

博士論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、調査、実験などの研究方法や分析方法についての体系的な知識・技術の修得、および研究者としての能力を高めることを目的とする。

【授業内容・授業計画】

1. 研究方法、関連する知識・技術の修得
2. 研究計画の立案
3. 実験・調査等の実施と解析
4. 副論文の作成と投稿
5. 博士論文の作成

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

日々の研究の進捗状況、副論文の内容、博士論文の内容、公聴会でのプレゼンテーション等を通して総合的に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】2018年度・通年集中
【科目名】後期特別研究
【英語表記】Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】HFASD8601
【担当教員】指導教員
【授業形態】通年
【単位数】10単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

博士学位論文の作成を指導する。1年次は、これまでの研究成果をふまえて系統的発展を促し、研究課題を設定する。研究課題に関する文献収集と講読を行い、関連する調査等を含め、博士論文の中核となる認定論文の作成を計画立てる。

2年次は、計画に基づいて研究を継続し、学会発表や学会誌等への投稿に向けた指導を計画的に行う。

3年次は、博士申請論文の具体的な執筆に向け取り組む。継続的な指導により、博士論文の完成を目指す。

【授業の到達目標】

博士論文の作成に必要な知識と執筆能力を習得する。

【授業内容・授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 論文作成計画
3. 学会発表や学会誌への投稿に向けた取り組み

4～15. 博士論文の執筆に向けた指導

【事前・事後学習の内容】

各講義の最後に各自が取り組むべき事後学習と事前学習の内容について指導する。

【評価方法】

博士論文の内容、公聴会での研究発表を通して総合的に評価する。

【受講生へのコメント】

博士論文の申請には、学術雑誌等への論文掲載が条件となる。したがって、学生自らが学会発表や学会誌への投稿など積極的な研究姿勢をもち、自らの学術的能力を高めるべく自己研鑽に努めることが大切である。

【開講年度・学期】2018年度・通年集中
【科目名】後期特別研究
【英語表記】Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】HGASD8601
【担当教員】指導教員
【授業形態】
【単位数】10単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可

【科目の主題】

博士論文作成のための理論的、技法的指導を系統的に行う。指導内容は、理論的展望によるオリジナルなテーマの選定、調査法の精緻化、実証データの演繹と独自の理論化となる。

1年次～2年次には、主に先行研究の展望を徹底的に行い、独自のテーマを設定していく。このテーマに関して、妥当な方法論の研究を行い、1年次後半にパイロットスタディを終了し、方法論の修正・検討を加える。修士論文で執筆した内容およびそれを進展させたものを学会で発表したり学会誌へ投稿したりする。その際、指導教員から入念な指導を仰ぐ。

3年次には、前述した論文および研究資料から演繹した独自の理論をもとに学会発表と学会誌への投稿に専念する。先行文献との関連から独自性を再評価し、科学的なオリジナリティを有する論文として章立て、内容に関する指導を行う。こうした課題を達成していくプロセスにおいて博士論文の完成を目指す。

【授業の到達目標】

最終の到達目標は学位論文の提出であるが、それに到る目標は専門学会誌等における（レフり付きの）学術論文の投稿と掲載である。学術論文作成の目安は、3～4本である。

【授業内容・授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 論文作成計画の精緻化
3. 学会発表の準備と実施
4. 大学・研究所紀要や専門学会誌への投稿準備と実施
5. 学会誌への掲載論文を中心とする博士論文の全体構成

【事前・事後学習の内容】

学会論文については査読委員からの評価があるので、その評価に基づいて論文の形式・内容について事後学習が不可欠となる。それは同時に、学位論文に向けての事前学習となる。

【評価方法】

博士論文、博士論文審査会でのプレゼンテーション、学位論文の公聴会をもって評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

博士論文の申請には、専門学会誌への掲載が必須条件となる。そのため、日頃、真摯に研究に取り組み、一本でも多く、専門学会での発表を行えるように心がけて頂きたい。

